

**学校法人 佑愛学園
愛知医療学院短期大学**

2016年度 授業評価レポート



2017/6/12

目次

■ 資料

1. 学生による授業評価アンケート設問項目
2. 学生による授業評価アンケートの回答方法
3. 学生による授業評価アンケートの実施要項
4. 学生による授業評価アンケートの実施要領

■ 授業評価レポート

1. 心の理解	5
2. 現代社会の理解	6
3. 外国語1 (英会話)	8
4. 外国語2 (韓国語会話)	9
5. 外国語3 (中国語会話)	10
6. 英文講読	11
7. 現代語コミュニケーション	12
8. 人間関係論	13
9. レクリエーション	14
10. 健康運動とスポーツ	15
11. 生物と環境	16
12. 生命の科学	17
13. エネルギーのしくみ	18
14. 解剖学	19
15. 解剖学実習	20
16. 人体触察法実習 (PT)	21
17. 人体触察法実習 (OT)	22
18. 生理学	23
19. 生理学実習	24
20. 運動学総論	25

21. 運動学Ⅰ（頭頸部・上肢）	26
22. 運動学Ⅱ（体幹・下肢）	27
23. 運動学実習（PT）	28
24. 運動学実習（OT）	29
25. 人間発達学	30
26. 一般臨床医学	31
27. 公衆衛生学	32
28. 臨床心理学	33
29. 内科学	34
30. 整形外科学	35
31. 神経学	36
32. 小児科学	37
33. 医療安全学・救急医学	38
34. リハビリテーション概論	39
35. リハビリテーション倫理	40
36. 社会福祉学	41
37. 障がい者スポーツ演習	42
38. 理学療法概論	43
39. 臨床運動学（PT）	44
40. 運動療法総論	45
41. 検査測定法	46
42. 検査測定法実習	47
43. 理学療法評価法	48
44. 理学療法評価法実習	49
45. 中枢神経系障害理学療法治療学	50
46. 中枢神経系障害理学療法治療学実習	51
47. 整形外科系障害理学療法治療学	52
48. 整形外科系障害理学療法治療学実習	53
49. 内部疾患系障害理学療法治療学	54

50. 内部疾患系障害理学療法治療学実習	55
51. 小児疾患系障害理学療法治療学	56
52. 小児疾患系障害理学療法治療学実習	57
53. 老年期障害理学療法学	58
54. 日常生活活動学	59
55. 日常生活活動学実習	60
56. 義肢装具学	61
57. 義肢装具学実習	62
58. 物理療法学	63
59. 物理療法学実習	64
60. 理学療法特論Ⅰ（神経生理学のアプローチ）	65
61. 理学療法特論Ⅱ（関節運動学のアプローチ）	66
62. 理学療法特論Ⅲ（筋生理学のアプローチ）	67
63. 理学療法特論Ⅴ（吸引・喀痰法）	68
64. 生活環境論	69
65. 地域理学療法学	70
66. 地域理学療法学実習	71
67. 作業療法概論	72
68. 作業療法研究法	73
69. 臨床運動学（OT）	74
70. 基礎作業学	76
71. 基礎作業学実習	77
72. 作業療法評価法	78
73. 作業療法評価法実習	79
74. 身体障害作業評価学	80
75. 精神障害作業評価学	81
76. 発達障害作業評価学	82
77. 作業治療学理論	83
78. 作業療法治療学実習	84

79. 身体障害作業治療学Ⅰ	85
80. 身体障害作業治療学Ⅱ	86
81. 身体障害作業治療学実習	87
82. 精神障害作業治療学	88
83. 精神障害作業治療学実習	89
84. 発達障害作業治療学	90
85. 発達障害作業治療学実習	91
86. 老年期作業療法学	92
87. 日常生活作業学Ⅰ	93
88. 日常生活作業学Ⅱ	94
89. 日常生活作業学実習	95
90. 高次脳障害作業治療学	96
91. 義肢装具作業療法学	97
92. 義肢装具作業療法学実習	98
93. 作業科学	99
94. 人間作業モデル論	100
95. リハビリテーション関連機器	101
96. 地域作業療法学	102
97. 地域作業療法学実習	103
98. 就労支援学	104

2016 年度 学生による授業評価実施要項

1. 実施目的

学生による授業評価アンケートは、FD&SD 委員会規程に基づいて行われ、アンケート結果を参考に授業の改善を図り、本学教育の質の一層の向上に資することを目的とする。

2. 実施方法

2016 年度開講科目を対象として、授業毎でアンケートを実施する。学生は、履修した科目のアンケートを web (Google フォーム) で回答する。

3. アンケート内容

- I 授業の内容について 5 問
- II 授業の方法について 5 問
- III 授業担当教員について 5 問
- IV あなたの受講態度について 3 問
- V あなたの学習態度について 2 問
- VI この授業についてのあなたの満足度 2 問
- VII 総合評価 2 問

4. 調査結果の集計 調査結果の集計は、FD&SD 委員会が行う。

5. 調査結果の配布 実施した専任教員および非常勤講師には、個人集計結果ならびに全学集計結果に成績平均点分布表 を添えて配布する。

6. 実施結果の公表 個人集計結果を除き、全学集計結果を本学ホームページにて公開する。

2016 年度
FD&SD 委員会

学生による授業評価アンケートの実施要領

(2 0 1 6 年度各科目 1 回)

学生の皆さんへ

「学生による授業評価アンケート」への協力をお願い

FD&SD 委員会

本学では「授業の質」を高めることを目的として、毎学期末に「学生による授業評価アンケート」を実施しております。このアンケートが皆さんの成績評価に影響を与えることは決してありませんので、安心して率直な回答をお願いします。本学の授業を、より良いものにしていくために自分の意見を反映させるのだ、という気概を持って真剣に取り組んで下さるよう、ご協力をお願い致します。

実施科目：

全科目・全クラス（但し、総合演習、卒業研究、臨床実習 等は特別な科目を除く）

実施時期：原則として授業の最後に

実施します。

実施方法：

履修した科目を web (Google フォーム) で回答します。オムニバス形式の授業の場合、担当教員別にアンケートは実施しません。

所要時間：

約 20 分程度

〈授業評価アンケート〉

I 授業の内容について

1. 授業の内容は、あなたにとって、興味深いものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
2. 授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
3. 授業の内容は、シラバス（講義概要）に沿ったものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
4. 授業の内容は、後輩にも推薦したいと思いましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
5. シラバスは、理解しやすい内容でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

II 授業の方法について

6. 授業の進み具合は適切でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
7. 授業中の教員の声は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
8. 板書（黒板）やモニター提示（パソコン）の量、文字の大きさ、書き方などは適切でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
9. プリントやビデオなどの補助資料は授業の理解を助けてましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない ⑥補助資料はなかった
10. 指定された教科書や参考図書、参考文献などの使用は適切でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

III 授業担当教員について

11. 講義の準備を十分にしていたと思いますか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
12. 意欲的に、熱意を持って取り組んでいましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
13. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない
14. 私語など授業を妨げる行為に対して適切な対応をしましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

15. 学生が質問、意見を述べられるような環境でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

IVあなたの受講態度について

16. この授業に対して熱心に取り組みましたか
①熱心に取り組んだ ②どちらかといえば熱心に取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり熱心に取り組まなかった ⑤熱心に取り組まなかった
17. 理解できない点などを質問しましたか
①その場で授業担当教員に質問した ②授業後に授業担当教員に質問した
③授業担当教員に質問していない
18. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか
①取り組んだ ②どちらかといえば取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり取り組まなかった ⑤取り組まなかった

Vあなたの学習態度について

19. この授業1回につき予習にどのくらいの時間をとりましたか (平均して算出してください)
1. 全くなし 2. 1時間未満 3. 1-2時間
4. 3-5時間 5. 6-10時間 6. 11-15時間 7. 16-20時間
20. この授業1回につき復習にどのくらいの時間をとりましたか (平均して算出してください)
1. 全くなし 2. 1時間未満 3. 1-2時間
4. 3-5時間 5. 6-10時間 6. 11-15時間 7. 16-20時間

VIこの授業についてのあなたの満足度

21. この授業を受けて、知識修得に満足していますか
①満足している ②どちらかといえば満足している ③どちらともいえない
④あまり満足していない ⑤満足していない
22. この授業を受けて、学習に達成感を得られましたか
①得られた ②どちらかといえば得られた ③どちらともいえない
④あまり得られなかった ⑤得られなかった

VII総合評価

23. この授業の総合評価を5段階でしてください。
①良い ②どちらかといえば良い ③どちらともいえない ④どちらかといえば悪い
⑤悪い
24. この授業の良かった点・改善すべき点などを自由に書いてください。

科目名 心の理解

□ 担当教員 山田 ゆかり

□ 出席者数 73

㊦ 集計データ結果について

授業の進行、声と話し方、提示、資料など、授業方法についての基本的な工夫が学生に受け入れられた結果となっている。数値データに基づく円グラフを見ると、項目 21（知識取得）の評価がやや低くなっており、興味を持って授業に取り組めたものの、確実な知識取得の実感までには至らなかったことが示唆される。授業の中で、2 年次開講の臨床心理学との関連を意識的に示すようにしているが、これら 2 科目の学修を総合した上で、知識獲得の実感や達成感が得られることが望まれる。また、学生の学修態度についての項目 11（講義準備）、項目 16（熱心さ）についても、まだ改善の余地があると思われる。授業を通しての実感としては、大規模クラスであるためか、学生個々のモチベーションに差があり、特に一部の学生の私語や「内職」が気になる。下記の自由記述でも学生自身が私語を問題ととらえていることが分かるが、学生の興味と集中を持続させるためにはさらなる授業方法の工夫が必要である。

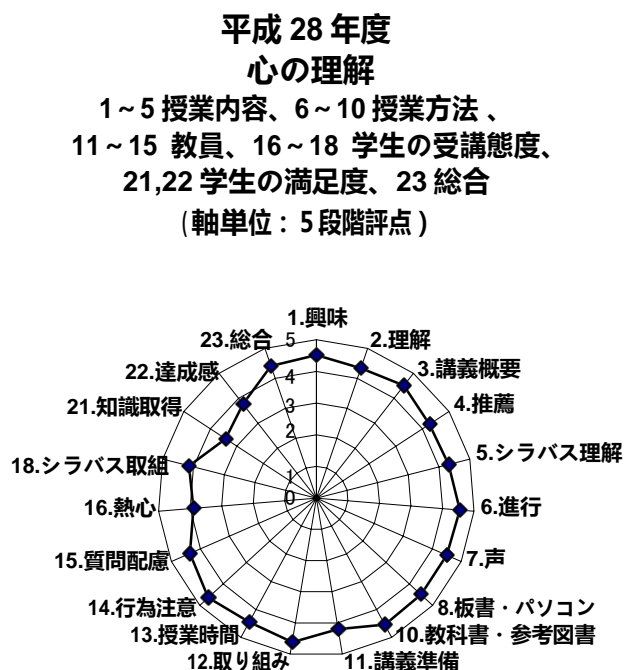
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

「体験的な要素が理解を助ける」「興味ある内容」「板書やプリント、話し方がわかりやすい」「おもしろかった」等の肯定的な記述が多くあり、授業内容や方法について評価されているようである。一方で、「私語を止めない学生は退出させるべき」「もっと注意してほしい」等の記述があり、授業に集中したい学生が私語を迷惑と感じている。ただし、その都度授業を止めて注意するやり方は進行の妨げになる。授業内容について、心理測定尺度の体験や実験的な要素を取り入れた場面では私語は止むので、大規模クラスのみならずこうした要素を積極的に取り入れる工夫をさらに持続したい。

㊦ 今後の改善に向けて

基本的には、現在の授業内容、授業方法が学生に受け入れられていると考える。しかし、モチベーションが高く理解力もある学生の満足度をさらに上げることと、私語が多く授業に集中できない学生や「専門科目」の課題が気になって「内職」に励む学生の目を授業に向けさせることのバランスを図りつつ、学修意欲を引き出す工夫が必要となる。

また今後とも、より理解を助けるような教材と内容の解説を工夫するとともに、折にふれて、積極的な予習・復習を促していきたい。



科目名

現代社会の理解

□ 担当教員 中根 多恵

□ 出席者数 56

㊦ 集計データ結果について

まずは「授業の内容」に関する項目から確認していく。「興味深さ」（問1）については「興味深いものだったと思う」が 〇 (N=28)、「どちらかといえば興味深いものだったと思う」が 〇 (N=23)、「どちらともいえない」が 〇 (N=5)であった。また、内容の「理解のしやすさ」（問2）については、「理解しやすいものだったと思う」が 58.9・ (〇=33)、「どちらかという理解しやすいものだったと思う」が 30.4 〇 (N=17)、「どちらともいえない」が 〇 (N=6)という結果であり、どちらも9割以上が肯定的な回答をしている。一方、「後輩にも推薦したいと思うか」という項目（問4）については、「そう思う」が 48.2 〇 (N=27)、「どちらかといえばそう思う」が 〇 (N=23)、「どちらともいえない」が 〇 (N=5)という結果以外に「そうは思わない」と1名が回答した点をしっかり留意したい。シラバスについては、問3（内容がシラバスに沿ったものであったかどうか）では「そう思う」が 〇 (N=37)、「どちらかといえばそう思う」が 〇 (N=15)であり、問5（シラバスの理解のしやすさ）では「そう思う」が 〇 (N=32)、「どちらかといえばそう思う」が 〇 (N=18)であった。次に、「授業の方法」に関する項目をみていく。「授業の進み具合」（問6）、「聞き取りやすさ」（問7）、「板書やモニター提示の見やすさ」（問8）、「プリントやビデオなどの補助資料」（問9）の項目ではすべて、肯定的な評価（「そう思う」および「どちらかといえばそう思う」の回答）が9割を超えていた。一方、「教科書や参考書、参考文献の使用」（問9）では、肯定的評価が 〇 (N=44)にとどまり、「どちらともいえない」が 〇 (N=12)であったため、今後は受講生のニーズに合った参考文献の紹介に力を入れ、その紹介の仕方も工夫していく必要がある。

「授業担当者」に関する項目は、「講義の準備」（問11）と「意欲的な取り組み姿勢」（問12）については肯定的な評価が 〇 であり、「開始・終了時間」（問13）と「私語などへの適切な対応」（問14）においてはともに肯定的な評価が9割以上であった。その一方、「学生が意見を述べられるような環境」（問15）については肯定的な評価が 〇 (N=38)にとどまり、「どちらともいえない」が 〇 (N=16)であったことから、質疑応答や学生どうしが議論する時間の設定を検討する必要がある。総合的な評価（問 〇 (N=53)）の受講生が「良い」あるいは「どちらかといえば良い」と回答した結果となった。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

この授業の良かった点については、「社会についてあまり考えたことがなかったので面白かった」、「社会の仕組みを知ることができた」、「わかりやすかった」、「たのしかった」など、授業の内容に関するコメントが多かった。とりわけ、「恋愛」をテーマにした回への評価が高く、受講生の身近なテーマへの関心の高さがうかがえた。

その一方、改善すべき点としては、「板書の線引きが難しかった」、「字が大きすぎる」など板書にかかるコメントが寄せられた。キーワードとなる用語を空欄にした穴埋め式のプリントを配布して、穴埋めの部分を板書しながら講義を進める形式でおこなったため、どの空欄にどのキーワードが入るのかを理解しにくいと感じた受講生がいたようだった。この点については改善を試みたい。

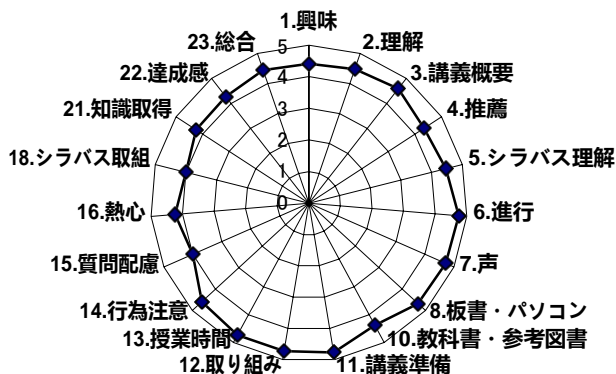
㊦ 今後の改善に向けて

まず早急に改善すべき点は、板書の仕方である。穴埋め式プリントに沿って授業を進める中で、空欄にど

のキーワードを書き込むのかを明確に指示するように努めたい。また、参考文献の提示についても今後は、受講生それぞれの興味関心に応じて自主学習ができるように、講義の内容に沿ってより一層幅広い範囲の文献を紹介していきたい。そして最後に、学生が意見を述べられる環境づくりも徹底していく。今年度はレスポンスカードを通して受講生からの意見や質問を受け付け、次回の冒頭でそれに対するレスポンスをしていたが、今後は授業のなかでも受講生が気軽に意見や質問をできるような環境が必要であるといえる。受講生が受動的になってしまう講義ではなく、普段から受講生と対話する時間も設けながら受講生の発言を促す努力をしていきたい。

平成 28 年度 現代社会の理解

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 外国語 1 (英会話)

□ 担当教員 JAMES HIGA

□ 出席者数 55

✧ 集計データ結果について

The majority of the students in the class seem to be satisfied with the class lessons. One reason could be that the lessons focused on what the students know and could understand. Using mostly English, the students were able to interacted and communicate with their classmates. The over-all atmosphere in the classroom was very positive and encouraging.

✧ 学生の自由記載の内容を検討した結果

✧ 今後の改善に向けて

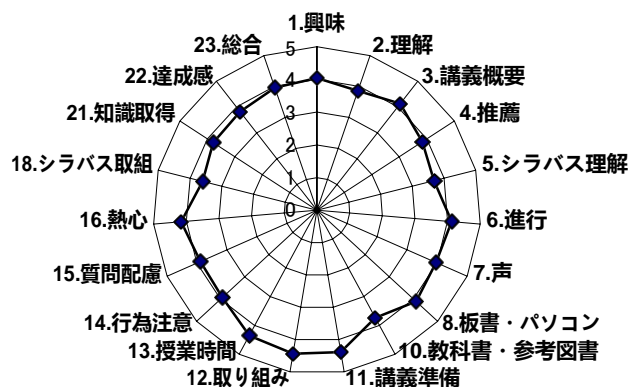
One thing that I would like to have is more opportunities to talk to each student individually. More one to one conversations and time to listen to what they have to say. However, with a class size of 50 plus students, there is not enough time to talk to everyone individually.

I appreciate the students' honesty and time that the students took to fill out the class evaluation.

平成 28 年度

外国語 1 (英会話)

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 外国語 2 (韓国語会話)

- 担当教員 金 春子
- 出席者数 40

✧ 集計データ結果について

韓国語を学生たちに教えるために色々な苦勞があります。8回の限られた時間の中で予定した内容を学生たちに履修させなければなりません。そのため、時間を無駄にできません。課題を出しても期待できないので授業中にハングルを覚えさせます。

1時間半の授業中、韓国語会話とハングルを教えます。ハングルを読めるようになるには、覚えようとする感心と少しの努力が必要です。幸いにも韓国語の授業を受ける学生たちは、韓国語にとっても感心があります。特に女子学生たちは習いたいという気持ちが伝わってきます。私は今まで4年間こちらの学校で韓国語を教えました、クラスの中に必ず一人よく韓国語を勉強している学生がいます。学生たちの間で韓国語が流行っているのでしょうか？

韓国語を教えることはまだまだ十分ではありませんが、学生たちの意見を取り入れ、随分改善されてきました。学生たちの率直な反応、高い評価に感謝します。

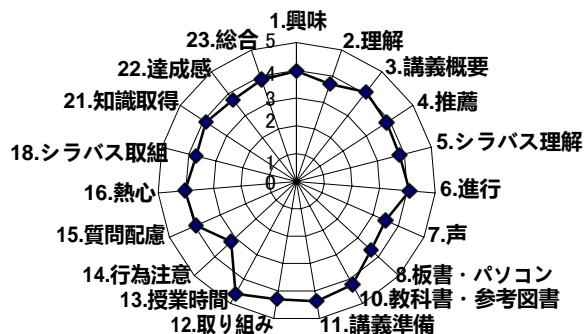
✧ 学生の自由記載の内容を検討した結果

授業中、無駄話で先生の話がよく聞こえなかったという意見が多く、無駄話をしている生徒に注意をするべきであったと反省しています。学生たちにあまり圧力をかけたくないのですが、学びたい学生の妨げになっているのは問題です。

✧ 今後の改善に向けて

全ての学生たちがハングルをマスターできるように改善していきます。覚えたハングルを発表させるなど改善を考えています。

平成 28 年度
外国語 2 (韓国語会話)
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 外国語 3 (中国語会話)

□ 担当教員 侯 英梅

□ 出席者数 13

㊦ 集計データ結果について

補助資料という項目の点数がやや低く、今後は学生達の学習ペースに合わせて補助資料を用意しようと考えております。興味という項目は5点をつけていただき、大変嬉しかったです。興味があれば、大変な勉強を苦にならず楽しく勉強でき、吸収も早く継続することもできます。中国語を第2外国語として学習する場合、限られた時間内で発音・基礎文法・会話も覚えるのはとても大変なことだと思います。如何に学生達に興味を持ち楽しく積極的に授業に参加してもらえるか、今後もいろいろと工夫しながら、授業の準備をしていきたいと思っております。

理解という項目の点数も高く、安心しました。中国語の発音が難しく、練習時間が限られ、基礎文法としての中国語の語順も日本語とずいぶん違い、授業の中でできるだけ分かりやすく説明をしましたが、学生達は本当に理解できたかどうか少し心配していましたが、今回のデータを見て安心しました。今後とも引き続き発音や文法を分かりやすく説明した上で、例文練習を通して学生達にしっかり覚えてもらいたいと思っております。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

「褒めてくれる」とか「優しい」とかいろいろ書いていただき、大変嬉しかったです。語学学習者は初めて学習した言葉の話そうと思うと、緊張しすぎてなかなか話せないことがよくあります。しかし、話せないと徐々にやる気がなくなってしまいます。中国語を第2外国語として選択した学生達はきっと興味を持って選んでくれたと思います。そのモチベーションや中国語に対する好奇心などをなくさせないために、どうやって授業を進めたらいいか常に考えています。褒めて伸びる学生はきっと多いと思います。学生が一所懸命に頑張ってきた発音や会話に対し、いつも励みながら指導し、また間違った発音や例文に対し、その間違いを訂正した上で分かるまで説明をしました。

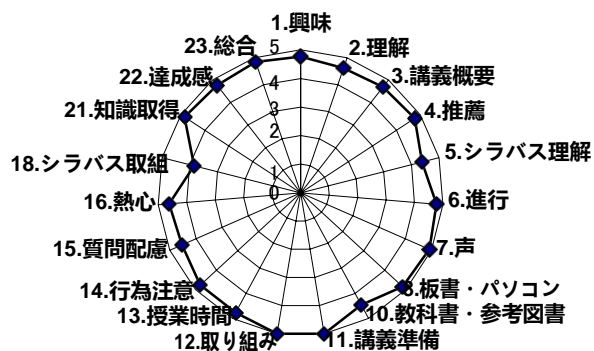
中国語の場合は、発音や語順など少し間違えたりすると、通じなくなったり、違う意味になったりすることが多いので、学生の間違いを徹底的に直すのも重視しています。自由記載を拝見し、厳しく指導したことに対して、学生達のご理解をいただいたこと本当に嬉しいことです。

㊦ 今後の改善に向けて

自由記載の中に不足なところを指摘したことはなかったですが、自分の反省点として、もう少し会話練習時間を作ってあげたらよかったですと思います。限られた時間を如何にもっと有効的に使うのは今後の課題です。先生として楽しく充実的かつ効果的なレッスンを提供することは仕事なので、テキストや補助資料や授業中の時間配分及び話す内容などもっとしっかり考えて作るべきだと思います。

来年度の授業まではまだ時間がありますが、授業のことを忘れないように普段から中国についての情報収集や授業に対するいいアイデアを考えておくべきだと思います。

平成 28 年度
外国語 3 (中国語会話)
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 英文講読

□ 担当教員 丹羽 重信

□ 出席者数 25

㊦ 集計データ結果について

英文講読の5段階評価の平均は概ね4で、これは例年と変わりがなかった。4プラス α の評価だったのは「講義概要」「シラバス理解」「進行」「声」「授業時間」といった中身の英語とあまり関係のない項目だった。これに対し、「推薦」「シラバス取組」「知識取得」「達成感」といった講義内容に関係するものは4マイナス α と芳しくなかった。

例年「行為注意」の評価が低かったが、本年度は平均と同じ4になった。注意を熱心にしたわけではない（講師にそのための体力が不足している）ので、受講の学生数が25名と例年に比べて少なかったことが原因だろう。講師が全員をいつも見渡しており、時には学生さんの座っている机の間に進み出て話をするので、結果的に大きな声で私語を続ける余裕がなかったと思われる。鳥居先生に注意をしていただく機会がなかったのは残念である。

「講義準備」と「取組み」が4プラス α に評価されたのは喜ばしい。小テストと英字新聞を用意して、講義の流れに変化をつけていることが歓迎されたようである。

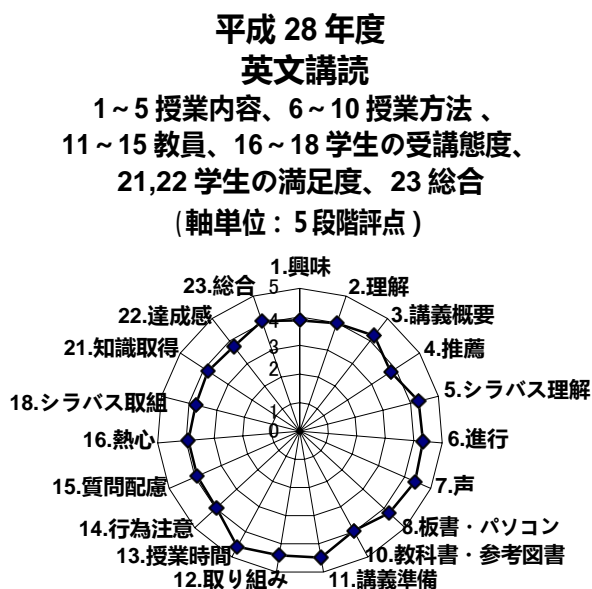
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

特になし。

㊦ 今後の改善に向けて

小テストと最終試験の結果から見ると、大多数の学生さんは文法・語法の基礎知識が身につけていないことが明らかである。かつては様々な規則や例外をうまく活用できていた人も、大学合格とともにその知識がフッとどこかに行ってしまったのだろう。繰り返し見直しをして定着させていく以外にないので、この講義がその1つの機会を提供することには意味があるだろう。

一方で、社会のグローバル化が進みつつあることを考えると、学生さんたちが将来、医療の現場で英語を必要とする場面の生じる可能性は高い。日常会話から医学用語や表現まで、実際的な知識をどのように講義の中で紹介できるかということは、きわめて困難ではあるが今後の課題だと考える。



科目名	<h1>現代語コミュニケーション</h1>
-----	-----------------------

- 担当教員 丹羽 重信
- 出席者数 58

☞ **集計データ結果について**

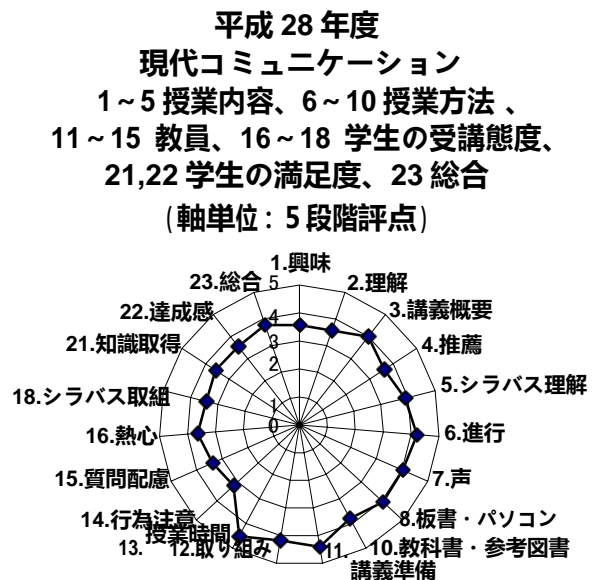
「総合」がほぼ4になっている点は昨年までと変わらないが、「行為注意」が3、「質問配慮」と「シラバス取組」が3.5となっている。近年、最初の講義は必ず「しーっ」(マイクに口を近づけ、これを長く、長くひっぱりながら学生の様子をじっと見る)ということから始めているのだが、学生さんはこれを初回だけのパフォーマンスと受け取っているようである。2講目からは、その効力がまったく消えてしまうのは情けない。自分たちがまるで幼稚園児か小学校低学年のように扱われているということを知り、恥ずかしいと思ってほしいのだが…一方、質問に関しては、いつでも途中で質問してもらってよいと考えているが、「いつでも質問していいよ」とは伝えていなかったことを反省する。「シラバス取組」という項目が、どうしているのかがよくわからないので、これについてはコメントを差し控えたい。

☞ **学生の自由記載の内容を検討した結果**

「明るい雰囲気の中で、いろいろなことを学ぶ」ということを大事に考えているので、学生さんのなかにそのような感想が出ているのは嬉しい限りである。歴史上、有名な科学者を取り上げているが、若い学生のなかには知らなかったという場合もあって(これは講義中にわかったことだが、特にマリー・キュリーを知らなかったという者が多い)時代の変化を感じさせられる。福島第1原発の事故であれだけ放射能が騒がれたのに、「放射能」の名付け親はお墓の中で泣いておられるかもしれない。女性の社会的地位向上に大きく貢献した人でもあるので、女子学生が知らないというのは驚きである。「敬語について反省させられた」という感想も見られたが、今回の試験で見る限り、敬語が適切に使えることが重要だとはわかっているがうまくできない、と感じている学生がほとんどのようである。

☞ **今後の改善に向けて**

「行為注意」を心がけるようにしたい。ただし、これが原因となって講義が暗い雰囲気に包まれるのは回避したいので、工夫が必要となる。今年の試験結果で明らかになった「敬語についての勉強と練習の不足」については、適切な教材を用意するようしていきたい。英字新聞の記事を読むことは、「使える英語」が求められる現代社会であることを考え、これからも続けていきたい。学生さんが世の中の動きを意識するきっかけにもなるだろう。



科目名 人間関係論

□ 担当教員 金子 幾之輔

□ 出席者数 62

㊦ 集計データ結果について

「授業内容」、「授業方法」、「教員」、「学生の受講態度」、「学生の満足度」、「総合評価」に関する全ての設問項目において、4～5の間の評価であったことから、相応の効果が得られたものとする。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の内容を全般的に見ると、「楽しかった」、「よく分かった」との記載が多かった。この点については、「授業は楽しく学ぶ」との小生の基本理念と符合しており、望外の喜びである。また、「人間関係についてよく分かった」、「良い人間関係の作り方やどうやったら相手が話しやすいか、どのように聞いたら相手が安心するか、というのが学べて良かった」、「対人援助の技術が得られた」との記載から、本授業の到達目標を熟知し、学修できたものと思われる。さらに、「自分のためになり今後活かせる」、「今後の研修や就職した際にはもちろん、日常生活でも活かせる知識が多かったので、とても良かった」との記載からは、本授業内容の有用性を実感できたものと推察される。

このように肯定的な見解が多く示された一方で、「説明が少し回りくどく分かりづらかった」、「学生の中で発表者が出ない時、授業が進まなくて困るなど何回も言っていたが、もう少し違う形で学生の発表を促してほしい」等の指摘もあった。このことは、授業内容や授業方針を学生に十分理解してほしいとの願いと焦りによるものであったと反省している。少数意見とはいえ、貴重な指摘であり、今後、配慮していく意向である。

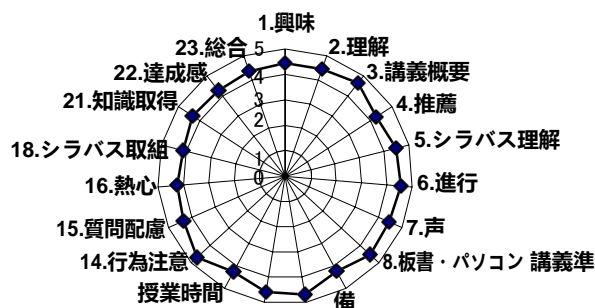
㊦ 今後の改善に向けて

前述の肯定的な見解が、より一層多くの学生から得られるように精進するとともに、指摘された点については、もう少し簡潔に説明したり、発表の促し方を工夫したりするなどして、改善していく方針である。

平成 28 年度

人間関係論

1～5 授業内容、6～10 授業方法、
11～15 教員、16～18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 レクリエーション

□ 担当教員 美和 千尋・港 美雪

□ 出席者数 65

㊦ 集計データ結果について

集計データから以下の3項目が気になった。①授業の時の教員の声が明瞭でない。②指定された教科書や参考図書について使用が適切でない。③学生が質問や意見を述べる環境でない。この3点の理由について、学生数が65名が多く、声が届きにくかったりしたことが挙げられる。また、演習科目であるため、講義と異なり学生の自主性に任せたため、まとまりがつきにくかった。人数の多さは、意見を聞く、述べる機会を減らしたと考える。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

良い面の意見が全てで、「楽しかった」「計画することが身についた」「他の学生との交流ができた」「学校だけではなく、屋外での経験ができた」「実習で生かしていきたい」「自分から取り組むことができた」「コミュニケーション能力が向上した」「新しい授業で新鮮だった」などである。授業自体を学生が組み立てることに主眼を置いた結果であると考えられる。

㊦ 今後の改善に向けて

集計データと自由記載より、以下の点について来年度の授業を考える。

- ・演習科目としては受講学生が多いので、受講人数を減らすため定員を検討する。具体的には40人ぐらいが妥当の人数と考える。
- ・教科書の使用が十分できなかったのので、来年度の教科書の選定を考える。
- ・学生が意見を述べる機会を設けるための時間を設けるようにする。



科目名 健康運動とスポーツ

□ 担当教員 鳥居 昭久

□ 出席者数 40

㊦ 集計データ結果について

概ね4点以上で、全体としてもバランスがとれていると考えられる。

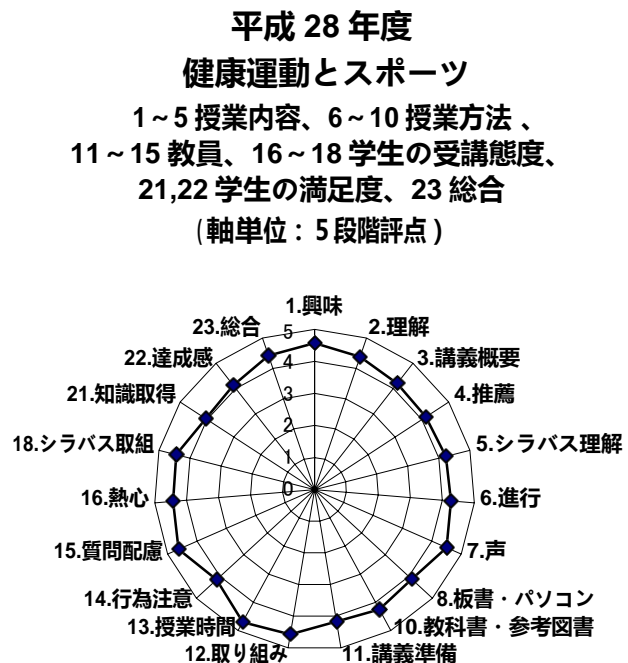
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

実技を加えて、ただ漫然とやってきたスポーツを医学的に検証していくことを目的として実施した。しかし、解剖学、運動学が修了しているにも関わらず、その知識を応用して理解できない学生が少なくなかったと感じている。一方で、興味を持って取り組んだ学生も少なくなく、理学療法士、作業療法士の学びとして有効であろう。

いつもながら、滑舌の悪さ、早口について指摘されている。かなり意識して改善を目指しているが、講義が熱くなるとついつい悪いクセが出てしまうようだ。今後も改善をしていくように努める。しかし、学生側も聞く姿勢として、与えられるのを待っている者が少なくないので、限られた時間内で実施する講義の中で、多少の早口でもそれを聞き逃さないで、吸収する態度も求めたい。

㊦ 今後の改善に向けて

実技での積極的な取り組みを学生に求め、実技を多くしたいと考えている。



科目名 生物と環境

□ 担当教員 石黒 茂

□ 出席者数 18

㊦ 集計データ結果について

授業が「興味深いものだったか」「理解しやすいものだったか」については、ともに約9割が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」としており、総合評価では約8割が「良い」「どちらかと言えば良い」としていることから、良好な講義であったと評価できる。

また、「知識の修得に満足しているか」については「満足している」「どちらかと言えば満足している」と答えた者が約8割、「学習に達成感を得られたか」についても「得られた」「どちらかと言えば得られた」合わせて約8割であった。この講義自体、知識の習得よりも科学的な見方・考え方を身に付けることを目指しているため、知識の修得については仕方のない面はあるが、達成感については今ひとつ物足りない数字であり、今後に向け考慮すべき余地がある。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載なしのため評価できず。

㊦ 今後の改善に向けて

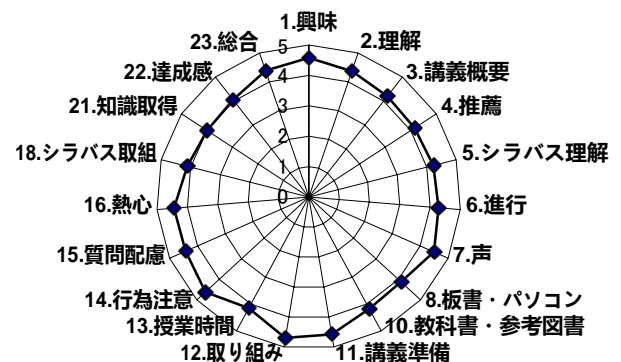
今回の講義は、途中で冬休みや祝日が入り、一連の講義が細切れになり、講義の流れを作りにくかった。何回かの授業を一まとまりとして講義が組み立ててあると、講義と講義の途中に間が空いたとき、間延びしてまとまりがなくなってしまうので、1コマずつでも授業内容が完結できる工夫をしておく必要があった。

また、今回は、グループ・ディスカッションをさせるときに、人員配置に工夫が必要であることを感じた。

平成 28 年度

生物と環境

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 生命の科学

□ 担当教員 石黒 茂

□ 出席者数 78

㊦ 集計データ結果について

学生の実態に合わせて、本年度から生命についての概念の形成に主眼を置き、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行っている。集計データを見ると、総合評価では「良い」「どちらかといえば良い」が合わせて78.2%、「悪い」「どちらかといえば悪い」は合わせて1.3%であり、ほぼ満足の行く結果であった。しかし、「知識の習得」が「満足」「どちらかといえば満足」を合わせて74.4%であることは、概念の形成に主眼を置いたとは言えやや物足りないものがあつた。次年度に向け、評価方法も含めて授業内容や方法の検討を進めたい。また、「授業外の学習の時間」も復習を「まったくしていない」と回答した者が35.9%も存在するなど、個別に見ると今後に向け検討すべき課題も多々見られる。

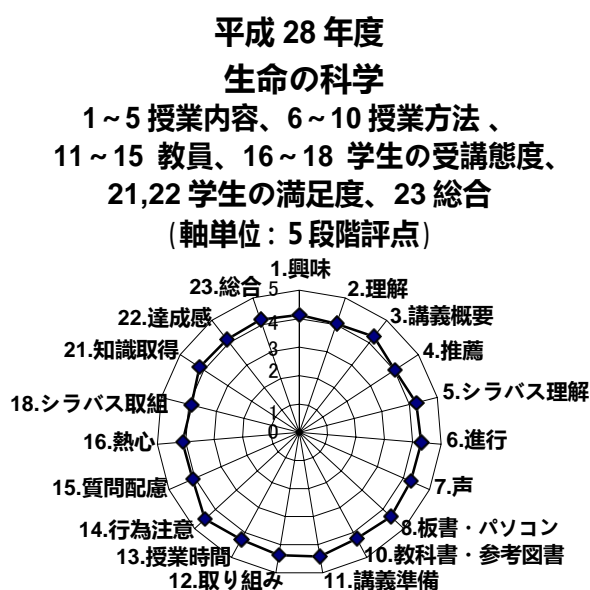
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の方法については「動画やプリントなどの教材が理解を助ける」という意見が多かつた。グループワークも好評であり、「生命についてしっかりと考えることができた」などの記載が見られた。授業での学習を振り返らせ、頭を整理させるため、毎時間提出させているポートフォリオについては「時間がかかり大変だった」という声があつた。その作成にはそれなりの時間がかかるからである。それにも関わらず復習を「まったくしていない」と答えた者が35.9%も存在するのは、ポートフォリオの作成を学習ととらえていないことの現れである。ポートフォリオには「役に立った」「自分の知識を深めることができる」などの肯定的な声も多く、グループワークと同様に今後も継続していきたい。

授業の内容や説明については「わかりやすかつた」という記載が多く見られたが、他方「内容が難しく理解するのが大変かつた」という記述も見られた。高校時代の理科の履修状況や学力差が多様化している今、学生全員のレベルに合った授業を行うのは難しいが、できるだけ平易に説明できるよう検討を進めたい。

㊦ 今後の改善に向けて

授業のレベルを落とさずに多様な履修者を満足させることは容易でないが、シラバスの段階から学習内容や教材の検討を進め、改善に努めたい。一方、学生の中には、高校までの暗記に頼るような学習方法から脱却できていない者が少なくない。そのため、ポートフォリオで自分の学びを振り返ることの意義が分からずに終わっている者もいる。学生が医療短大でリハビリテーション科学を学ぶための基礎を作るには、初年次の授業で、学習に対する意識を切り変えることも重要である。そのための方策の検討も今後行っていく。



科目名 エネルギーのしくみ

□ 担当教員 後藤 理夫

□ 出席者数 78

㊦ 集計データ結果について

総論としては、学生が気を遣って答えてくれているかなとおもいます。私の講義姿勢は「日常生活の目線から入って、理論的数値的にも理解できようように展開しつつ将来につながる事柄をイメージできる」事に重点を置いた講義を目指した。この点が学生の「気を遣い」につながったと感じます。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

1 大多数の学生は、「プリント学習の内容がゆっくり丁寧解説で理解できた」また「復習課題プリントで演習問題もあり理解を深めることができた」と答えているようです。

当初より予習はしなくても授業に集中し、復習に力を入れるように指導していました。

2 初めて物理を学ぶ学生も数名いたようです。高校物理が不消化状態の学生もいましたが、「説明がわかりやすく丁寧で理解ができました」と答えている。

以上、全体的には当初の目標を達成することができたと思います。しかし、一方で3～4名の学生にとっては負担が大きかったようである。

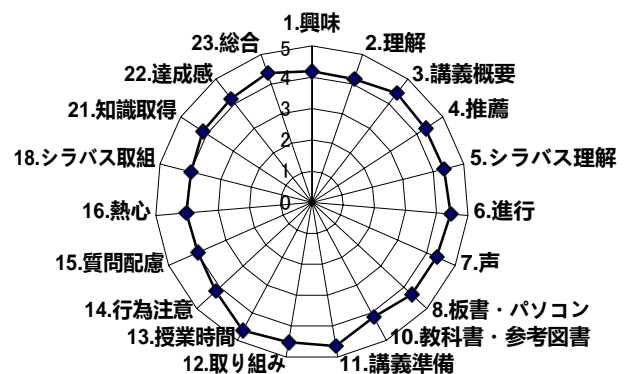
㊦ 今後の改善に向けて

板書について「字が下手くそ、汚い」は、いまさらどうしようもないと開き直り、「丁寧な板書」を心掛けたい。日常生活で使うような物を使った演示実験を多く取り入れたい。

平成 28 年度

エネルギーのしくみ

1～5 授業内容、6～10 授業方法、
11～15 教員、16～18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 解剖学

□ 担当教員 清島 大資、草川 裕也

□ 出席者数 79

㊦ 集計データ結果について

総合評価において、「良い」が約34%、「どちらかと言えば良い」が約32%、「どちらとも言えない」が約24%だった。概ね評価は良好である。しかし、「どちらかと言えば悪い」が約9%、「悪い」が約1%あった。全体で1割の学生には不評となっている。自由記載に進むスピードが速くて追いつかなかった、勉強する量が多すぎてついていけなかったなどの指摘が見受けられたため、それらの学生には不評となってしまったのではないかと考えられる。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

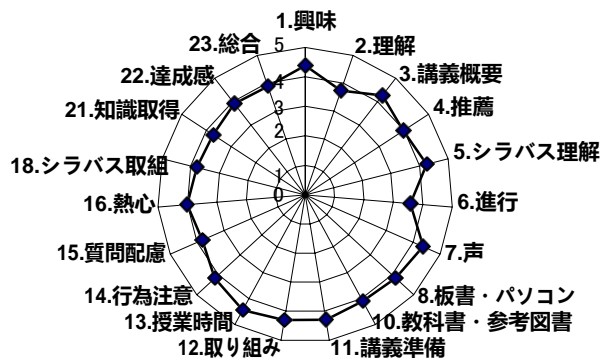
この授業では前期で解剖学の全範囲を終えるため、予習・復習がしやすいように教科書に沿った授業を行った。また、授業時間内に終わらせるため、中間テスト、小テストなどを行わなかった。さらに、授業後には必ず質問等の時間を設けるようにした。しかし、学生の意見として、「教科書に書いてあること以外も講義内でしゃべってほしかった」「中間テストや小テストを実施してほしかった」等のコメントがあった。かなりの学生が「授業スピードが速かった」と感じているようであった。毎回授業時、学生からの質問時間ではほとんど質問がでなかったため、学生自身で疑問に思うことややりたいことは発言してほしかった。

㊦ 今後の改善に向けて

カリキュラムの都合上、前期で解剖学を終了させることを変更することができない。よって、教科書に沿った授業形態を大きく変えることは困難である。授業についてきやすくするため、①授業開始前にキーワードを配布し、予習・復習をしやすくする、②小テスト・中間試験を実施するなどの改善を図っていきたい。

解剖学は暗記になりやすいが、理解する授業を行っていきたい。

平成28年度 解剖学
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位: 5段階評点)



科目名 解剖学実習

□ 担当教員 藤森 修、鳥居 昭久、木村 菜穂子、清島 大資、堀部 恭代、草川 裕也

□ 出席者数 77

㊦ 集計データ結果について

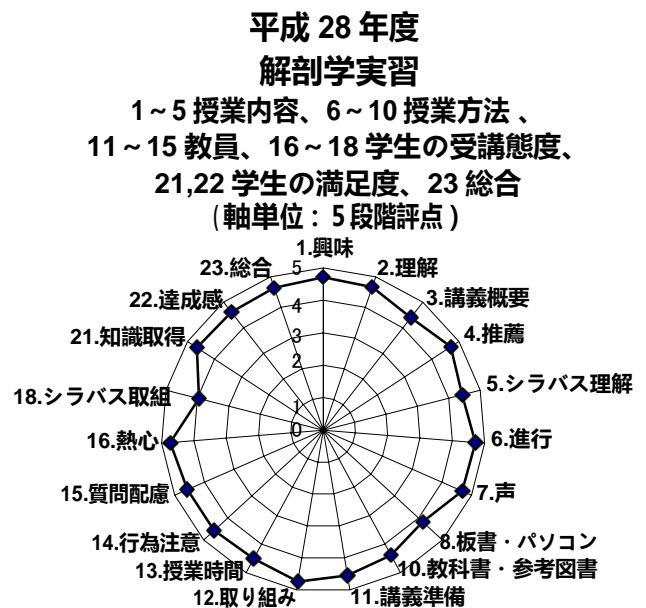
概ね良好な点数である。日程・シラバス内容が若干変更になってしまったことがあったことが反省点として残る。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

解剖学の導入ということで、骨標本を使用しての実習であり、最初は緊張感も強かったが、医学を学ぶ者としての自覚や責任は育まれたと思いたい。実際に覚えなくてはならない内容が多く、戸惑いや、苦労は有ると思うが、基礎的な事項でありしっかり勉強すべきであろうと考える。

㊦ 今後の改善に向けて

デッサン中に終わった者が遊びにならないように、しっかり指導を行う。



科目名 人体触察法実習 (PT)

□ 担当教員 松村 仁実、木村 菜穂子、清島 大資、山田 南欧美

□ 出席者数 52

㊦ 集計データ結果について

すべての評価項目において4点以上でありバランスがとれていた。授業の理解のしやすさでは4点前半とやや低めであった。基礎知識を使いながら、実際に体の理解を深めるための実習形態であるため、今までとは違う戸惑いとして理解している。その中では比較的理解ができていると判断できた。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

前年の反省を活かし、用語の理解を深めるための時間を割り、小テストを頻回に行った。また、学生同士が知識の共有を促すための取り組みとして、全員が最低ラインをクリアするまで、同じ形式での小テストを繰り返した。結果的にクラス全体の利用の理解や使い方に関しては底上げができた。最終的な成績には各自の結果を反映させていたが、途中経過の段階では、学習意欲を下げるとの判断で説明を控えた。そのため学生からは、各自の成績のみの評価に反映すべきとの意見も多くみられた。

授業内の実技のデモンストレーションは1名の教員が実施し、全学生がそれを聴く形式をとった。積極的に見える場所に行くなど、自身の意欲を高めることも目的とした。質問や確認をしやすいように、複数の教員を配置しているが、グループなど少人数でのデモンストレーションを希望する声も見られた。

㊦ 今後の改善に向けて

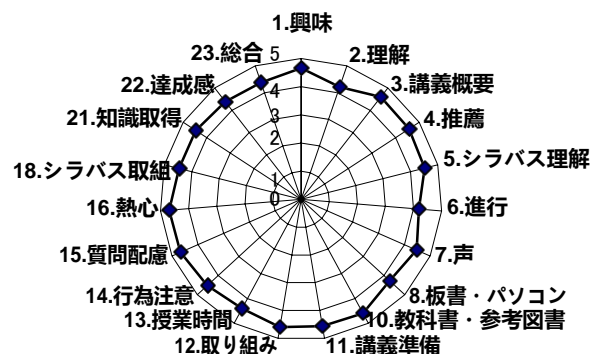
限られた時間の中で、最低限の知識と技術を身につけることが必要になる。小テストに関しての意見は多かったが、最終的に知識の底上げができた。この方法は改善の余地があると考えられる。できた者が成績に結びつかない点は意欲につながるため、グループ学習による促しを考える。デモンストレーションをグループで実施することは難しいので、実技練習の際の複数

の教員の介入方法を積極的に行うことで対応していく。

平成 28 年度

人体触察法実習 (P T)

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 人体触察法実習 (OT)

□ 担当教員 堀部 恭代、草川 裕也

□ 出席者数 28

❖ 集計データ結果について

概ね 4.5~5 という結果であった。その中で「質問配慮」「板書・パソコン」という項目が低かった。まず「質問配慮」に関しては、30名いる学生に対し科目担当教員が2名と少なく、十分に学生に対応できなかったことが考えられる。また「板書・パソコン」に関しては、教科書を読み返しながら復習をして欲しいとの思いを込め教科書の記載内容を中心に講義を進め、板書やスライドを使用しなかったことが考えられる。

❖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

ポジティブな意見としては「質問しやすい雰囲気が良い」「説明が分かりやすい」「実践的で楽しい」などの意見があった。反対に「もっと詳しく学びたかった」という意見があった。前項の集計データ結果では、「質問配慮」が4点と低くかったが、自由記載では「質問しやすい雰囲気が良い」「説明が分かりやすい」との意見が多かった。本実習では、分からないところがあれば学生が教員を呼び、説明を求めるという進め方をしていたが、教員を呼び止められない学生にとっては、分からないことの解説を受ける機会が少なかったものとする。

また、本実習は時間数が少ない中でも学生に、触察に興味を持って学習に取り組むきっかけを作りたいとの思いから、身体の一部について詳細に取り上げ、その部位について「分かる」体験を重視した。「もっと詳しく学びたかった」との意見が出たことについては、興味を持ったことの現れであり、良い反応と捉えている。

❖ 今後の改善に向けて

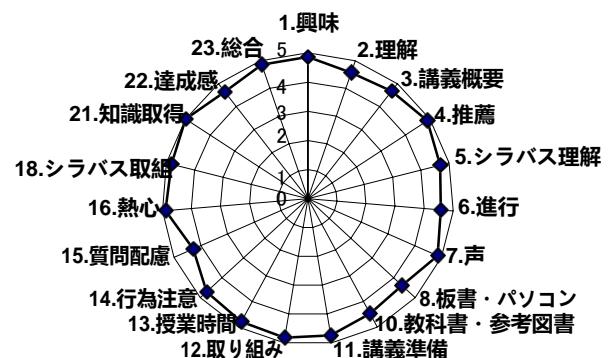
本実習は実習時間数が少なく科目担当教員が少ないため、実習時間内に全身の筋触察を行うことはできない。そのため本実習では学生が触察に興味を持ち、自ら学習を進めるきっかけを作ること为目标としている。この目標を学生と十分に共有し、教科書中心に実習を進めることや身体の一部を詳細に取りあげることの意図を十分に説明

し、実習を進めていく必要があると思われる。また、教員を呼び止めにくい学生に対しても、教員が積極的に声をかけ、興味を持ってもらえるように働きかける必要があると考える。

平成 28 年度

人体触察法実習 (OT)

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位: 5段階評点)



科目名 生理学

□ 担当教員 宮津 真寿美

□ 出席者数 77

㊦ 集計データ結果について

総合評価において、「良い」が約60%、「どちらかと言えば良い」が約25%、「どちらとも言えない」が約15%だった。学生の評価は良好である。項目別にみると、多くの項目が平均4点以上だが、8. 板書・パソコンの項目だけ、4点に達していない。自由記載に、ホワイトボードに書く説明の図や文字が小さかったという指摘が複数名ある。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

この授業では学生の予習を基にした反転授業を行った。予習時間をみると、3-5時間が40人、6時間以上が10人いる。学生はかなりの時間を使って予習している。それに対する不平を予想していたがほとんどなく、「予習によって準備をすることで理解が深まった」等、前向きな意見が多い。また、グループワーク、小テスト、中間テストも高評価である。「わかるまで教えてくれたのが楽しい」「理解しやすかった」「質問しやすかった」「勉強しやすかった」等のコメントがあった。

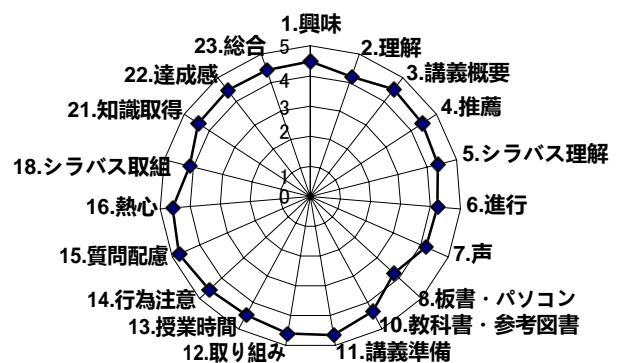
マイナス意見として、「グループワークの時間が長かった」という意見が若干名あった。また、「予習での理解が合っているかどうかわからなかった」との記載がある。この点に関しては、グループワークで理解の確認をし、さらに私への質問時間もあったので、それは学生の方から確認して欲しかったと思う。

㊦ 今後の改善に向けて

学生評価が良好であったこともあり、来年度、授業構成を大きく変えないつもりである。ただ、時間配分において、グループワークを若干減らし、私が講義する時間を増やそうと思う。また、質問に対する解説の際、図や文字を大きく書くように心がける。

学ぶことは楽しいと思うように、さらにわかりやすくアカデミックな授業を目指す。

平成28年度
生理学
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 生理学実習

□ 担当教員 清島 大資、宮津 真寿美、美和 千尋、堀部 恭代

□ 出席者数 72

㊦ 集計データ結果について

すべての項目において、5段階評点の4段階以上となっており、概ね評価は良好である。授業内容の理解、学生への質問への配慮、学生の達成感が他に比べ、やや低い評価となっていた。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

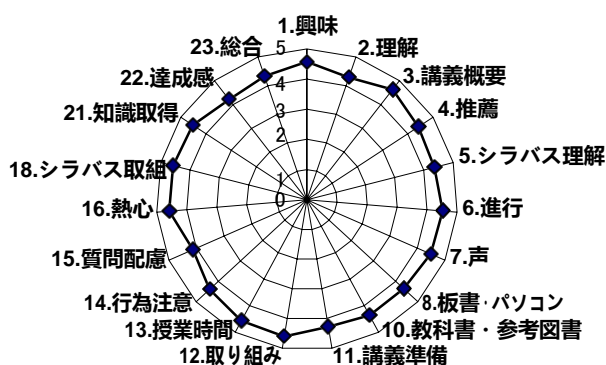
この授業では、前期の生理学で学習した内容を実際に体験するため、人だけでなく、実験動物を利用して複数の実験・実習を行い、その結果を解釈・考察することを目的に授業を行った。授業の最後には各項目の担当を決め、発表会を実施し、レポート記載が苦手な学生に対しても議論できるような場所を設けた。学生の意見からも、「実際に体験し、寄り知識を深めることができた」等のコメントがあった。その反面、グループで実験・実習を行うため、実験・実習に積極的に参加する学生とそうでない学生がおり、学生からも参加しない学生がいると負担が大きくなる等のコメントがあった。しかし、担当教員の人数を考えると、グループの人数を大きく減らすことは難しい。実験・実習へ参加しない学生に対しては、教員からも注意するが、学生自身で注意しあえるような環境を作してほしい。

㊦ 今後の改善に向けて

グループの作成の仕方は検討していきたいと思う。また、学生の実験・実習への参加意欲を高めるため、生理学で学んだ「どの知識を活用するか」など、キーワードを実験・実習前に説明するなど工夫を図っていきたい。学生から提出されたレポートに関しても、できる限り丁寧にフィードバックを行い、正常な人体の構造と機能について理解し、説明できるように工夫を図っていきたい。

平成 28 年度 生理学実習

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 運動学総論

□ 担当教員 堀部 恭代

□ 出席者数 79

㊦ 集計データ結果について

概ね、4.5平均の評価であるが「板書・パソコン」「補助資料」「シラバス取組」が4点と低かった。「板書・パソコン」「補助資料」が低かった理由としては、はじめて80名を対象とする講義をしたため、パワーポイントの文字の大きさをどのくらいにして良いのかが分からず、小さな字で書いてしまったことが考えられる。また、「シラバス取組」についての評価が低かった理由は、時間を割くところ、あるいは時間をかけなくて良いところの重みづけができず、シラバス通りに進まなかったことが挙げられる。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

ポジティブなフィードバックとしては「説明が分かりやすかった」「実際にからだを動かしながら学べたのが良かった」「毎回授業の最後に小テストがあったので集中して聞けた」「質問しやすい環境だった」などが見られた。反対に改善すべき点として「小テストをその日の授業の最後に行なうのではなく、次の授業の初めにやった方が復習になる」という意見があった。授業に集中できるように、また、その日のうちに分からないことを解決できるようにと、その日の授業の最後に小テストを実施した。小テストを次の授業の初めにしてほしいとの意見もあったが、授業に取り組む様子を見ていると集中している者が多く、また、その場で理解しようと質問してくる者も多く見られたため、良かったのではないと思う。

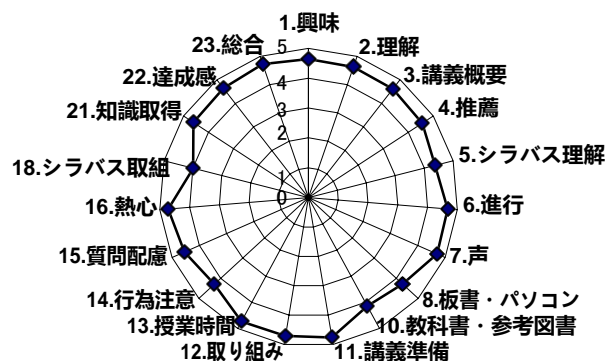
㊦ 今後の改善に向けて

今回、80人の前で授業をする機会をいただいた。教室の前の方だけで話していると、後ろの方に座る学生の集中力が散漫になっていることが見て取れたため、教室内を歩き回って話すようにするなど試みた。

その結果、後ろの方に座る学生からも多く質問が出たが、質問に応えることで授業の進行が遅れることもあった。質問は紙に書いてもらい掲示板などで答える等の工夫も必要であると思う。

平成 28 年度 運動学総論

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 運動学 I (頭頸部・上肢)

□ 担当教員 山下 英美

□ 出席者数 71

集計データ結果について

I 授業の内容、II 授業の方法は4点前後、III 授業担当者は4点台後半、IV 受講態度は4~5点、VI 満足度及びVII 総合は4点台後半という結果となった。

授業担当者としての評価は悪くは無いが、授業の内容や方法に関しては、改善の余地があるのではないかとメッセージが感じられる。結果として、「知識修得」は67%、「達成感」は74%の学生が、「満足・どちらかといえば満足」と回答しており、ある程度の評価はできるかもしれない。

学習時間に関しては、50%の学生が予習を全くしなかったと答えており、53%の学生が1時間未満しか復習しなかったと答えていた。復習形式の小テストを実施したが、学習時間の確保には、なかなか結びつかなかったといえる。

学生の自由記載の内容を検討した結果

「授業が面白かった」「覚え方も一緒に教えていただき、とてもよかった」「熱意が伝わってきて、頑張らなければいけないと意欲が湧いた」「詳しく説明してくれて分かりやすかった」といった肯定的な記載も多くあり、具体的には「骨模型」「自分の体を使ってやってみること」「プリント」「教科書のイラストの色分け」「筋肉を絵でかくこと」が理解を助けたとの記載も複数あった。しかし、「骨模型を自分たち自身で触ったり動かしたりしてイメージを作った方がわかりやすい」「プリントに画像を入れるとわかりやすいのではないか」といった記載も複数あった。これらは検討の余地があると考えられる。

小テストに関しては「前回の授業の確認ができた」「復習ができた」との記載があり、こちらの意図が反映された学生も見られた。

私語に対する対応に関しては、「注意に時間をかけすぎだ」との記載が複数あったため、適宜改善していく。

また、「手を詳しく勉強するのではなく、上肢全体を満遍なく勉強したかった」「PTとOTそれぞれに必要なこと

とは異なるので、それぞれに合ったカリキュラムを組んで欲しい」といった記載も複数あった。

今後の改善に向けて

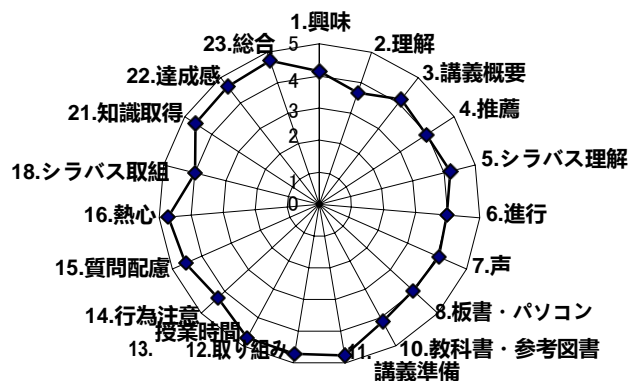
授業方法に関しては、できるだけアクティブ・ラーニングを取り入れていきたいが、伝える内容も多く、ポイントを絞って行っていきたい。また資料などもさらに工夫を続けたい。例年、手の部分が分かりにくいという意見が多いため、今年度は特に手指の部分に時間を割いたが、自由記載にあるように、一部の学生が、基礎科目である運動学 I に関して、PT と OT それぞれに必要なことが違うという意識を持っていることは遺憾であり、国家試験問題の提示等も含め、専門基礎分野（共通問題）の範囲と重要性を、1年次から伝えていきたい。

平成 28 年度

運動学 I

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合

(軸単位：5段階評点)



科目名 運動学Ⅱ（体幹・下肢）

□ 担当教員 山田 南欧美、臼井 晴信

□ 出席者数 72

集計データ結果について

総合評価では、「良い」81.9%、「どちらかといえば良い」18.1%と、全ての学生が良かったと評価していた。満足度においても、「満足している」62.5%、「どちらかといえば満足している」34.7%と、9.5割以上の学生が満足していた。これらの結果より、ほとんどの学生が本授業に対して高評価をしていることが伺える。本授業では、これから学ぶ理学療法学・作業療法学の基盤となる運動学について、机上の勉強にとどまらず、より実践的に学んでもらうために、毎授業で骨模型を用いて、講義を実施した。また、体幹の授業では、肺の模型を作製することで、実際の呼吸のイメージを習得できるよう工夫をした。これらの参加型の授業形態が、上記のような高評価につながったと考える。

学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの学生が、骨模型を用いて授業を実施したことが、理解を深めることにつながったとコメントしていた。運動学は、3次元的な理解が不可欠なものであり、実際に骨模型に触れながら学ぶことで、理解しやすくなることができたと考える。また、学生たちが本授業に取り組みやすいよう、配布資料も図を多くしたり、書き込み型にしたりと工夫をした。自由記載に「プリントが見やすかった」、「プリントがカラー印刷でわかりやすかった」とのコメントもあり、資料の内容についても、高い評価を得ることができた。

ただ、「小テストが難しかった」「小テストの方法を統一して欲しかった」「私語が多い人に対して対処してほしい」との指摘もあった。小テストに関しては、担当教員が二人いることで、それぞれの作成方法が異なっていたことから、来年度は統一する必要があるか、検討していく。また「私語」については、グループワークの延長で私語を続けている学生が確かにいたことから、来年度以降、適宜指導をしていく必要があると考える。

今後の改善に向けて

本年度の評価が高かったことから、授業形態・

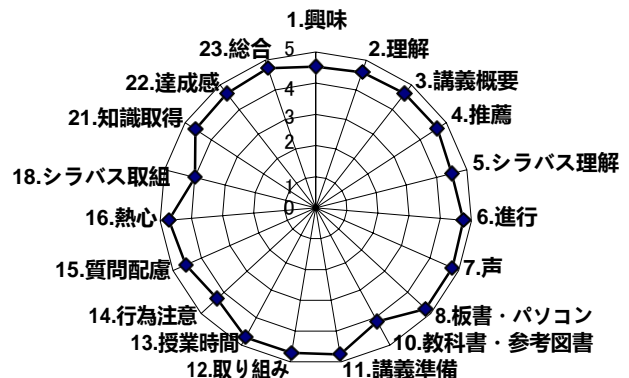
授業内容については、来年度以降も継続していく予定である。ただし、来年度より、担当教員が3名に増えることから、小テストの内容や授業の進め方等、統一が必要な部分については、事前に十分に教員間で打ち合わせを実施した上で進めていく。

平成 28 年度

運動学Ⅱ

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合

(軸単位：5段階評点)



科目名 運動学実習 (PT)

□ 担当教員 松村 仁実、白井 晴信、山田 南欧美

□ 出席者数 40

㊦ 集計データ結果について

各評価項目は 4 点以上の結果であった。授業時間の項目では、若干点数が低かった。実習課題を授業日に終了させる必要があり、実習内容の引継ぎが不十分の場合に時間を延長せざる得ない場合があったためと考えられる。また、時間内にレポート作成や発表準備などを行う時間を設けたが、時間外にまで及び講義時間との境界が不明瞭になってしまった点が考えられる。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

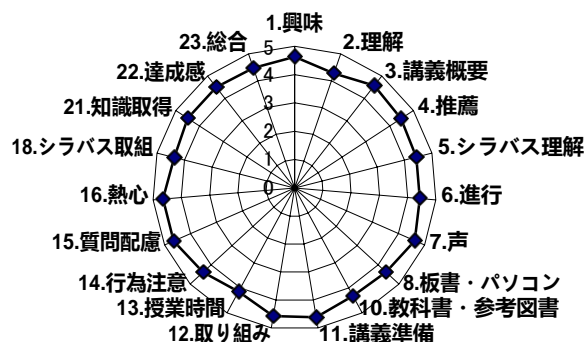
自由記載の量は少なかった。実習課題のグループ発表を行い、学生たちにもお互いに評価する機会を設けた。それにより、発表を分かりやすくする工夫に視点を持つことができた学生がいたことは評価できる。

難しさを挙げた意見もあった。実習課題が難しかったと想定できる。実習を通し、1 年間をかけ座学で学んだ運動学の内容を実習により体験、確認することで理解を深めることを目的としたが、知識とその理解を結びつけが不十分であった可能性がある。また、機器を使用しながら現象の確認をしたが、機器操作の部分でも難しさを感じた可能性が考えられる。

㊦ 今後の改善に向けて

実際に現象を体験、確認することで運動学の知識と理解を深めると同時に、理学療法評価に関わる機器の使用法の理解は重要である。今後は、運動学とのつながりを明確にできるような課題内容を検討していく。また、機器の使用についても準備段階からの説明にもより時間をかけるなどの工夫をし、使用方法に慣れ、それを使った評価方法についても身につけられるようにしていく。

**平成 28 年度
運動学実習 PT**
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 運動学実習 (OT)

□ 担当教員 草川 裕也、堀部 恭代

□ 出席者数 29

㊦ 集計データ結果について

すべての項目について5段階中4以上となり、良好な結果であった。しかし、「理解」と「質問配慮」の項目においては、他の項目と比べるとやや低い評価となった。

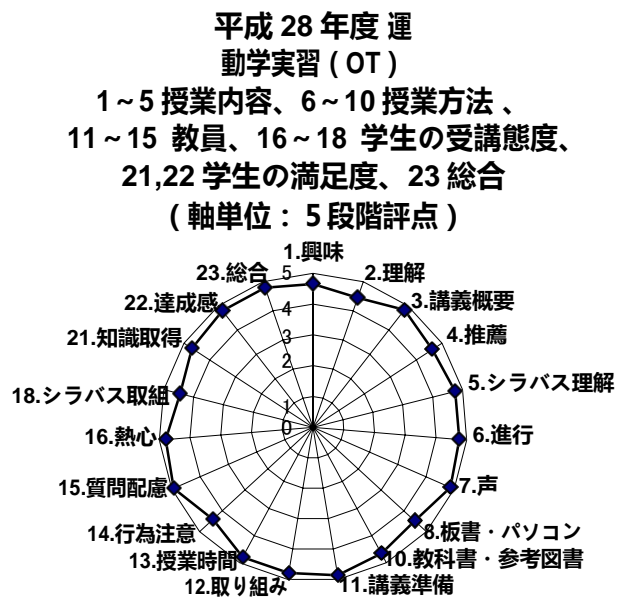
本授業は、動作分析とレポート作成が主であり、レポートを通して質問や理解度を確認した。レポートを見る限り、実習での体験と運動学的知識を結びつけて理解することに難渋しているようであった。質問はいつでも受け付けることを伝え、実際に質問に来る学生があり、質問しやすかったとの記載もあったが、満足度の結果からは、それでは不十分であるように感じられた。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークであったことと、レポート指導に関しては「よかった」との評価であった。開講期間中にすべてのレポート課題を完成させることができない学生がほとんどであり、学生にとって大変だったのではないかと思うが、グループで意見交換しながら、考察を深めたり、体験したことを考えたりすることが楽しかったという意見もいくつかあり、レポート作成に重点を置いて進める形式は効果的であると考え。OT専攻の学生にとっては、初めてレポートを作成する授業であり、苦勞したことが記載されているが、パソコンや専門用語の使用などは良い経験になったようであり、初年次の科目として適切な内容であったと考える。

㊦ 今後の改善に向けて

上述の通り、授業の内容については適切と考えるが、理解がやや不十分であり、レポート課題完了のために大半の学生が、授業時間以外での指導が必要であった。慣れていないため、レポート作成に時間を費やすのはやむを得ないと考えるが、スムーズに作成できるように工夫することと、運動学の講義で得られた基礎知識の確認・定着を図ることも重要であると考え。



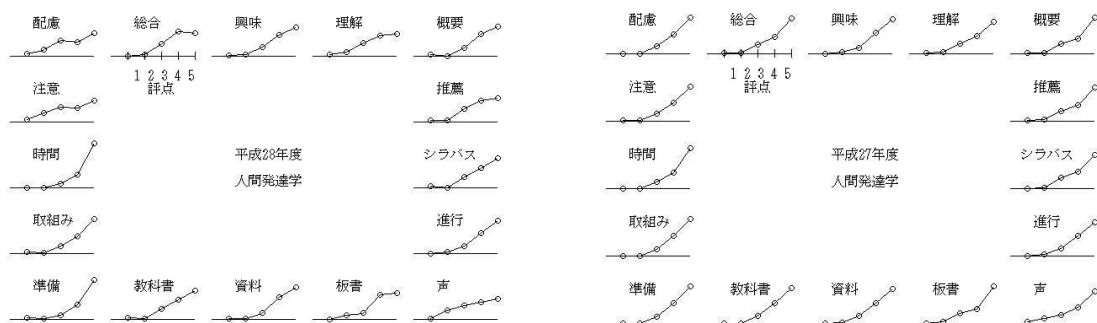
科目名 人間発達学

□ 担当教員 伊藤 宗之

□ 出席者数 70

集計データ結果について

設問別に評点 1、2、3、4、5 の分布を折れ線グラフに描き、前年度の集計と比較しました。それぞれのグラフが右に偏った逆L字型を示せば理想です。



学生の自由記載の内容を検討した結果

- ・プリントと授業があっていない時があった。
- ・スライドとプリントの内があっていない時があったのであわせてほしいです。
- ・プリントの内容が他のプリントと違って、どっちが本当なのかわからないことが多かったです。

答え：反射の発達では、矛盾のないように特に気を使っているのです、反射出

現、統合の月齢に関する

ことなら、ショックです。大変に申し訳ない。見直します。反射以外の話なら、あまり気にしないように、ご放念のほど。

- ・マイクがよくハウリングしていたので改善をお願いします。
- ・スライド文字をもう少し大きくして欲しい。

答え：そうします

- ・プリントの写真が見づらかった。

答え：なかなか難しい写真もあるのですが、スライドで補足するようにします。

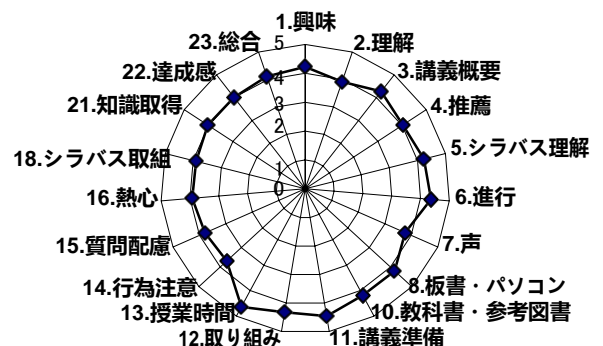
- ・どこを話しているのか、わからなかったです。
- ・むずかしい。

答え：スライドとプリントをあまり行き来しないように心掛けます。

今後の改善に向けて

上述のごとく改善を図ります。

**平成 28 年度
人間発達学**
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



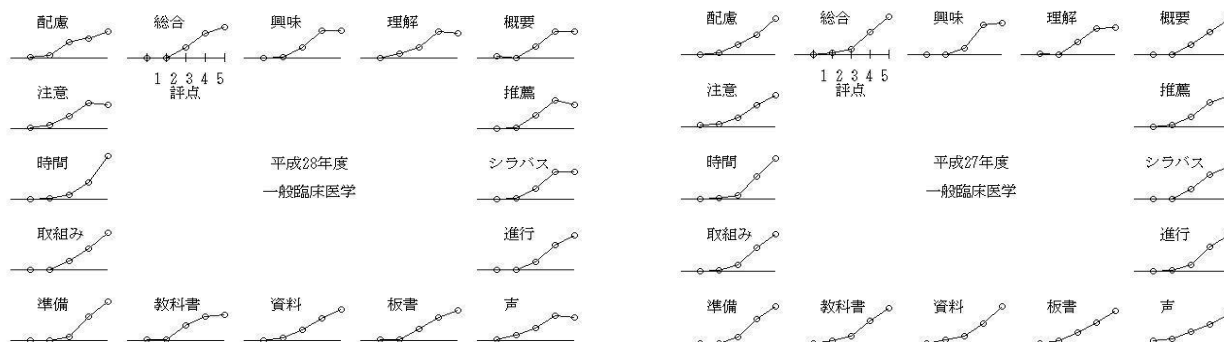
科目名 一般臨床医学

□ 担当教員 伊藤 宗之

□ 出席者数 70

集計データ結果について

各分野内の評価のバラツキを表します。標準の同心円図と対応する位置に配置しました。横軸は評点、縦軸は人数です。



学生の自由記載の内容を検討した結果

・プリントがあるのに関係のないことをいっぱい話していて何が本当に言いたいことなのかわからなかった。 答え：今後、気をつけます。

・パワーポイントの一覧も補助教材として配布して欲しい。

答え：考えてみましょう。

ただ、プリントの枚数のこともあるし、皮膚発疹などの細かい所はパワーポイントの組写真では判別困難とも思われます。

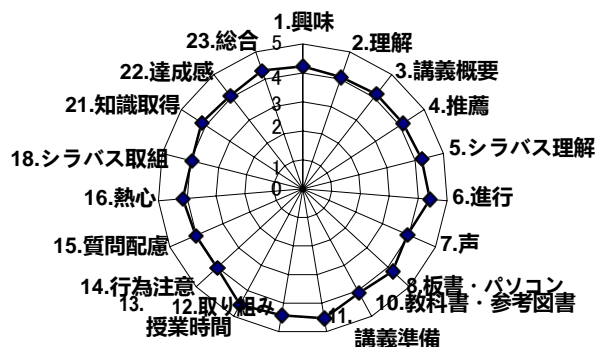
今後の改善に向けて

評価項目 11、12、13以外は全て改善の必要をせまられますが、特に、前年より低下した“声”、“注意”の分野では最大の努力をいたします。

最上段に前年度との比較を各項目別に評点の分布をまとめました。評点5の票数が低下しました。次ページの同心円図も同様ですが、まだまだ講義技術が未熟で本学の水準には程遠いものがあります。それでも、自分自身が自己採点するとしたら、もっと低い結果がでることだろうと考えます。それを思うと、今年も激励の意

味を込めて、実力以上の評価結果を頂いたものと感謝いたしております。

**平成 28 年度
一般臨床医学**
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 公衆衛生学

□ 担当教員 杉山 成司

□ 出席者数 66

㊦ 集計データ結果について

「公衆衛生学」は、理学療法士や作業療法士を目指す学生にとって直接的にかかわることが比較的少ないコンテンツでもあり、講義にどれほど関心を寄せてもらうかがポイントの一つであった。案に相違して、アンケートは授業に興味を持って臨んでいたとも読み取れる結果であった。これには講義に則した課題に対して、グループ学習などの導入が、モチベーションを高める上で役立つようにも感じている。

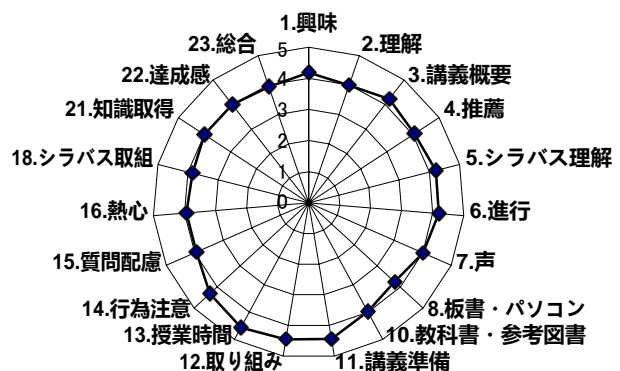
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

学生からは貴重な意見を寄せていただき感謝する。講義の形式、内容には各自それぞれの考え方があろうと思うが、授業という「教育」は、単に教える側から講義を受ける側への一方通行では決してなく、学生から講義者への働き掛け、相互作用も、授業の充実を図る上で重要かつ大きな力となる。今後とも学生諸君の楽しく積極的な参加を希望する。

㊦ 今後の改善に向けて

修正すべき所は修正し、学生が興味を持って加わることができる講義・教育になるよう一層努力したい。その点でも「教科書」は重要であるが、自主学習のための教材として、大いに活用して価値あるものにしてほしい。

**平成 28 年度
公衆衛生学**
1～5 授業内容、6～10 授業方法、
11～15 教員、16～18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 臨床心理学

- 担当教員 山田 ゆかり
- 出席者数 82

❖ 集計データ結果について

分かりやすい説明をすること、整理された板書をする、プリントを使いやすく編集することなど、授業方法についての基本的な配慮が一定の効果を上げている。

数値データにもとづく円グラフは、ほぼバランスのとれた形となっており、授業全体が円滑に運営されているといえる。ただし、ほとんどの項目において、「そうは思わない」など否定的な評価をした学生が1～2名あり、特定の学生の可能性もあるが、この点についてもう少し配慮できたらよかった。領域別に見ると、授業の内容・授業の方法についての項目では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」等良い評価が80%を超えている。しかし、学生自身の授業態度について、項目17(質問)、項目18(シラバス)については、改善の余地があり、予習・復習時間も不十分である。予習・復習の内容を具体的に示すなど、授業外学修を促進する必要がある。

❖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

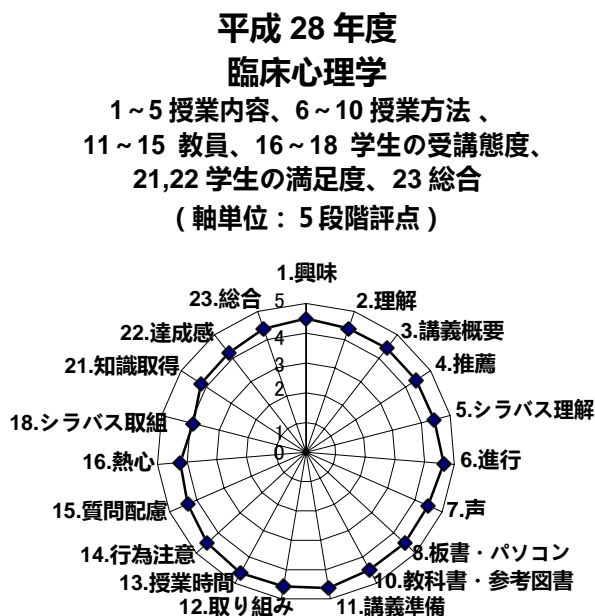
Web 回答が功を奏してか、昨年に比べ自由記述数が大幅に増加した。心理アセスメントについての体験的学習を評価する意見が多く見られ、また「分かりやすかった」「プリントや補助資料が有効であった」「前週の質問を総括して説明してくれるのが良かった」など授業内容、方法について多くの肯定的な意見が寄せられた。

一方で、これも Web 回答の影響なのか、少数ではあるが、事実とは異なる、教員を中傷するような記述もあった。

❖ 今後の改善に向けて

基本的には、現在の授業内容、授業方法が学生に受け入れられている結果であった。しかし、板書と提示装置の併用が難しい教室環境もあるので、より理解しやすいプリントや資料提示を心がけ、常に改善をしていくことが重要と考えている。

今後とも、より理解を助けるよう工夫した教材を呈示し、具体例にもとづく分かりやすい解説をするよう心がけていく。学生の学修態度については、折にふれて予習・復習を促す指導が不足していると思われるので対応する。また、一部の「不応傾向」を示しがちな学生にも目配りし、できるだけ不満を解消するように配慮する。理解度を上げ、さらに新たな問題提起や質問を引き出すような働きかけが継続できればと考えている。



科目名

内科学

□ 担当教員 杉山 成司

□ 出席者数 70

㊦ 集計データ結果について

内科学は医学、医療を理解する上で骨格をなす学問体系であり、これから医療に従事する理学療法士、作業療法士にとって必須の事項である。

講義では、患者に接する臨床が如何に大切かを知る意味で、内科学が生きた学問となるよう、いろいろ試行錯誤をしながら工夫を重ねてきた。ある程度これが受け入れられているように思う。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

講義内容が見直せるよう、基本的にプリント形式で行った。国試を意識すると講義範囲はかなり膨大かつ細かくなり、ポイントが掴みづらいとの指摘もあるが、重要な点や論理的考え方は講義中にもかなり指摘しており、授業時間を上手く活用してほしいと思う。また、教科書や参考書と照らし合わせ、要点を自分で整理するなど、自己学習方法も徐々に身に付けることを願う。

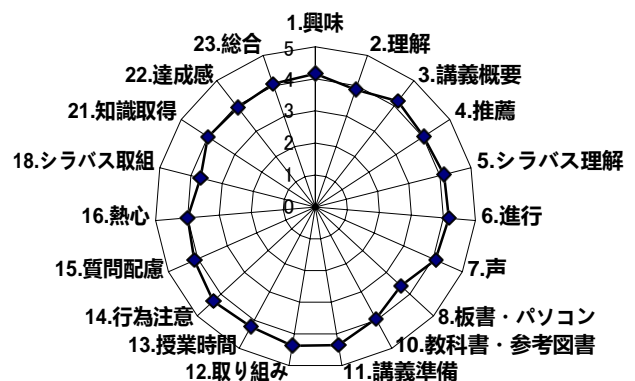
㊦ 今後の改善に向けて

授業は講義者からの一方通行ではなく、双方向の対話を通してより一層医療の真髄に関心を持ち、明日への医療支援につなげてほしい。私の宝ともいえる貴重な医療経験を、少しでも多くの学生に伝えられるよう、学生諸君からの活発なアプローチを期待する。

平成 28 年度

内科学

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 整形外科学

□ 担当教員 山田 正人

□ 出席者数 68

✖ **集計データ結果について** 昨年度に比較して全体的に評価が低くなっていた。特に「7. 声」「8. 板書・パソコン」「18. シラバス取組」が低かった。

✖ **学生の自由記載の内容を検討した結果**

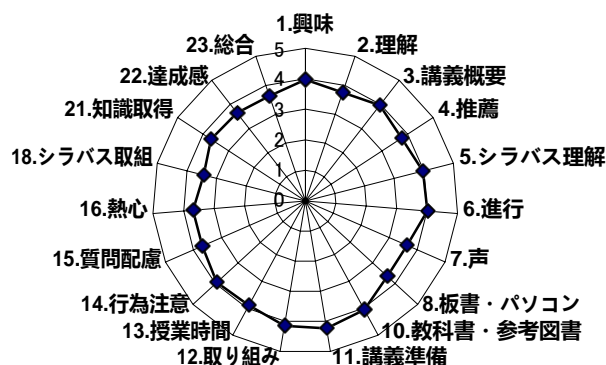
学生により大きく評価が異なっている。今年度、整形外科学を受講した2年PT・OTは例年に比較し、授業を受ける姿勢が極端に良くないと思われる。再三に亘る注意にも効果は無く残念な事に、授業を中断し、学習意欲を促したり、教科書の内容外の講義をした事に対する理解を得られない学生も多い様である。整形外科学のみならず、他の教科の諸先生の感想も伺ってみたいと思っている。

✖ **今後の改善に向けて**

「7. 声」「8. 板書・パソコン」については、学生の自由記載より内容を解し、改善を図りたく思う。「18. シラバス取組」は、教科書の内容のマトメを資料として配布してあり、臨床経験等も講義する為かと思われる。全体的に学生の知識欲に対する貧欲性に欠け、学習意欲の積極性、授業態度の改善が望まれる。

又、学問的知識の教育は当然の事ながら、卒業迄の間に全人格的な教育・交流による学生の成長を促す講義を今後も行いたいと思っている。

**平成 28 年度
整形外科学**
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



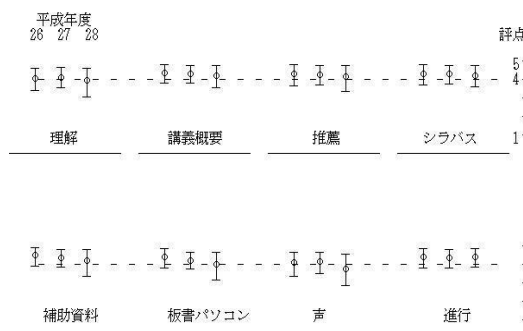
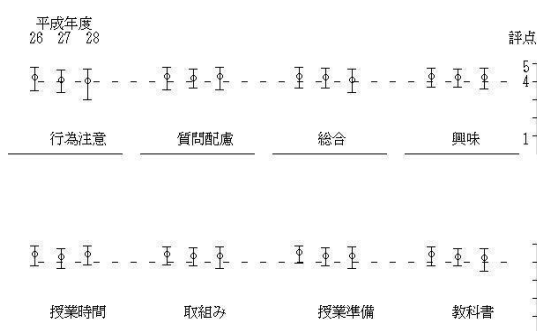
科目名 神経学

□ 担当教員 伊藤 宗之

□ 出席者数 70

集計データ結果について

【最近3年の推移、破線は評点4.0のレベル】



学生の自由記載の内容を検討した結果

先生が何をいっているのかわからなかった/もう少し大きい声でお願いします/レジメをもう少し分りやすくしてほしいです/内容がわかりにくかった/もっとビデオを見たい/声が聞き取りづらかったです/もっとハキハキ話してください/聞えないです/講義時間の延長が毎回あり、時間内におわることがほとんどなかった/アンケートを行う意味がわからない/授業終了時に行われる小テストの答えが教卓の上に置いてあり、それを生徒が写真を撮って、答えを書いていることが多々ありました。小テストは試験のテストの点数に入るの、ちゃんとやっていた人が不利になることもありました/授業中とてもうるさかった/資料はわかりやすいけど、授業はすこしわかりにくかった/小テストに出なくてもボックスの答えはすべて教えてほしい (註: 次回の小テスト用紙の隅に記載済) /去年の授業のつながりが大切だと分かった/よかった/ありがとうございました/

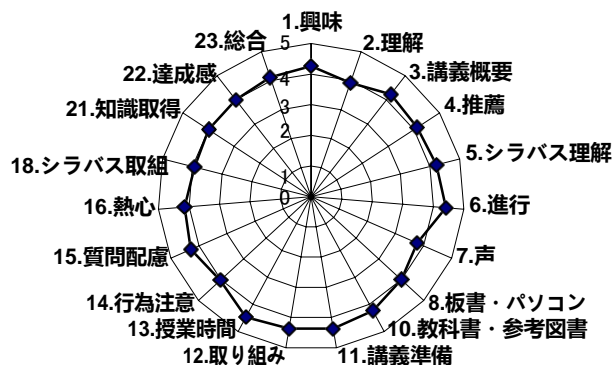
今後の改善に向けて

過去3年間の神経学のアンケートを集計してみると、評点4.0付近で低迷している。自由記載の評価と点数評価の結果も平行している。ご批判を真摯に受け止め、特に今回評点4.0を割った“声”と“理解”の分野で緊張感をもって改善に努力していく。

教科書、プリント、スライドの連携を如何に上手く行うか、イメージ・トレーニングしてから教場に臨む。

平成28年度 神経学

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位: 5段階評点)



科目名

小児科学

□ 担当教員 杉山 成司

□ 出席者数 71

❖ 集計データ結果について

高齢者に比べて、障害を持つ小児の在宅ケア制度は大きく立ち遅れている。その意味でも、患児、家族は理学療法士、作業療法士による小児医療への支援を待ち望んでいる。

講義では実際の臨床が如何に大切か、興味を持ち理解し易いように工夫を重ねてきたが、ある程度これが受け入れられているように思う。

❖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

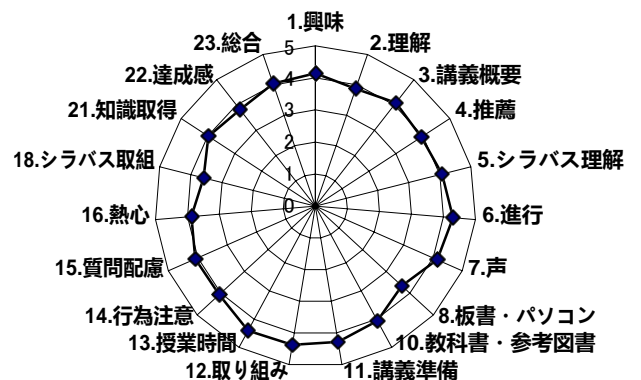
講義内容がいつでも見直しできるよう、基本的にプリント形式で行った。ポイントが掴みづらいとの指摘もあったが、重要な点や理論的考え方は講義中にもかなり指摘しており、授業時間を上手く活用してほしい。また、教科書や参考書と照らし合わせ、自分でポイントを整理する学習方法も徐々に身に付けることを願う。

❖ 今後の改善に向けて

授業は講義者からの一方通行ではない。笑いを取る講義は難しいが、双方向の対話を通してより一層医学に関心を持ち、明日への医療支援で深みが増すよう、学生諸君とともに築き上げたい。

平成 28 年度 小児科学

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 医療安全学・救急医学

□ 担当教員 舟橋 啓臣

□ 出席者数 78

㊦ 集計データ結果について

データ結果については、評価4を下回るのは「シラバス取り組み」と「質問配慮」のみであった。「シラバス取り組み」は、学生が前もって冊子（シラバス）を読んで、講義の内容などを理解しておくべきことがら、と解釈している。したがって、この評価を向上させるには、毎回の講義でシラバスを読んできたか確認することが必要なのかもしれない。「質問配慮」については、講義終了時に「質問、コメントは何かありますか?」と聞くようにしているが、これまでの経験では伴う質問を受けることは一度もなかった。講義内容からしても、質問する種類のものではないので、これに関してはアンケートの項目が適切かどうか、とも思われる。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

ほとんどが肯定的な意見だったと思う。特に、毎回の講義前の15~20分ほどを雑談と称して時間をとり、心構えとか時事問題や教養学的なものを話すようにしているが、これが好評であった。準備にエネルギーを費やしているので、聞き手が高く評価してくれていることを知り嬉しかった。講義資料として教科書をなくし、毎回プリントを用意して配ったことも好意をもって受け取られたようだ。また、テスト前に最大重要な部分を予報したことも評価された。

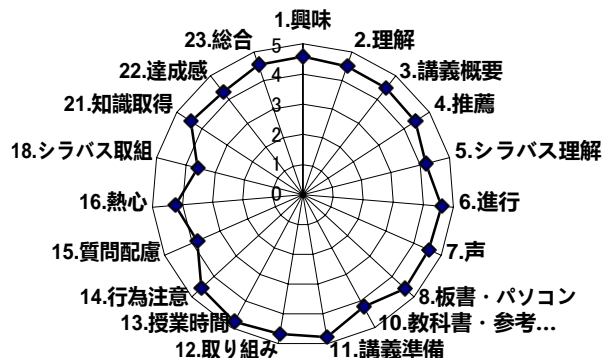
㊦ 今後の改善に向けて

自由記載を読んで、ほとんどが良い評価であったこと、さらに、その中に「今のままのやり方でよい」と明瞭な意見が何件かあったことを考えると、現在の方法を踏襲しようと思っている。なお、「シラバス取り組み」と「質問配慮」について、前者は毎回の講義前に確認することで対処するつもりである。後者に関しては、経過をみようと考えている。

平成 28 年度

医療安全学・救急医学

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位: 5段階評点)



科目名 リハビリテーション概論

□ 担当教員 鳥居 昭久

□ 出席者数 77

✖ 集計データ結果について

特にアンバランスとは感じない。

✖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

1 年生の導入科目として、非常に難しい内容を実施している為、学生にとっては大変だったと感じる。しかし、リハビリテーションについての理解を深めて、前向きに学習した者が少なくないと感じている。

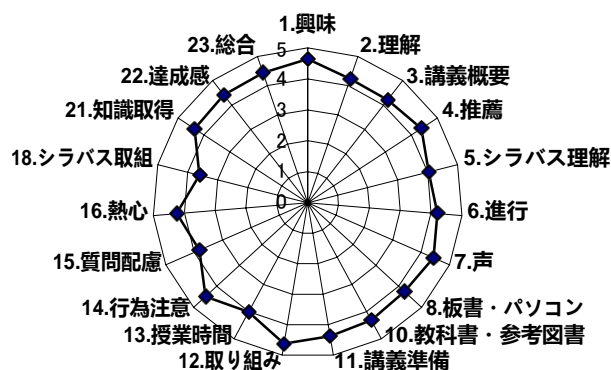
✖ 今後の改善に向けて

より分かりやすい説明方法を目指して、講義スキルを向上させようと考えている。

平成 28 年度

リハビリテーション概論

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 リハビリテーション倫理

□ 担当教員 鳥居 昭久

□ 出席者数 72

㊦ 集計データ結果について

知識面の提供が少なかったのかと思われる。ディスカッションを多く実施したため、講義面の充実が必要だろうと思う。

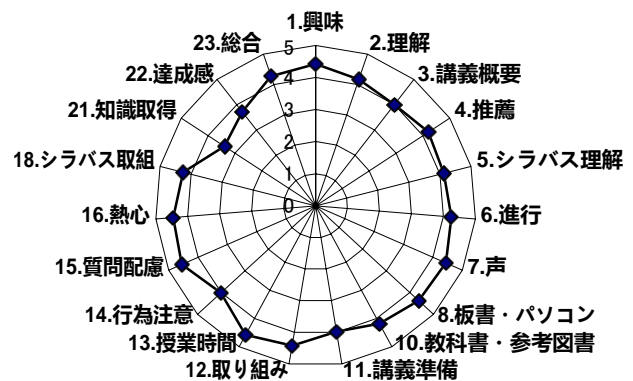
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

時期的なタイミングで、学生にとって良い印象が無い講義だったかも知れないが、受講学生が無責任意見を持っている者が少なくないことに寂しいと感じた。批判意見については、真摯に分析したいと考えている。

㊦ 今後の改善に向けて

他人批判だけではなく、自身の向上を目指せる医療人を育てる教育をしたいと考える。

平成 28 年度
リハビリテーション倫理学 (3 年生)
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 社会福祉学

□ 担当教員 加藤 良子

□ 出席者数 78

❖ 集計データ結果について

授業内容に対して「興味深い」92%、「理解しやすい」78%、「後輩へ推薦したい」82%、「知識習得」83.3%、「達成感」78.2%（そう思う、どちらかといえばそう思う）という数値が出たことは、一定程度社会福祉学を学ぶ意義が伝わったと考えられる。

「質問配慮」については、毎回の講義で前回の復習小テストと解説を行うことで理解度を上げることを目指してきたことと関係性があると考えられる。また、授業後の振り返りシートで質問をする学生があり、必ず次の授業で全体に解説、回答するという行ってきたことも同様に関係性がある。ただ、積極的な質問を今後行えるように「課題」として認識した。学生の学習する姿勢について、予習なしが69.2%、復習なしが61.5%という数値は残念な結果である。

❖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

78名中、「特になし」7名。少数意見の内容記載3名。私語に対する意見として、「自分は真面目に取り組んでいるのに私語が多くて集中できなかった。もう少し環境を整えてほしい」が1名、同じ私語について「私語への注意を行ってくれたので、集中できる環境であった」が1名ある。学生の受け止め方に個人差があるのは当然であるが、私語に対する注意は教員としてかなり配慮をしてくれている。小声で話す学生に対して、学生間で注意し合うということも行なって欲しいと感じた。

「難しかった」1名、「テキストが読みにくい。要点が掴みにくい」1名。テキストについてはそれを補うように毎回レジュメと資料、振り返り問題での確認小テストを行ってきている。ただ、社会福祉について学んで欲しい内容が多いので、授業で扱えない部分をテキストや参考文献で補うことが学生として必要であると考えられる。

以上、少数意見についてコメントしたが、それ以外の多くの学生は、「レジュメ、資料、DVDなどを使うことにより理解が深まった。」「具体的な実践事例をもとに制度の話がなされたことが良かった」「理解しやすかった」「社会について講義を通して分かることが増えた」「毎回の小テストと解説で理解が深まった」など評価を得られたと思われる。

「難しかった」1名、「テキストが読みにくい。要点が掴みにくい」1名。テキストについてはそれを補うように毎回レジュメと資料、振り返り問題での確認小テストを行ってきている。ただ、社会福祉について学んで欲しい内容が多いので、授業で扱えない部分をテキストや参考文献で補うことが学生として必要であると考えられる。

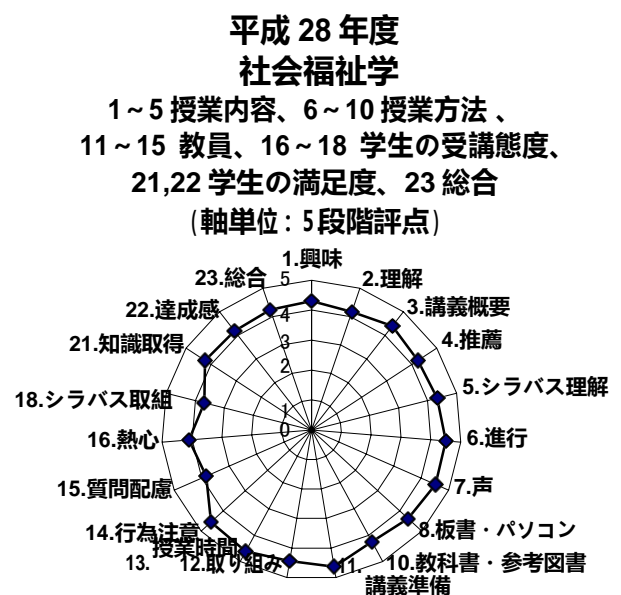
❖ 今後の改善に向けて

基本的には、現在の講義スタイルを継続していく。

ただ、質問することを積極的に行えるように学生への注意喚起をしていく。

私語への注意は引き続き厳しく行っていく。しかし、学生間でも「学ぶ環境作り」を行えるように呼びかけていきたい。

大学生として、他者を理解して配慮する力の重要性を引き続き伝えつつ、学生の成長を促したい。



科目名 障がい者スポーツ演習

□ 担当教員 鳥居 昭久、加藤 真弓

□ 出席者数 10

㊦ 集計データ結果について

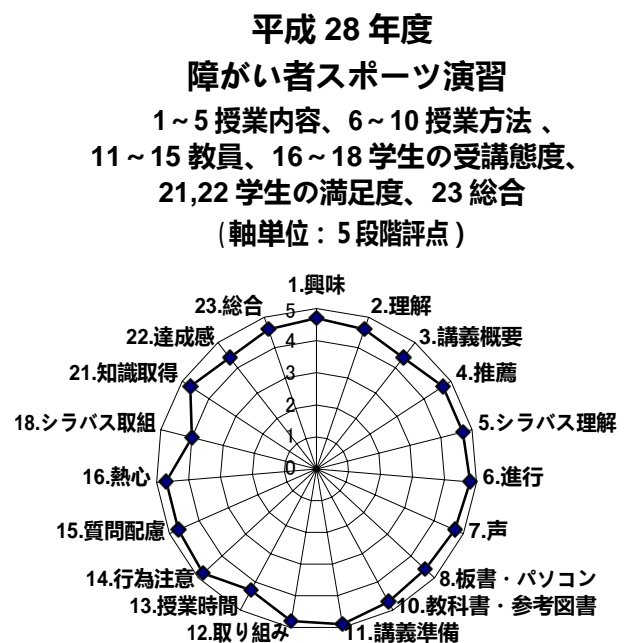
ほぼ高得点であり、バランスも良いので問題ないと感じる。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

障がい者スポーツに興味を持って取り組めた者が多かったと感じる。しかし、実技をもう少し多く取り入れた方がよかったかと思う部分もある。今後、障がい者スポーツに関わる学生が育って欲しいと感じる。

㊦ 今後の改善に向けて

実技を多く取り入れて、実際に活動できる内容を考える。



科目名 理学療法概論

- 担当教員 加藤 真弓、宮津 真寿美
- 出席者数 47

集計データ結果について

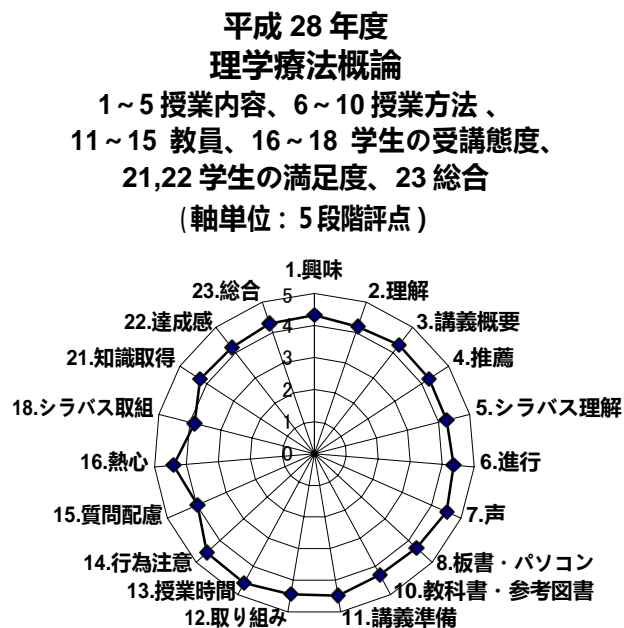
概ね高得点であり、バランスが取れていると考えられるので、円グラフ上は満足できる結果であると思われる。時間に関する点数がやや低めに出ているのは、他業務との兼ね合いで、時間変更が合ったためと思われる。

学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的意見が多かった。グループワークで他者の意見を聞くことができたり、自身の考えを発言し発表することができたこと、自身が目指す理学療法士の仕事に関するリーフレットの作成、今後学ぶ専門用語の小テスト、授業で学んだことで興味・関心のある事柄の自己学習(レポート作成)等を前向きに捉えている意見である。また、分かりやすかったとの意見もあり、理学療法や理学療法士についての在り方や、今後の学習への動機づけに少なからずなったと考える。一方で、小テストの範囲が広がった、レポート課題が試験直前までであったため試験勉強が大変だったとの意見もある。小テストも課題についてもシラバスで説明してあるが、シラバスを利用した学修が不十分であることや、他の開講科目との兼合いもありこのような意見があったと思われる。多くのことを学んでほしいという想いがあるため、小テストと課題の量に関して他の科目との調整を図る必要があるかもしれない。

今後の改善に向けて

グループワーク等を取り入れたアクティブ・ラーニングは継続する。小テストや課題については他科目の課題との調整を図りたい。シラバスに基づいた学修が不十分であるため、学習が円滑に進められるように、定期的にシラバスの確認や取組みを振り返る機会を設けようとする。



科目名 臨床運動学 (PT)

□ 担当教員 木村 菜穂子、松村 仁実

□ 出席者数 40

集計データ結果について

概ね 4 以上の評価でした。しかし、「補助資料」「知識習得」「達成感」の項目が若干低い結果となっていました。

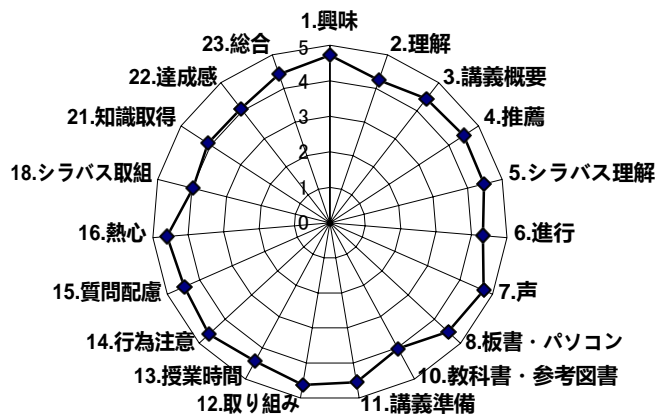
学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークを中心とした講義でしたが、「それにより理解を深められた」「学んでいるという感じがあった」という意見が多かったように思います。また「十分できるようにはならなかったがポイントは理解できた」と肯定的な意見が多数を占めました。しかし、内容的には難しいと感じている方も多く、「授業時間数が足りない」という意見も少なくなかったです。また「補助資料がもっと欲しかった」「テスト対策ができない」「テストを行う意味が分からない」「正解が知りたい」との意見もありました。これらから、上記のデータで低い項目に当てはまるのだと思います。このような気持も理解できなくはないですが、「与えられたもの（資料や正解）を覚える」という学習方法だけでは、十分な学びはできないと思います。今は、動作分析に関する書籍や文献など山のようにあります。疑問がある時に、それらを自ら探し、手に取り調べるといった学習方法を身につけられると、さらに充実した学習に結びつくと考えます。

今後の改善に向けて

自分たちで学ぶという方法を身につけるためにも、グループワークを用いた講義は継続していきたいと思います。また、講義時間数に関しては、すぐに改善できるものではありませんが、補講なども含め、皆さんの十分な理解に結びつくための対策を考えたいと思います。

平成 28 年度
臨床運動学 PT
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位: 5段階評点)



科目名 運動療法総論

□ 担当教員 松村 仁実

□ 出席者数 44

㊦ 集計データ結果について

各項目においておおむね 4 点を超える評価だった。その中で、「講義準備」の項目で低めの評価点であった。自由記載にもあるが、小テスト実施の有無や範囲の説明などの点で、準備として不十分であったことが考えられる。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

- ・小テスト実施については初回講義でも説明をし、日頃の復習につながるように意図していた。ただし、毎回実施したわけではなかったため、復習の確認作業をする機会を提供することが不十分であった。
- ・小テストの内容については、理解すべきポイントが十分理解できていなかったとの意見があった。1 コマの授業の中で複数の理解すべき内容を説明しているためそれぞれが意識されにくくなったと考えられる。
- ・授業形態はアクティブ・ラーニングとし、グループ学習により発言しやすい環境を整えることができた。
- ・運動療法全体像の把握ができた、勉強方法の見直しができたなど学生自身の気づきにつながるような意見がみられたことは評価できた。

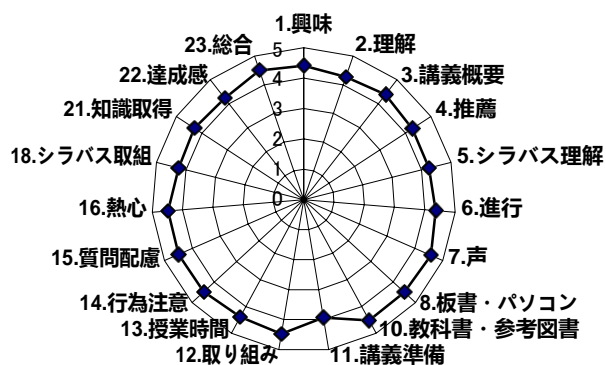
㊦ 今後の改善に向けて

毎回小テストを実施することで復習とその理解を深めることにつなげていきたい。

また、講義の中でポイントをしぼり、明確に提示することで理解を促していく。その上で学生自身が興味をもって深めていけることが望ましい。そのためにグループワークの時間を確保していく。

平成 28 年度 運動療法総論

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 検査測定法

□ 担当教員 木村 菜穂子、加藤 真弓、山田 南欧美

□ 出席者数 45

㊦ 集計データ結果について

＜授業内容について＞ 興味、理解、授業内容(シラバスとの整合性)など、80~90%の方が4以上の回答でしたので、全体として特に問題はな

かったかと思われま

す。

＜授業方法について＞
進み具合について、「どちらとも言えない・あまりそうは思わない」の回答が20%程度ありました。授業時間の割に内容が盛りだくさんのため、どうしても授業の進み方が早くなり、消化不良のままになってしまった可能性があると思われま

す。

＜授業担当者について＞ いずれの項目も、80%以上で良好な

回答が多い結果でした。

＜学生の受講態度・学習態度について＞ 実技中心の授業形態から、授業中の取り組みや質問・予習復習等、多くの方が

能動的・積極的に取り組まれていたと思

います。一部、そうでない人もいたようで、残念です。

＜満足度＞ 80・以上が知識習得や学習の達成感が得られたとの回答

でした。

＜総合評価＞

80

以上の方が「良い・どちらかといえば良い」との回答でしたが、「どちらともいえない・悪い」の回答も程度

ありました。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

授業時間数に比べて内容が多いと感じているためか、「もう少し時間が欲しい」「テストが不安である」との意見がありました。授業中にも何度もお話ししましたが、知識(検査方法)だけでなく技術習得が重要な科目です

ので、予習→授業→復習という一連のサイクルで考えていただきたいと思います。授業時間だけでは不足していると感じれば、試験前だけでなく復習の時間の中で、

教員にアドバイスを求める等の行動も行っていただ

きたいと思

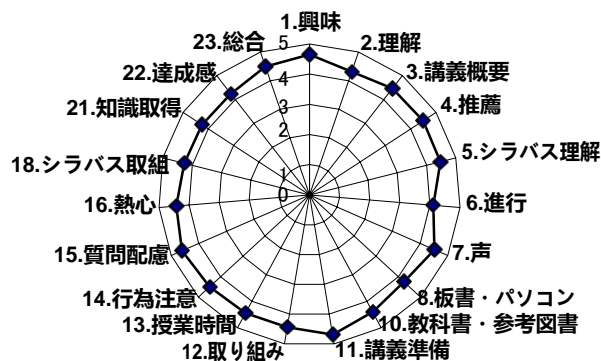
います。

㊦ 今後の改善に向けて

授業時間や授業内容を変更することは困難ですが、学生の理解が高まるような工夫(より質問しやすい環境作りなど)を行っていき

たいと思

平成 28 年度
検査測定法
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名

検査測定法実習

□ 担当教員 木村 菜穂子、加藤 真弓、山田 南欧美

□ 出席者数 42

集計データ結果について

検査測定法と同様、評価としては概ね問題ないと思います。学生の皆さんも実習に積極的に取り組んでいただけの方が多かったようです。

学生の自由記載の内容を検討した結果

・教員により指導内容が異なる 授業中にも何度か伝えたいと思いますが、臨床で使う技術として、実施方法に若干の個人差があることは仕

方がないと考えています。ただ、皆さんが混乱しないよう、そのようなことがあれば教員間で協議し、統一見解を出すように努めていくので、その都度ご指摘いただければと思います。

・もう少し詳細に教えてほしい

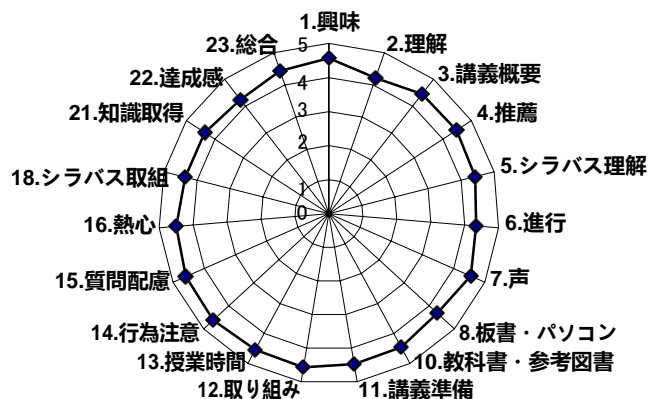
授業は、「予習して疑問点を出す（まずは自分たちでやってみる）→講義中に疑問点を解消する→復習で繰り返し練習する」を1つのサイクルとして組み立てています。そのため、授業中に全ての事を詳細に説明することを行っていないため、このような意見をいただいたのだと思います。これは、授業ではできるだけ実習時間を確保したいという思いからです。分からないことを「分からない」と質問していただければ、その都度対応したいと思います。

今後の改善に向けて

全体の評価に対し、自由記載では上記のような意見をいただきました。小人数の教員で学生に対応しているため、「質問しづらい」「もっと詳しく教えてほしい」と感じさせてしまった可能性が高いと思われますので、その点は今後の改善が必要であると感じています。その上で、学生達にも「自ら学ぶ（アクティブ・ラーニング）」ということをもう一度考えていただきたいと思います。

平成 28 年度 検査測定法実習

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位: 5段階評点)



科目名 理学療法評価法

□ 担当教員 白井 晴信

□ 出席者数 43

集計データ結果について

平均して 4 点台後半であり基本的には学生が満足のいく授業内容であったと考える。「シラバス」に関する点数はやや低く、評価基準がたくさんあったことや授業内容がシラバスからはわかりにくかったことが原因と考える。

学生の自由記載の内容を検討した結果

「実習に役立てたい」という意見があり、授業で狙った目標を達成できたと思う。授業内はグループワークを中心に行い、他者評価を行ったり、毎回レポートを提出したり小テストを行ったりした。学生からの授業に対する率直な意見を期待したが、自由記載欄に取り組みに対する意見はなかった。授業で行った内容が意識に残りにくかったのか、アンケートの仕様や実施時期によるものかはわからない。

今後の改善に向けて

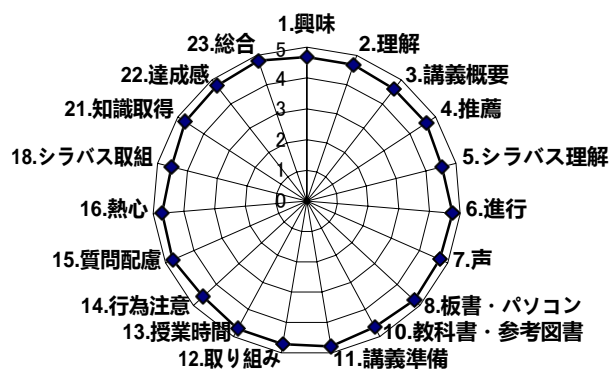
グループワークを中心に行ったが、狙った内容の議論ができないこともあった。それは課題の提示の仕方や、グループワークの仕掛け方に改善の余地があるためと考える。特に臨床に直結する科目であるため、できる限り臨床を意識できるような授業構成を心がける。

平成 28 年度

理学療法評価法

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合

(軸単位：5段階評点)



科目名 理学療法評価法実習

□ 担当教員 鳥居 昭久、白井 晴信、松村 仁実、加藤 真弓、山田 南欧美

□ 出席者数 37

集計データ結果について

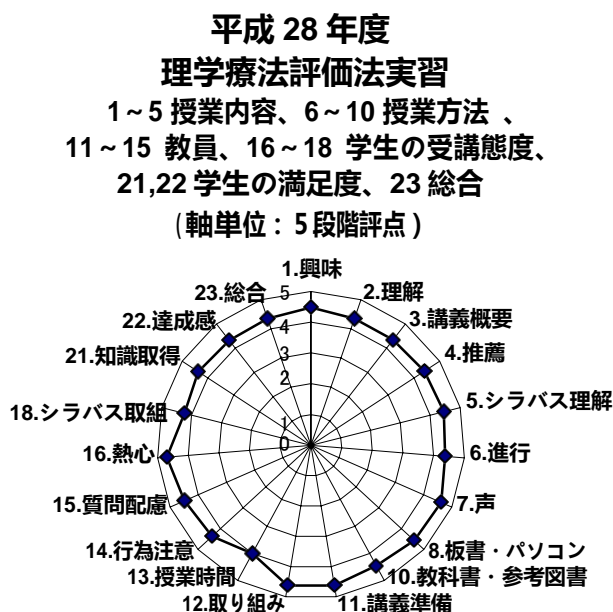
概ね 4 点台の良い評価であった。内容を見ると「授業時間」の項目で点数が低かった。授業時間は教員によっては時間を延長した事・授業時間外にレポート作成・グループワークに費やす時間が多かったことが原因と考える。「達成感」「理解」などの項目でもやや点数は低く、レポートを作成する時間が短かったことが原因である可能性がある。

学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の内容としては「良かった」「ためになった」と感じている意見が多い。しかし、レポート作成の量が多かったこと、作成するタイミングが試験期間の前であったことなどから、「レポート作成にだけ囚われてしまった」と感じる意見が多かった。また教員間の連携が取れていなかったと感じている意見があった。オムニバスでの授業であったが、教員間での認識の違いが学生を混乱させた可能性がある。

今後の改善に向けて

中枢、整形、内部障害の各分野別に考える方法は理にかなっており、今後も継続したほうが良いと考える。しかし、教員間での認識を統一させておくことが必要である。課題作成に追われ、課題がただの作業にならないように、学生への負荷を考えた課題設定も検討するべきだと考える。臨床実習に行ったときに、本講義を受けていて良かったと思えるような授業を展開していきたい。



科目名 中枢神経系障害理学療法治療学

□ 担当教員 加藤 真弓、松村 仁実

□ 出席者数 44

集計データ結果について

平均すると4点台であるが、ややいびつなグラフとなっている。中でも「18. シラバスに記載されている学習到達目標や履修上の注意を意識して学習に取り組んだ」の項目の点数が低かった。この質問に、「取り組んだ」「どちらかといえば取り組んだ」の回答者が44名中22名と少ない。初回講義にて、オリエンテーションにてシラバスを事前に読んだか確認すると半数が読んでいなかった。授業に向かう姿勢や心構えができていなく、自ら学ぶというよりも、手取り足取りの受け身姿勢であることが推察できる。もちろん、事前準備をしっかりとしてくる学生もいる。「理解」、「達成感」、「知識取得」等の項目についても低い点数である。本科目は、神経系の症候学と同時進行で開講しているため、疾患の理解ができていない、イメージできていない段階であること、かつ機能解剖学等の基礎的知識が不十分(事前準備不足)などから、授業中に理解することが困難で、質問もしない学生が約半数いるため、このような結果になったと考える。

学生の自由記載の内容を検討した結果

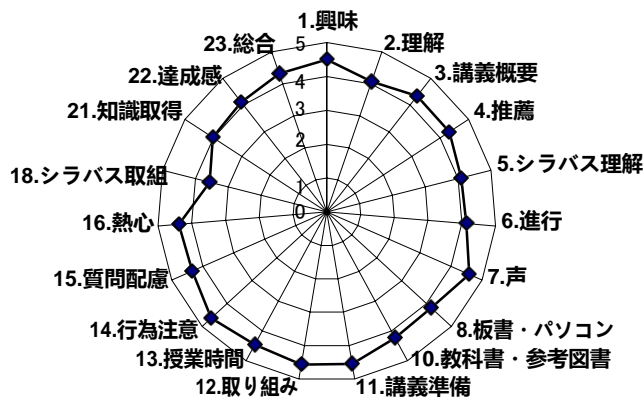
「難しかった」という意見もあるが、「わかりやすかった」という意見の方が上回っている。しかし、「理解」、「達成感」、「知識取得」の点数が低いため矛盾が生じている。小テストを実施して、理解の確認をしていたが「わかったつもり」にとどまり、使える知識として身につけていなかったことが考えられる。資料に関する意見も比較的多かったため、学生が自己学習しやすくなるような工夫が必要と考える。パワーポイントの内容をレジュメに載せてほしかったという意見もあるが、すべての説明がレジュメに書かれてあると、授業を聴いていなくてもあとでみればよいということになるため、重要と思われる点は学生に記入してもらおう形式をとりたい。

今後の改善に向けて

授業はわかりやすいという意見が比較的多いため、授業の進行は大きく変更せず、授業中に理解ができるよう予習課題を提示したり、知識定着の小テスト内容の工夫や、単語レベルではなく、説明ができるレベルであるのかの確認等を検討していきたい。

また、学生が自己学習できるよう、資料の工夫も検討したいと考える。

平成 28 年度
中枢神経系障害理学療法治療学
 1~5 授業内容、6~10 授業方法、
 11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
 21,22 学生の満足度、23 総合
 (軸単位：5段階評点)



科目名 中枢神経系障害理学療法治療学実習

□ 担当教員 松村 仁実、加藤 真弓

□ 出席者数 39

㊦ 集計データ結果について

4 点台と概ね良好と考えられる。「達成感」、「知識取得」の項目に関して、その他よりも低い点数であった。このことは、24 人/42 人中が再試験となっていることと関連していると思われる。昨年度までの自由記載には、「難しかった」という意見が数件あったことから考察すると、十分に理解しないまま授業日程が進み、本試験を受け、再試験となったことから、この 2 項目において点数が低いものと思われる。小テストを授業中に実施していたが、比較的点数が高い学生と低い学生と二極化している印象であった。また、今年度の学生は理解するというよりも暗記中心であり、質問が少ない。また、試験対策として、昨年度までの試験問題に対する解答を誰かが作成し、間違っていたとしてもそれを覚え試験に解答する学生が多いことには驚いた。

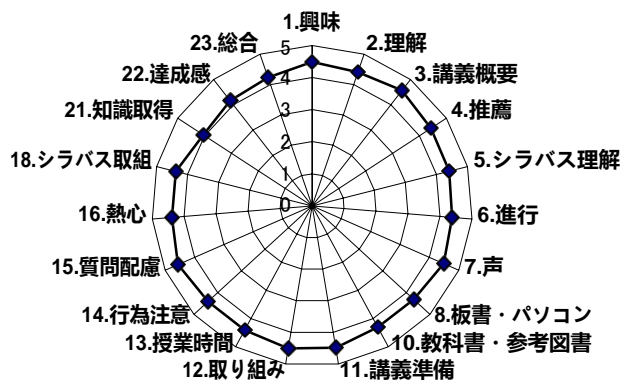
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

特段、取り上げる回答はない。

㊦ 今後の改善に向けて

中枢神経系損傷によって出現する障害を理解するためには、1年次で学んだ解剖学や正常発達、2年次の神経学等の理解が重要になるため、十分に復習する機会を作る。学ぶ内容が多いため、知識の伝達の割合が多くなっているため、アクティブ・ラーニングを取り入れ、より理解が深まるような授業方法を検討したい。

平成 28 年度
中枢神経系障害理学療法治療学実習
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 整形外科系障害理学療法治療学

□ 担当教員 鳥居 昭久

□ 出席者数 42

㊦ 集計データ結果について

非常に不満足な結果である。急遽担当したこともあり、十分な準備ができていなかったと反省している。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

非常に広い範囲であり、整形外科系の理学療法を理解するためには十分な時間ではなかったと感じる。特に、実技を多く取り入れるために、自己学習を促すポートフォリオファイル作成を義務づけたが、自己学習に慣れていない学生が多く、結果的に学習効果が十分ではなかった可能性がある。整形外科の基本的知識や、病態整理は整形外科学で学ぶ内容であり、この講義は少しでも治療技術を身につけることを目的としていたが、残念ながら学生にはその理解が不十分であったようだ。とても残念である。その点で、学習の仕方から学ぶ必要が有るかも知れない。

一方で、自己学習を積極的に行った学生も少なくなく、実技の理解が深まった者のいるようである。自由記載内容とは若干離れるが、1年次に修得しているべき内容が修得されておらず、治療学実技の理解に到達していない学生が多い。その為、基本的生理学や運動学を改めて講義の中で復習しなくてはならない場面も少なくなかった。学生にとって、テキスト通りに進んでいないと感じたようであるが、それ以前にテキスト内容を理解できる基礎知識が乏しい状態で受講していること自体が非常に問題であると感じる。また、実技練習の際に、熱心に取り組んでいる学生と、遊んでいて全く取り組まない学生に別れてしまっていることが問題であると感じた。批判的な意見を寄せた学生のほとんどが、自身は積極的に取り組んでいない現状が有り、主張と行動が乖離していることに問題を感じる。

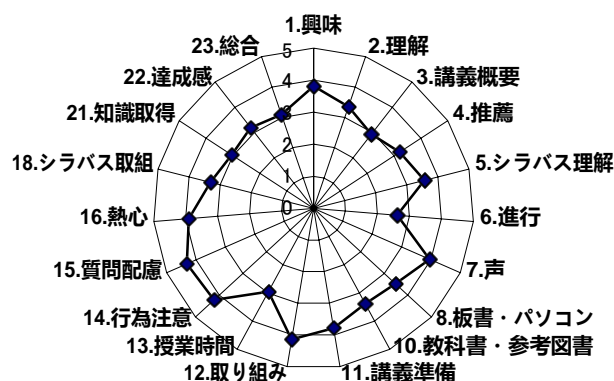
㊦ 今後の改善に向けて

低い学力の学生のレベルに合わせた講義計画が必要だろうと思う。しかし、それでは理学療法士としての十分な学びができない可能性もあり、その対策を検討する。

平成 28 年度

整形外科系障害理学療法治療学

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 整形外科系障害理学療法治療学実習

□ 担当教員 鳥居 昭久・白井 晴信・山田 南欧美

□ 出席者数 36

✦ 集計データ結果について

全体にバランスの良い結果と言える。特に大きな問題は無いと思われる。

✦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

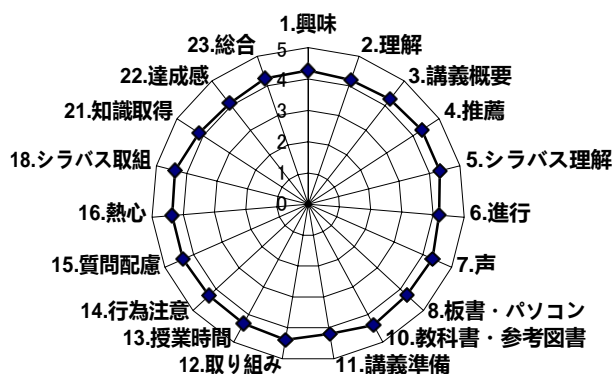
実技中心に進めたために学生は実感として学んだ部分が多いと思われる。しかし、基礎知識の不足や、探求心という点で心配がある。講義の中で全ての実技を修得するには至っていないため、技術を修得するためには自習に於いて練習が必要である。各自がその為の時間を十分に確保していない可能性がある。また、基礎的な解剖学、運動学などの知識が不十分なままの学生が見られたが、実技の背景にある基礎的な事項について十分に身につけていく必要を感じている。

✦ 今後の改善に向けて

事前の予習課題を強化して、実技の前に基礎知識を確認させる必要がある。

平成 28 年度

整形外科系障害理学療法治療学実習
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 内部疾患系障害理学療法治療学

□ 担当教員 臼井 晴信、宮津 真寿美

□ 出席者数 39

㊦ 集計データ結果について

本講義の内容は理解するのがとても難しい内容であるため、基礎的な事項を中心に考えられるような講義構成を工夫した。配布資料や授業の説明、質問への対応などに特に配慮を行った。以上のことから集計結果を分析すると、質問への配慮や資料、準備や取り組みに対しては多くの学生が満足していただけたと考える。しかし、達成感や知識取得の項目では平均して5段階評価の4点であり、比較的低い点数であった。内容の難しさから、十分な理解ができなかったと感じる学生も多かったためと思われる。

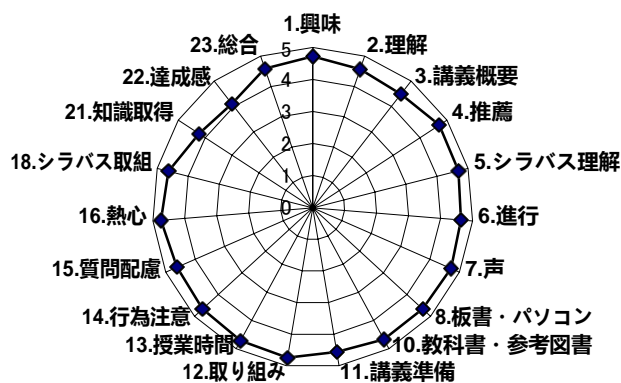
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

資料や講義の説明に関して、多くの良い評価を頂けた。理解を促すために注力した部分でもあり学生にも満足して頂けたと思う。一方、教員間での差について述べた意見もあった。内部障害の分野は大きく呼吸・循環・代謝の3分野に分かれるが内容は関連するものも多い。2名の教員が別々の分野を担当して講義したため、分野間の関連について学生が理解することが難しかったことが伺える。

㊦ 今後の改善に向けて

授業評価アンケートの結果を受けて、高評価であった資料や講義の説明、質問への対応などは今後も継続すべきであると考えている。教員間の情報共有を密にすることで、内部障害の各分野の関連についても学生に理解を促せるように工夫をしたいと思う。

平成 28 年度
内部疾患系障害理学療法治療学
1～5 授業内容、6～10 授業方法、
11～15 教員、16～18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 内部疾患系障害理学療法治療学実習

□ 担当教員 白井 晴信、宮津 真寿美

□ 出席者数 39

㊦ 集計データ結果について

内部障害の難しい内容をできる限り自分で考え、理解できるように工夫をした。具体的には実技演習を取り入れデータの分析をしたり、模型を用いたメカニズムの説明を行ったりをした。以上の点からアンケート結果を分析すると、質問への配慮や資料、準備や取り組みに対しては多くの学生が満足していただけたと考える。しかし、達成感や知識取得の項目では、平均して5段階評価の4点であり、比較的低い点数であった。内容の難しさから十分な理解ができなかったと感じる学生も多かったためと思われる。

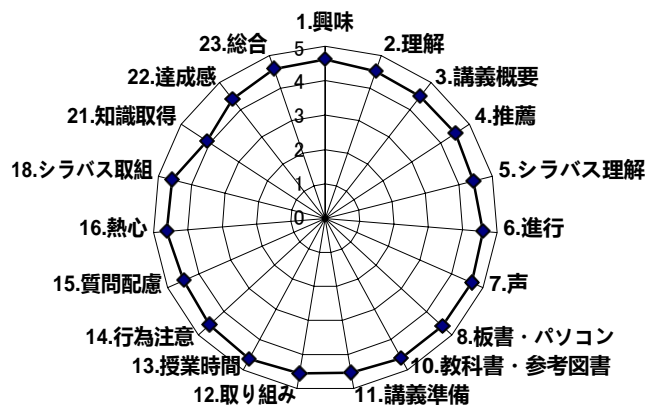
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

資料や講義の説明、熱意に関して多くの良い評価を頂けた。理解を促すために注力した部分でもあり学生にも満足して頂けたと思う。また、「興味を持てた」「楽しかった」という学生がいた点について、「興味を持ち、学ぶことが楽しくなるような講義」を目指していたためとても嬉しく思う。

㊦ 今後の改善に向けて

今年度、ポートフォリオと小テストを評価基準に加えた。アクティブ・ラーニングと合わせて、授業形態、成績評価の評価方法としては良い結果であったが、学生がさらに能動的にわからない点などを質問できるような環境を整えていくことが今後の課題と考えられる。

平成 28 年度
内部疾患系障害理学療法治療学実習
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 小児疾患系障害理学療法治療学

□ 担当教員 野原 早苗

□ 出席者数 40

㊦ 集計データ結果について

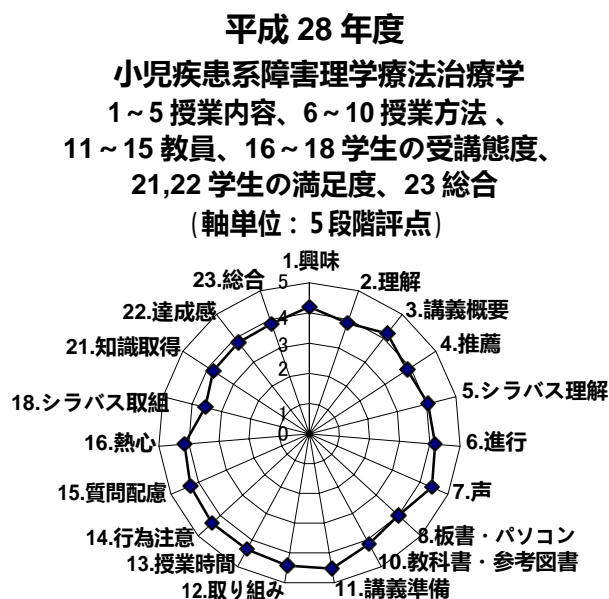
2歳前後までの子どもの特徴に対するイメージが難しく、苦手意識の強い授業ですが、評価が4前後であり、関心は示してくれた事と思っています。しかし、学生の取り組み項目や「達成感」「総合」は低く、学生の取り組みに対する興味をもっと引きつける必要性を強く感じています。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

「プリントでまとめてほしい」「どこが重要でどこがそうでないかがわからなかった」の記載は、評価でも表れているように、事前学習や復習の少なさに繋がると考え、事前学習や復習をしたくなるような内容ではなかった事と受け止めております。また、「実際に動いた事で理解しやすかった」「映像もありわかりやすかった」の記載は、運動発達は、教科書だけではイメージが難しいと感じており、時間の許す限り実技や映像を実施して良かったと思っています。

㊦ 今後の改善に向けて

大部分の学生が周りに小さい子どもがいる環境ではなく、外出先で見かけた子ども達を観察する機会も難しく、毎年、苦手意識の強い科目です。まずは、正常発達を理解し子どもの動きに興味を持ってもらう為に、子ども番組や赤ちゃんが出演しているテレビコマーシャルの紹介や玩具売り場へ見に行くことを提案したが、実施される事が少ない状況です。また、教科書のまとまった項目でも理解困難な状況が増えてきた事を感じた。アンケートにあったように、さらに分かり易くまとめたプリント作成が必要だと思いました。まずは、興味を持ち、自ら勉強するきっかけ作りが大切だと感じています。



科目名 小児疾患系障害理学療法治療学実習

□ 担当教員 野原 早苗

□ 出席者数 40

㊦ 集計データ結果について

2歳前後までの子どもの特徴に対するイメージと母子関係の理解が難しく、苦手意識の強い授業でありましたが、評価が4前後であり、関心は示してくれた事と思っています。しかし、学生の取り組み項目や「達成感」「総合」は低く、学生の取り組みに対する興味をもっと引きつける必要性を強く感じています。

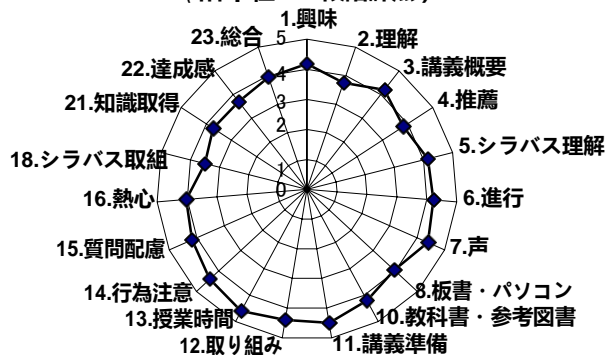
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

「実習をしない時は教室してほしい」「実技を行いながらメモを取る時間を取ってほしい」の記載が目立った。実技を実施しながらも、講義での知識面の強化ができず、実技への解説が長くなってしまい、その結果、実技ができなくなる事もあり、反省しています。また、「人形を使って説明してもらえてわかりやすかった」「自分の体を使って疾患等をやってみたのは、為になりました」の記載については、授業内容の対象者が子ども（赤ちゃんも含む）であり、理解に苦しんだと思いますが、その中でも人形を使う事は大切だと再認識しました。そして、患児の姿勢体験や治療姿勢は、学生同士で実施したので、身体の高さに無理があったとは思いますが、教科書の言葉に対してのイメージが膨らんだと思っています。

㊦ 今後の改善に向けて

子どもの大きさや特徴、そして保護者（主に母親）と患児の関わりについては、知識面が強化されていないと難しいので、赤ちゃんの人形を使用し、映像を見せて実施する時間を、今までよりも増やしていく事が必要であると思いました。

平成 28 年度
小児疾患系障害理学療法治療学実習
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 老年期障害理学療法学

□ 担当教員 木村 菜穂子

□ 出席者数 42

㊦ 集計データ結果について

アンケート結果は概ね 4 以上という評価をいただきました。学生の皆さんも、興味を持って熱心に受講していただけた方が多かったように思います。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載は「具体例があってイメージしやすい（経験談や家族の話が面白い、の方が多くのようにも思いますが）」「講義プリントがあって分かりやすい、後から振り返りやすい」というご意見が多くみられました。

これは、これまでも良い評価をいただいていたので、よかったですと思います。一方で「スピードが速い」「プリントに書き込む時間が足りない」等の意見もまた例年通りいただきました。授業内容を少しずつ見直していますが、学生の皆さんにも授業中だけでなく復習時間を確保し、対応するなどの工夫もお願いしたいところです。さらに、「（教員が）怖い」というご意見もいただきました。どの様な場面でそう感じられたのかはこの記載からだけでは分かりませんが、初回の授業で説明しているように、懸命に学ぼうとしている人の邪魔になるような行為は放置できませんので、これに関しては今後も毅然とした対応をとっていきたいと考えています。

㊦ 今後の改善に向けて

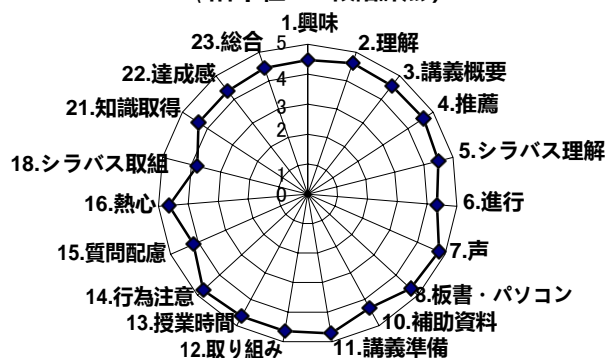
今後も、皆さんから評価していただいた点は継続し、授業内容やスピードなどは学生の皆さんの理解が深まるようにさらなる工夫をしたいと思えます。

また、自由記載に「試験までの期間があきすぎて困った」とのご意見も頂きましたが、今年度からの制度変更（試験期間の設定）のために起こってしまった新たな問題です。すぐに対応は難しいですが、そのような意見があったことは今後の参考にしたいと思えます。

平成 28 年度

老年期障害理学療法学

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 日常生活活動学

□ 担当教員 加藤 真弓

□ 出席者数 37

㊦ 集計データ結果について

「知識取得」、「達成感」の項目で点数が低かった。全体としては4点台であり、概ね良好であると思われる。上記2項目で低かったのは、試験結果として十分現れていなかったことが理由と考えられる。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

「特になし」、否定的な記載もあったが、肯定的な記載が比較的多かった。グループワークの時間が短いという意見があった。グループワーク時間は敢えて短く設定している。限られた時間で効率よく最大限のことをしてほしいという狙いがある。その狙いを今後は十分に説明した上で進めていきたい。振り返りシートを取り入れたが、肯定的な意見もあれば否定的な意見もあった。シートの取組みが不十分だった者の多くが再試験対象となっていることから、日頃の取組みが十分でなく、理解不足のままになっている可能性が考えられる。

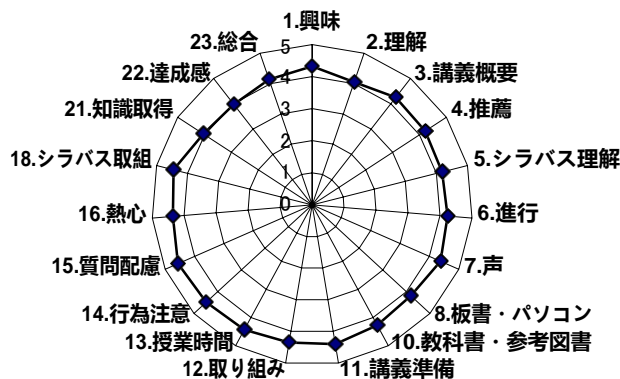
㊦ 今後の改善に向けて

振り返りシート内容が十分でない者が再試験対象となる可能性がうかがえることから、事前に別途対応をし、何が問題かを把握し学習を促したいと考える。グループワークを実施することについては肯定的であるため、今後は円滑に進むような工夫を検討したい。

平成28年度

日常生活活動学

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 日常生活活動学実習

□ 担当教員 加藤 真弓

□ 出席者数 37

㊦ 集計データ結果について

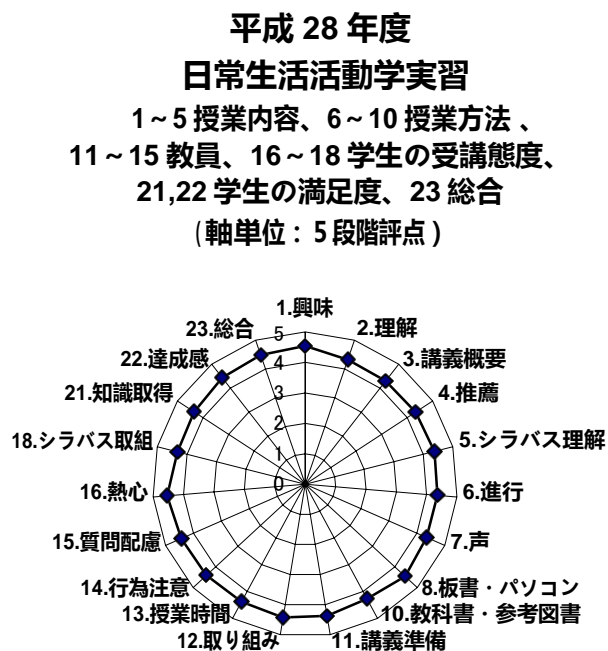
4点台と概ね良好であると思われる。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

特に意見がないため、可もなく不可もなくというところでしょうか。本科目は疾患別の ADL を学ぶ授業である。事前に症例情報を提示し、その症例に沿った ADL 訓練や指導をグループで検討した。授業中にグループで症例課題に取り組む前に、個人学習を義務付けているが、それを行わないまま検討していた様子が見られた。それが、+α の資料を求める意見となっていると推察する。以前は個人課題の提出を義務付けていたが、今年度は復習小テストを導入したため、課題負担を軽減しようと学生の自主性に任せた。しかし、指定図書以外の資料を持参する学生はいなかった。

㊦ 今後の改善に向けて

症例を通して疾患別の ADL を検討することについての否定的な意見がなかったことから、次年度も継続しようとする。その理由は、疾患に特徴的な ADL 指導法の基本はあるが、臨床で大切になってくるのは、一人ひとりの対象者に合わせた ADL 指導・訓練であるためである。知識や考え方の確認に重きを置くのか、症例検討をしっかりと行うための事前準備に重きを置くのか、よく検討した上で、学生がしっかりと基本的知識を身につけられ、対象者に合った ADL 指導・訓練ができるような授業としたい。



科目名 義肢装具学

□ 担当教員 山田 南欧美

□ 出席者数 45

㊦ 集計データ結果について

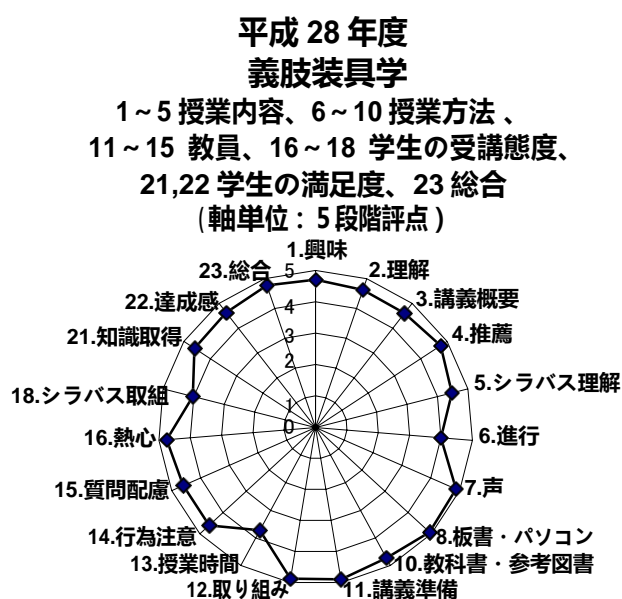
総合評価では、「良い」77.5%、「どちらかといえば良い」22.5%と、すべての学生が授業を良かったと評価していた。また、授業に対する取り組みについては、「熱心に取り組んだ」75%、「どちらかといえば熱心に取り組んだ」25%で、すべての学生が前向きに授業に取り組んでいた。よって、学生の評価は良好であると考え。項目別に評価を確認すると、「進行」「授業時間」「シラバス取り組み」の項目において、点数が下がっていた。各授業で用意したプリント内容の範囲がすべて時間内に終了せず、次回に持ち越しになった授業が何度かあったため、このような評価に至ったと考える。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

本授業では、予習プリント、講義プリントを使用して講義を進めた。なるべくプリントを見ることで義肢装具のイメージが伝わるように作成したが、「プリントがわかりやすかった」との評価が多く、資料内容については問題がなかったと考える。ただ、予習プリントについては、一部「予習復習が作業になって頭に入らなかった」との意見もあり、予習プリントの内容や量については、再考の余地があると考え。また、本年度が初めての開講であったこともあり、授業の進むスピードをなかなか掴めず、予定していた範囲の講義内容が終了しなかったり、終了時刻が延長してしまったりすることが何度かあった。学生からの意見でも、「授業時間の延長が多い。授業の時間配分があまり良くない」「資料などは見やすかったけど、授業のレジュメがいつも終わらなくて急ぎ気味だった」とあり、この点においては、改善が必要であると考え。

㊦ 今後の改善に向けて

概ね、学生からの評価は良好であったので、来年度の講義方法も同様の形で行っていききたいと考える。ただ、1コマの授業の内容量や授業を進めるスピードについては、今一度検討し、予定した範囲を授業時間内でしっかり終えるように来年度以降努めていきたい。また、予習復習がただの作業になってしまわないよう、今一度内容を工夫し、学生が主体的に取り組んでいけるようにしたい。



科目名 義肢装具学実習

- 担当教員 山田 南欧美
- 出席者数 32

集計データ結果について

総合評価では、「良い」59.4%、「どちらかといえば良い」34.4%であり、9割以上の学生が良かったと評価していた。満足度においても、「満足している」53.1%と、9割以上の学生が満足しており、達成感については、「得られた」62.5%、「どちらかといえば得られた」31.3%と、9割以上の学生が達成感を有しており、ほとんどの学生が本授業に対して高評価をしていることが伺える。これは、受講態度において、「熱心に取り組んだ」75%、「どちらかといえば熱心に取り組んだ」21.9%と、9割以上の学生が熱心に授業に取り組んでいたところからも、予測できる。

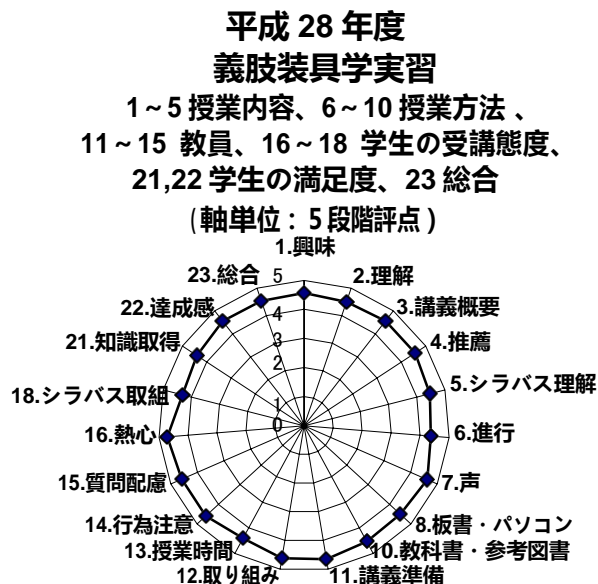
本授業では、実際の義肢装具の写真や動画を見せたり、国試過去問を利用したグループワークを実施したり、現役の義肢装具士を招き、講義をしていただく等、学生たちの興味を引けるような内容を心掛けた。その結果、上記のような集計結果に結び付けることができたと考える。

学生の自由記載の内容を検討した結果

「装具の体験は理解を深めることができた」との自由記載もあることから、現役義肢装具士を招いた講義がとても有効であったと考える。講師の義肢装具士様には、最新の義足や装具も大量に持参していただき、学生たちは実際に義肢装具に触れながら講義を受けることができた。これにより、スライド上や教科書上の2次元での理解であった授業内容を、より現実的に、深く学ぶことができたのだと考える。また、講師の先生は模擬義足を持参してくださったため、学生たちは義足装着者がどのような歩容になるかを自分の身体で体験することができた。このことも、異常歩行等を理解するのに、とても有益であったと考える。

今後の改善に向けて

学生からの評価は概ね良好であったため、来年度も同様の内容で講義を進めていきたいと考えている。また、来年度は、学生から好評であった義肢装具士の講義の時間を1コマから2コマに増やす予定であり、より実践的な授業を実施できると考えている。引き続き、アクティブ・ラーニングを引き出せる内容を工夫していく。



科目名 物理療法学

□ 担当教員 白井 晴信

□ 出席者数 41

㊦ 集計データ結果について

基礎的な事項を中心に理解できるように授業を構成した。基本的に授業に興味を持っていただけた結果であると考えている。集計データを見て特に良かった点は、質問をしたという人が多かった点であり、実際に興味を持って質問に来ていただいた学生が多かった。この点は授業の進め方としてよかったのではないかと考えている。復習のポイントを提示して復習した内容を提出して頂いたため、復習に時間を費やした人は多かった。しかし、予習の仕方がわかりにくかったためか、予習に時間を使った人は少なかったようである。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

授業資料や授業中の説明が満足いただけた内容の記載が多かった。その点は今後も継続しようと思う。また質問をしやすかったという感想も多く、授業に興味を持っていただけたものと思う。今後も理解しやすく、疑問を持てるような授業を心がけようと思う。

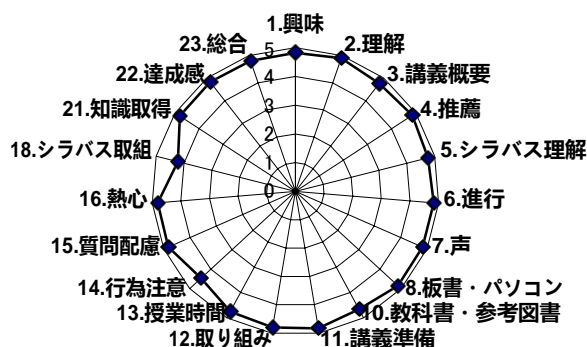
㊦ 今後の改善に向けて

授業がパワーポイント資料を使ってやや一面的になってしまったという反省点がある。今後の授業ではもう少し学生が参加できるように授業を工夫して行いたい。また、授業の中で物理療法機器に触れる機会を増やすことも理解を促すことになると思われる。今後は座学だけでなく実習の機会も作りさらに興味を持てる工夫をしたい。

平成 28 年度

物理療法学

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 物理療法学実習

□ 担当教員 臼井 晴信、清島 大資

□ 出席者数 40

㊦ 集計データ結果について

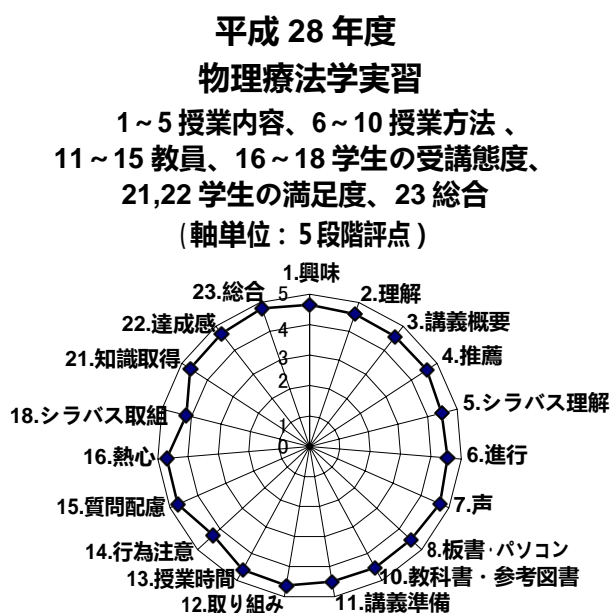
アンケート結果はほとんどの項目で 4 点台後半であり、概ね満足度が高かったと思われる。点数の低い項目は「シラバス取組」や「行為注意」であった。実習内容の全てはシラバスに記載されておらず、発表の点数のつけ方などが不明瞭であった可能性がある。実習中は実験をしている学生と手が空いてしまう学生がいた。実習に学生が集中できる環境を作る必要があると考える。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

実験準備において器具の不具合があり適切な対応を取れなかったことについて、複数の学生から意見があった。実験が円滑に行えるように、破損状況などを事前に確認しておくべきであった。講義内容については「物理療法の内容が実習によって理解できた」「楽しかった」といった意見が多く、物理療法学で行った内容の理解を促す学修ができたと思われる。

㊦ 今後の改善に向けて

実験の方法を再検討し、事前に実験器具を確認する。また実験に意欲的に取り組み効果的な学修が促せるように、実習の環境をハード・ソフトの両面で整える必要があると考える。学生の理解を深めるためにレポートや発表に対するフィードバックも充実するべきである。



科目名 理学療法特論 I (神経生理学的アプローチ)

□ 担当教員 鳥居 昭久、加藤 真弓

□ 出席者数 19

㊦ 集計データ結果について

知識取得の項目は他と比較してやや低かったものの、全体として良好な結果と考える。

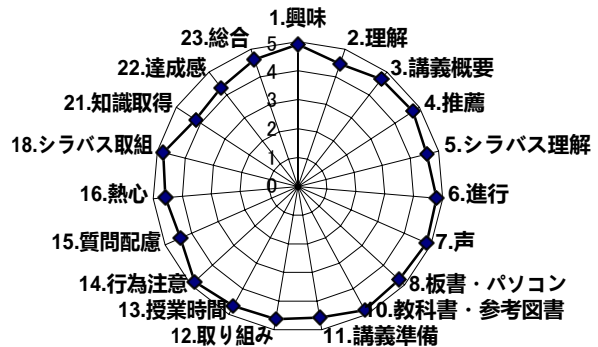
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見が多かった。特論は5分野の中から最低2科目を選択するため、興味・関心のある学生が受講していることから、肯定的な意見が多くなったと考えられる。また、臨床実習経験を振り返り、改めて脳血管疾患に対する理学療法の根拠を考えるとともに、実習体験の共有や実技を行い、卒後に使える知識・技術の導入と、この分野に興味をさらに持ってもらうために楽しく受講してもらうのを目的にしたことが理由と考える。

㊦ 今後の改善に向けて

中枢分野は、学生が苦手とする分野である。少しでも、この分野の面白さを、理学療法の根拠となる科学的知識や治療・訓練技術を伝えていける内容としたい。

平成 28 年度
理学療法特論 I
(神経生理学的アプローチ)
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 理学療法特論Ⅱ（関節運動学的アプローチ）

担当教員 鳥居 昭久・加藤 真弓

□ 出席者数 32

㊦ 集計データ結果について

基本的に大きな問題点は無いように思われる。講義変更などがありシラバス内容と若干の差違があったために、学生の準備に戸惑いをさせてしまったことが反省点としてあげられた。

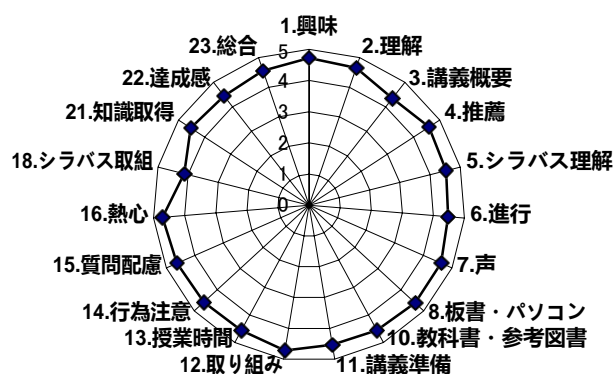
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

臨床につながる実技を中心とした内容で進めたため、学生にもその点は実感できたと思われる。臨床実習で見聞きした理学療法技術についての興味が高まり、その結果として卒業後の研鑽に繋がることを期待したい。

㊦ 今後の改善に向けて

より実技を多く取り入れ、臨床において実践的に使える技術を身につけさせる機会、取り組みを促したいと考えている。

平成 28 年度
理学療法特論Ⅱ
(関節運動学的アプローチ)
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5 段階評点)



科目名 理学療法特論Ⅲ（筋生理学的アプローチ）

□ 担当教員 宮津 真寿美、清島 大資

□ 出席者数 28

㊦ 集計データ結果について

知識取得（3.9点）以外の項目は4点以上で、学生からの評価は良好でした。

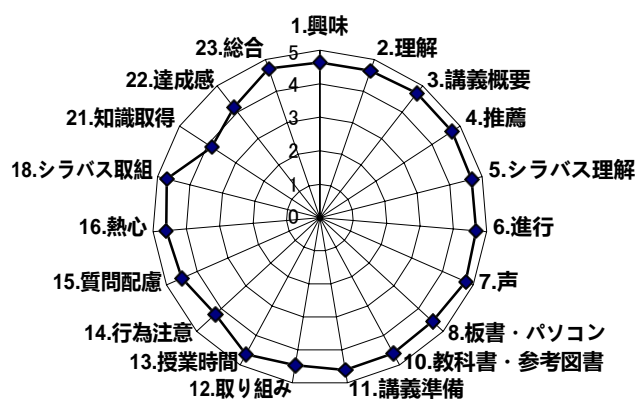
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載では、「ためになった」、「楽しかった」、「わかりやすかった」、「興味深かった」という記載が多い。本授業は、基礎的知識から、実技を含めた臨床的な内容を講義している。「国試対策になった」、「基礎の部分の復習になった」という基礎的知識の内容から、「臨床で活用できる」などの臨床的内容まで、良好なコメントがあり、幅広い授業が展開できている。

㊦ 今後の改善に向けて

自由記載にあるように、スライドの文字、授業開始の遅れなどについて改善する必要がある。

平成 28 年度
理学療法特論Ⅲ
（筋生理学的アプローチ）
1～5 授業内容、6～10 授業方法、
11～15 教員、16～18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
（軸単位：5段階評点）



科目名 理学療法特論Ⅴ（吸引・喀痰法）

□ 担当教員 白井 晴信、長井 多美子

□ 出席者数 18

㊦ 集計データ結果について

臨床実習を終えたばかりの学生が対象であったため、臨床現場を想定した考え方ができるように実技演習と講義を行った。また講義の内容には国家試験の対策になるものも含めた。2 コマ分は看護師による吸引の実技演習を行った。集計結果では、「興味」「推薦」「進行」といった項目で特に点数が高く、学生が興味を持てる授業構成ができたと考える。「知識取得」「達成感」の項目はやや点数が低かったが、内容が難しく理解できなかった部分もあったためと思われる。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

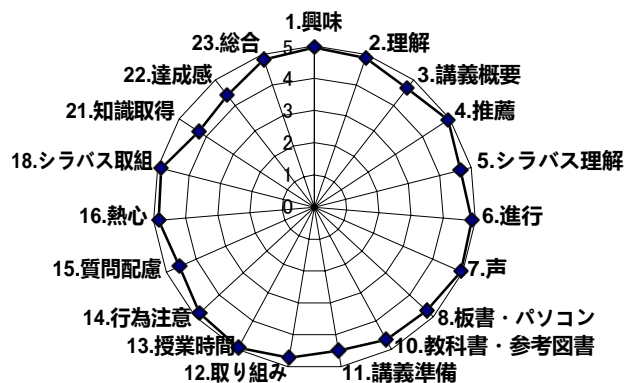
基礎的な考え方を臨床でどのように生かすかを伝えられるように工夫した。そのため、学生からも「わかりやすかった」「ためになった」「実技がよかった」という意見を頂いた。特に「楽しかった」と記載した学生が複数おり、授業としては成功だったと考える。また、看護師による吸引演習は、内容も好評であったが、看護師の話聞く機会が得られたことが良かったという意見があった。他職種からの講義は学生にも刺激的だったと思われる。

㊦ 今後の改善に向けて

授業内容は概ね満足いただけたと考えている。今後は実技の演習時間を増やし、さらに学生が主体的に学べるように工夫したい。また看護師による吸引の講義と実技演習は引き続き継続して行うべきであると思う。

平成 28 年度 理学療法特論Ⅴ (吸引・喀痰法)

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名

生活環境論

□ 担当教員 木村 菜穂子

□ 出席者数 33

㊦ 集計データ結果について

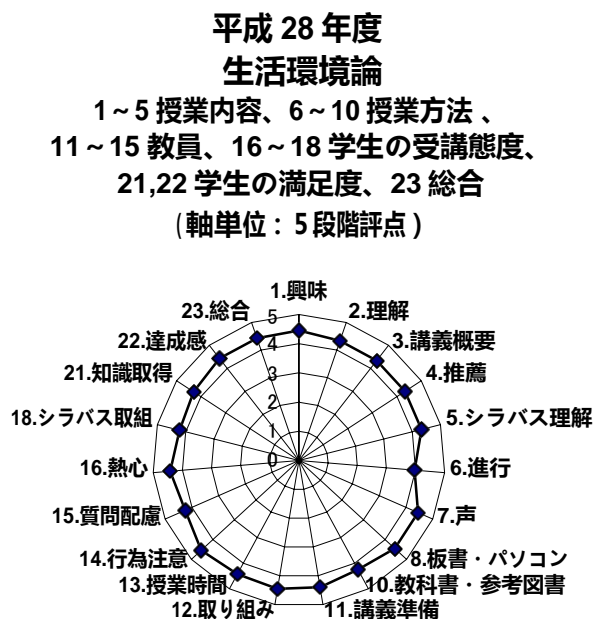
評価は概ね 4 以上と、大きな問題はなかったかと思えます。その中で、「進行」が若干低い評価となったのは、最後のグループワークが時間通りに終了せず、時間外での指導になったためかと予測します。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載がほとんどなく残念ですが、「自宅環境や施設の手すりなどが気になるようになった」との記載があり、大変うれしく思います。まずは、身の回りの環境に目を向けていただきたいとの思いがありますので、今後もそのような思いを持っていただけるように授業を進めていきたいと思えます。

㊦ 今後の改善に向けて

自由記載が少なく、自己分析となってしまいますが、グループワークは実習前に対象者の生活を考える視点を持てる機会だと思えますので、できるだけスムーズに進むような工夫をしながら、継続していきたいと思えます。



科目名

地域理学療法学

□ 担当教員 木村 菜穂子

□ 出席者数 37

✧ 集計データ結果について

各項目、概ね 4 以上の評価となっています。特に授業方法や教員への評価が良好であり、たいへんうれしく思います。反面、学生の皆さん自身の評価が若干低め（知識習得・達成感）であり、この点に関しては私自身がみなさんの興味を引く講義ができたのか、必要な知識を十分に伝えられたのか、反省すべき点だと思います。

✧ 学生の自由記載の内容を検討した結果

今年は、自由記載が多くあり、色々なご意見をいただきました。概ね「授業プリントが役に立った」「教員自身の経験などを基に説明があった所は分かりやすかった」との意見が多く、制度論が中心となるこの講義でも工夫することがまだまだある、と自信にもなりました。ただ、教科書の必要性が分からない、スライドを書き写すのが大変との意見も少数ですがありました。スライドを写すだけの作業にならないよう、さらに重要なポイントを分かりやすく伝える必要があると感じています。

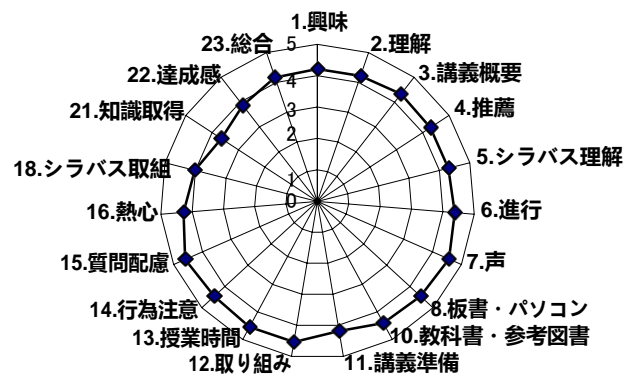
✧ 今後の改善に向けて

制度論（介護保険）が中心の講義内容ですので、学生の皆さんに必要性や理学療法士の仕事と直接的な結びつきがイメージしにくいのは承知しています。ですが、必ず必要になる内容であるとの思いも強く持っています。今後、理学療法士は今まで以上に地域で活動することが求められます。ですからできるだけ皆さんが興味を持てる、理解できることを目標に、さらに授業内容・方法（プリントやスライドの見直し）などを行っていきたいと思います。

平成 28 年度

地域理学療法学

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 地域理学療法学実習

□ 担当教員 加藤 真弓・鳥居 昭久・臼井 晴信・山田 南欧美・田原 靖子

□ 出席者数 27

集計データ結果について

4 点台と良好な結果であると思われる。開講初期と比べ、まだまだ気づきが不足し、指示待ちの学生もいるが、多くの学生が高齢者や幼児との関わり方が上達したと感じる。一方的に知識を伝達されるのではなく、自ら動かざるをえないため、できることが増えてきたことを実感したり、対象者からの感謝の言葉等の反応から達成感も得られやすかったと思われる。

学生の自由記載の内容を検討した結果

「動き方」については概論的に説明をしたが、対象者に合わせてこちらの対応(動き)を臨機応変にしなければならないため、パターンが多く詳細については説明しきれない。何もせず立っているだけではなく、多少の失敗はあったとしても、状況をみて、相手の立場になって考え、またサポートをする者として何をしなければならないのかを考え行動することを求めたい。その試行錯誤の積み重ねが、今後の成長につながると考える。

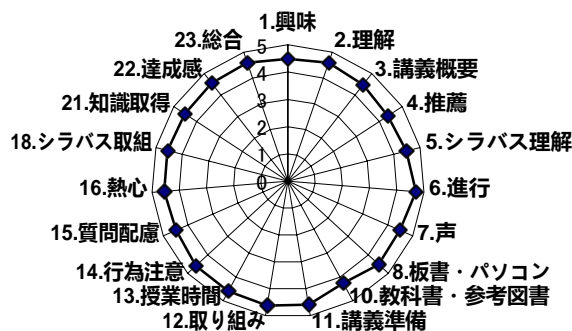
保育園実習の参加に関しては、保育園実習全体の取組みとしては日数をクリアしている。

今後の改善に向けて

次年度の保育園実習は継続であるが、介護予防関連については形態が今年度と異なる。新たな形態で、学生に地域理学療法を体験し、考える機会を作っていきたい。

平成 28 年度 地域理学療法学実習

1～5 授業内容、6～10 授業方法、
11～15 教員、16～18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 作業療法概論

□ 担当教員 港 美雪

□ 出席者数 31

㊦ 集計データ結果について

本講義の評価結果は、円グラフで見るとおおよそ「4.5」程度で円形となっている。講義内容の難しさである「理解」の点数がやや低かった。能動的に楽しく参加できるグループでの取り組みや、学生同士で意見交換をする時間をつくるなど、能動的な学ぶことのできる内容を工夫し、積極的に深く考え、理解できるようになるプロセスを踏むことができるように配慮した。また理解したことを表現することができる機会を設け、学生は個々に理解できた範囲で説明する機会を持った。

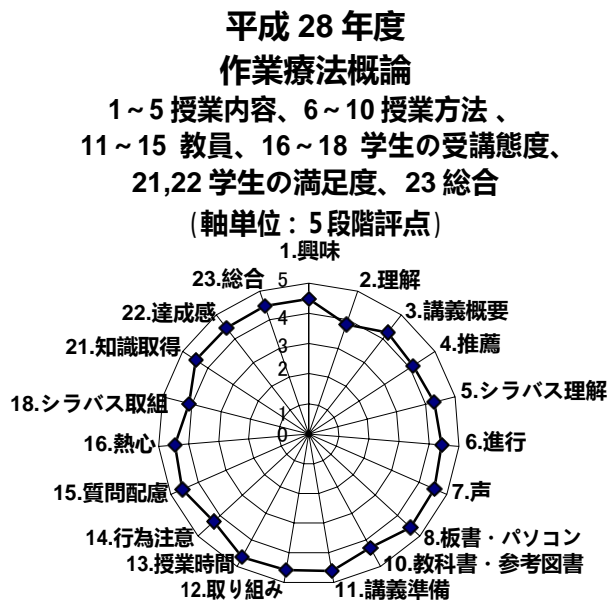
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

講義に対して、良かったこととして挙がっていた意見の多くが、本講義の狙いの一つであった能動的取り組みを引き出すグループワークに関してであった。たとえば、「作業療法についていろいろ話し合い、改めてどんな職業なのかを知ることができて良かった。」

「ほかの先生とは違ってみんなで一緒に学ぶという感じで、わからないことがあったらすぐ聞けるし、理解してる子から聞いて一緒に理解したり、理解を深めたりっていうことができ、この授業形態がすごいよかったと思います。」、また、「最新の作業療法について学べてこれからも学びたいと思える授業でした!」「とても楽しく授業が受けられました。」「2年生になった時にもう一度のこの講義を受けたらまた違う理解ができるのではないかと思うほど、興味深い講義でした。」といった意見からは、作業療法を学ぶことへの関心を高め、意欲を高めることができていることがうかがえた。

㊦ 今後の改善に向けて

改善を求める声として「プリントの答えが自分で書いたので合ってるのかがわからなくてテストも不安だった。答えは個人で違うと思うけど、模範解答みたいなのが欲しかったです。」という意見があった。毎回、学習目標を定めて、その内容の答えを確認して進めたつもりであったが、改善が必要であり、丁寧にフィードバックする方法を検討し、取り組んでいく必要がある。



科目名

作業療法研究法

□ **担当教員** 美和 千尋、港 美雪、加藤 真夕美、山下 英美、横山 剛、堀部 恭代、草川 裕也

□ **出席者数** 29

㊦ 集計データ結果について

評価は全て、平均④「どちらかといえば、そう思う」であった。授業を教員に割り振って、個々の先生の研究について講義してもらって行ったことがこの満足度につながったと思われる。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載については、良い点では、「わかりやすくて良かった」「文献の探し方が良かった」「いろいろな先生の研究がわかった」「Excel など自分が勉強しないといけないパソコン知識があることを知れて良かった」などであった。反面、「研究法についての知識が身につけているのか実感が湧かなかった」「もっと理解したい」「眠かった」であった。

㊦ 今後の改善に向けて

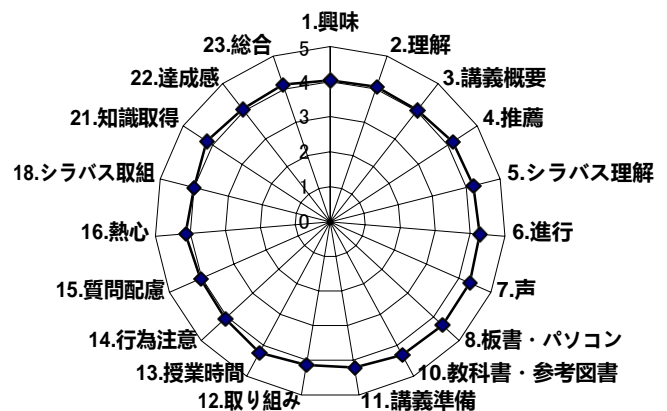
教員の研究テーマを授業で報告すること、倫理書類の書き方を重要視して行った。以下今後の重要とする要点を述べる。

- ・ 研究で理解が困難な統計学を指導する。
- ・ 卒業研究の計画はゆとりを持って取り掛かりをする。
- ・ 教員の研究テーマから自分のテーマを探せるように指導したい。

平成 28 年度

作業療法研究法

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 臨床運動学 (OT)

□ 担当教員 加藤 真夕美

□ 出席者数 29

✧ 集計データ結果について

すべての項目で平均 4.5 点前後であり、バランスのとれた評価であった。本講義の工夫としては①教科書のガイドとなるようなレジュメを作成すること ②体験学習を多く取り入れて「体で理解する」仕掛けを用意すること ③学生の声を授業中に積極的に拾うこと ④授業の一部に上級生にも参加してもらい、臨床家になるという意識を高めること の 4 点である。②について、本授業は講義という形式の授業であるが、疑似体験しながらそれに関する知識をその都度入れていくことにより、共感的に対象者を理解することを推進している。③については昨年度の授業評価の反省から、例年よりレポート返却時や演習時に教室を巡回するなどして学生の意見に耳を傾けたりその都度フィードバックしたりというやりとりを心掛けた。また、例年声が小さいとの指摘が数名よりあったため、今年度からはマイクを使用した。バランスのとれた評価は、これらの試みの意図が学生に伝わったものと考えている。

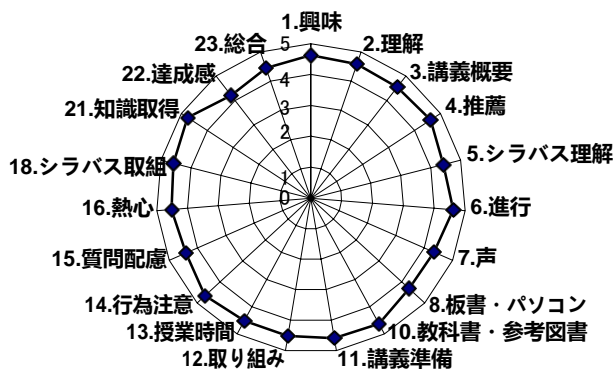
✧ 学生の自由記載の内容を検討した結果

「わからないことを理解できるまで説明してもらえたので、わからないことをためずに毎回授業に取り組むことができた」「実際の体験をすることで、少しでも患者さんの気持ちを想像することができた」「実習で役に立つ知識が身につくことができてよかった」「先輩と練習させていただいたのは勉強になったためよかった」「プリントの構成も読みやすくわかりやすかった」など、上述した講義の工夫をしっかりと読み取ってくれた学生の意見が多かった。一方で「もう少しいろいろなペアと練習できるような配慮が欲しかった」「教科書の図の説明を授業でもう少ししてほしい」「先輩の事例をもっとやりたかった」との具体的な提案がいくつか挙げられており、次年度への課題を頂いた。

✧ 今後の改善に向けて

演習時のペアの組み方を変更するかについては、毎年クラスの雰囲気を見ながら考えているが、学習効果と照らし合わせて次年度も検討したい。上級生の活用については 30 時間の枠内では限界もあるので、少ない機会を最大限利用してもらえるように工夫する。また、教科書の写真については演習を通して説明しており、それが演習の狙いでもあるが、理解の不十分な学生には個別に対応していく。

平成 28 年度
臨床運動学 OT
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5 段階評点)



科目名 基礎作業学

□ 担当教員 美和 千尋

□ 出席者数 32

㊦ 集計データ結果について

全体的な評価は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であったが、「シラバス利用した」の評価が低かった。授業は概ね学生の満足したものになっていたと考える。その理由は、昨年から引き続いて行っている考慮点である、1. 出来るだけ多くの学生を指名し、授業に参加している意識を高める。2. ペースをゆっくりした速度で行えた。3. 図表など丁寧に説明ができたことを提供したからと考える。授業の最初には、30分ぐらい前回の授業の復習をするようにした。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由欄の記述では、良い点として、「作業療法士のことをより詳しく理解できた」「分かりやすいたとえで内容を進めてくださったので理解することができました」「進み具合がよく、わかりやすかった」「みんなな授業に参加して、いいなと思う」「教科書だけではなく資料もあったのでよかった」「ペースがゆっくりだったので理解できました」2) 悪い面では、「話を聞くことが多く、眠くなってしまっていて内容が頭に入っていないことがあった」「作業の内容が難しかったです」「興味をひかれる内容のほうがいいかなと思う」「もうちょっと教科書をたくさん使って教えてもらいたかった」「授業の進みが遅く、退屈を感じる事があった」。

㊦ 今後の改善に向けて

以上の集計データと自由記載欄の事項を踏まえて、以下のような改善を行っていきたい。

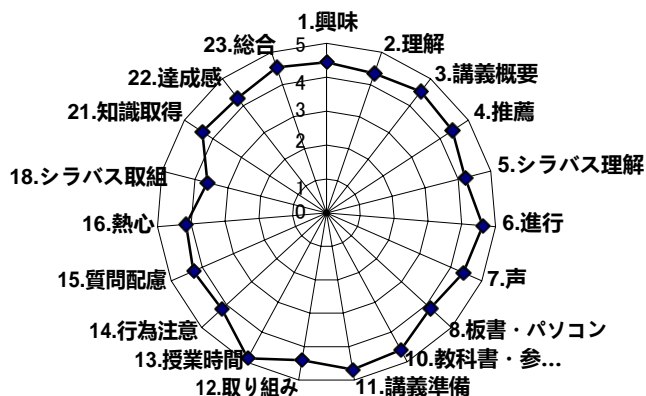
- ・ シラバスをもう少し利用するような指導をしたい。
- ・ ペースは今年度のようにゆっくり進めていく。
- ・ 教科書の使い方の工夫をしたい。

以上である。

平成 28 年度 基礎作業学

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合

(軸単位：5段階評点)



科目名 基礎作業学実習

- 担当教員 横山 剛、森下 章生、古山 晴香
- 出席者数 29

集計データ結果について

各項目で4~5点の間であり、非常にバランスが取れていると思われる。

3種類の種目を取り入れて行なっているが、それぞれに学生が楽しめる要素があり、モチベーションを下げずに学習出来たのではないと思われる。

国家試験にも出題される科目であることから、汎用性のある講義に努めている。そのこと自体のアセスメントはできないが、学生の学習意欲をそがないような授業として展開できたことはまずは十分な成果であると考ええる。

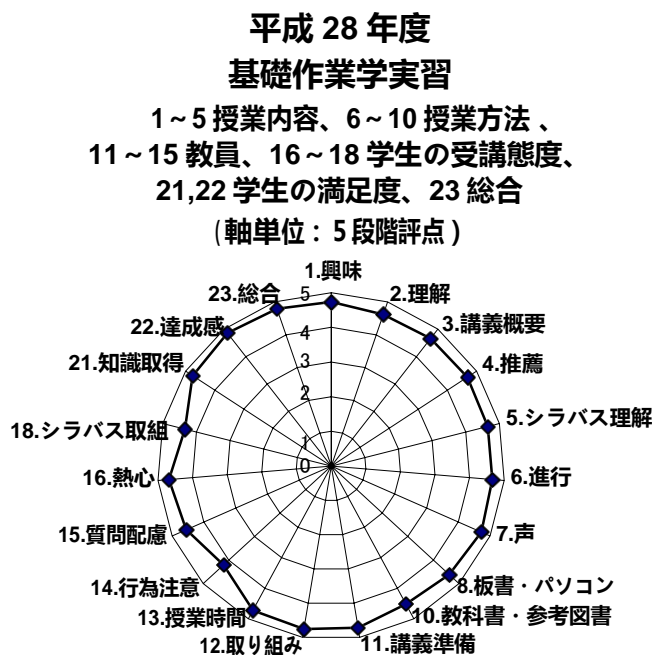
学生の自由記載の内容を検討した結果

「授業の内容がしっかり学習出来た」、「様々な作業を行い考える事ができて良かった」という内容であった。

作業を行うこと自体に多くの学生が楽しんで行っていたと思われる。その事は大変良い成果であると考えられるが、作業療法における治療としての作業を考える事には十分に至っていないため、この事に関して考える機会を作っていくことが必要である。

今後の改善に向けて

作業種目を増やし、アクティビティの多様性に対応する必要があるであろう。また学生の個別支援の必要性の高まりを感じているため、作業種目を選択性として授業を半分ずつ行うような工夫が必要であると考えられる。



科目名 作業療法評価法

□ 担当教員 美和 千尋

□ 出席者数 29

集計データ結果について

全体的な評価は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であったが、知識取得が低かった。その原因は、この授業は評価の概論の位置づけで内容が様々な分野の評価を広く浅く扱っているためと考える。

学生の自由記載の内容を検討した結果

自由欄の記述では、良い点として「実際の検査をプリントで体験することが出来てよかったです」「実際に評価の体験ができてよかった」とあった。また、逆に「教科書を見て一方的に話を聞くことが多かったので、もう少し考えたり、発表する活動があっても良いと思った」という意見もあった。

今後の改善に向けて

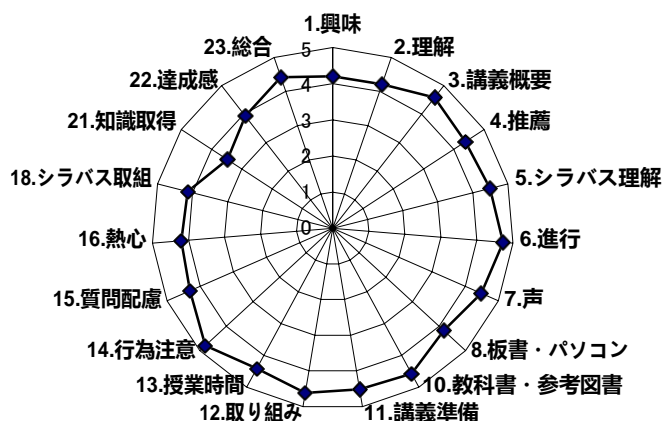
集計データと自由記載欄の事項を踏まえて、以下のような改善を行っていきたい。

- ・次年度は今年度と同様に行う。
- ・評価全体を網羅し、理解が十分できるよう実習形式で行う。
- ・来年度は科目担当が変わるので引き継ぎをする。

平成 28 年度

作業療法評価法

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 作業療法評価法実習

□ 担当教員 横山 剛・山下 英美

□ 出席者数 31

㊦ 集計データ結果について

全体的に4点前後のデータ結果でありバランスはまずまずであろうと考えている。しかし4点に達していない項目があり、ネガティブな評価をしている特定の学生がおそらく数人おり全体の平均値を下げている可能性がある。そのような学生についての配慮が必要であろうと考える。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

シラバスを読み理解した学生はこの実習で成果を残し、ポジティブな評価となっていると思われる。学生が自身の特性に気づききっかけとなっており、自身を考慮しながら評価へとつなげようとしているように思われる。その他として「資料があって分かりやすい」「質問の仕方が分かった」「楽しかった」などあった。

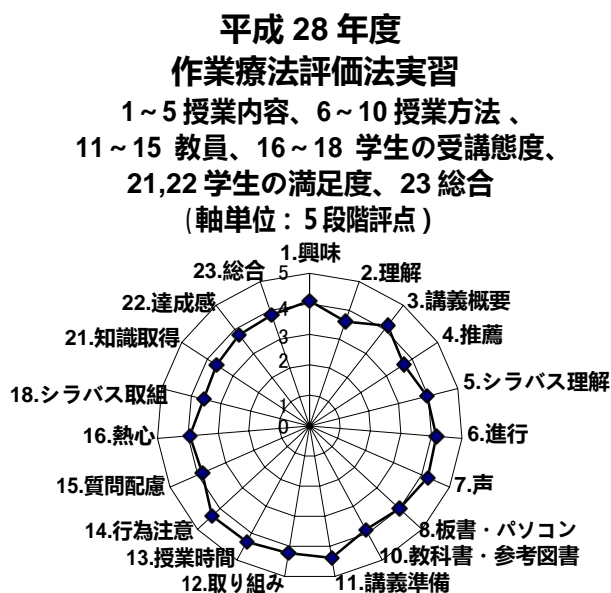
逆にネガティブな評価は、「授業中眠くなる」「金曜日（の授業実施は）は大変」、そもそも授業担当者のコントロールが及びにくい内容があった。建設的な意見として「もっと詳しく講義してほしい」などがあった。

授業担当者として到底理解できない事実とは異なる意見、全くこの授業と関係ないような内容のものが含まれており、授業評価の方法にも問題があるかと思われる。またそういった学生の主観にもかなり配慮しないと単なる教員を中傷するアンケートとなりかねないと思われる。

㊦ 今後の改善に向けて

沢山のことを盛り込んだ感があり、もう少し余裕を持ってじっくりと評価を進められるような授業計画をする。

学生が自身について安心して語る機会を提供する。



科目名 身体障害作業評価学

□ 担当教員 加藤 真夕美

□ 出席者数

㊦ 集計データ結果について

I 授業内容、II 授業の方法、III 授業担当者ではすべての項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計が 8 割以上であり、おおむね学生のニーズに沿った授業が展開できたと考えている。また IV 受講態度も、熱心に取り組んだ学生が 8 割超おり、双方向の授業となったと考えられる。声の大きさに関しては 1 割超の学生が不満を提示しており、今後の課題である。

一方、毎回予習・復習用のプリントを配布し、復習に関しては毎回の提出確認の結果、ほとんどの学生が提出できていたはずだが、復習時間がまったくないと回答した学生が 6 名おり、この誤差は何であろうかと思案している。授業が終了してからこの学生評価までの間に数カ月のブランクがあり、一部の学生には記憶から消去されてしまったのかもしれない。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

レジュメや資料のわかりやすさ、予習復習課題の量や難易度、課題のフィードバックの仕方、講義での説明内容に関して、多くの肯定的意見が寄せられた。身体障害領域の作業療法についての導入的な授業であることから、極力丁寧な教授を心掛け、学習状況を自己確認できるような仕組みをいくつか用意しておいたが、そのすべてが学生にも伝わったようであり、学生もその授業の意図を掴んでくれたと嬉しく思う。

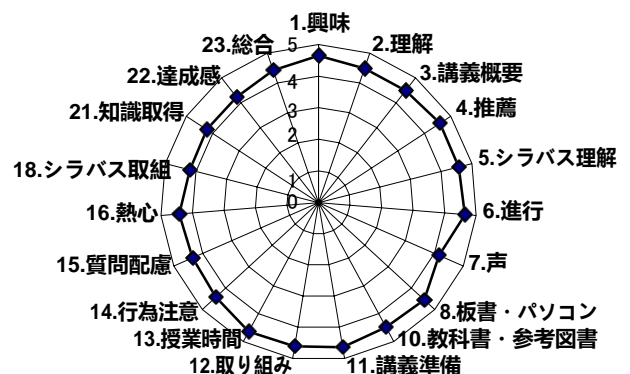
一方、声の聞き取りにくさについての指摘も複数あった。例年数人より指摘されることであるため、極力丁寧に発話するよう心がけているが、まだ不十分なようである。

㊦ 今後の改善に向けて

声の聞き取りにくさに関して、このことが学生の学習意欲をそぐことになってはいけなくて、次年度は声に関してとりわけ大きな関心事としたい。具体的にはマイクの使用を検討する。また学生の意見に耳を傾け、どのような時に聞き取りにくいかをしっかり聞き、対策を検討することから始める。

授業内容は、毎年分かりやすい授業となるよう工夫を重ねているが、居眠りしている学生もいることから、もっと学生の興味を引き付けるような仕掛けを用意していきたいと考える。

平成 28 年度
身体障害作業評価学
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5 段階評点)



科目名 精神障害作業評価学

□ 担当教員 横山 剛

□ 出席者数 30

㊦ 集計データ結果について

全体的に4点前後のデータ結果でありバランスはまずまずであろうと考えている。しかし4点に達していない項目があり、ネガティブな評価をしている特定の学生がおそらく数人おり全体の平均値を下げている可能性がある。そのような学生についての配慮が必要であろうと考える。

学生の理解を助けるために、質問表を配布し授業内において記載する時間を設けてきた。しかしながら、質問表が未記載の学生が毎回数人おり、質問ができないことが学習につながらない結果となっているのかもしれない。質問すること自体が目的となっている可能性は否定できない。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載が大幅に増加している。ポジティブ内容、どちらでもない内容、ネガティブ内容、それぞれ1/3程度であると思われる。

他者とコミュニケーションし意見を分かりあえたことや自身の課題に気づけたことなどをポジティブ評価として挙げられておりそのような学生の学習・理解には大いに役立っているのであろうと考えられる。

ネガティブ内容では、「眠くなる」や「質問できない雰囲気」といったものがあり、学習することに学生自身が責任を持って授業に臨めるような配慮を授業担当者として行うことの必要性があるのかもしれない。授業担当者として到底理解できない事実とは異なる意見もあり、そういった学生の主観にもかなり配慮しないと単なる教員を中傷するアンケートとなりかねないと思われる。

㊦ 今後の改善に向けて

臨床実習を見越しての授業と考えているのだが、その臨床実習についての理解が不十分であると、この授業自体で学生が困難な状況に置かれネガティブな評価につながるのであろうと考

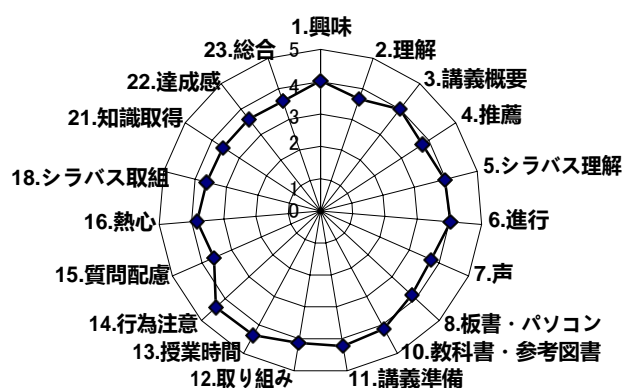
える。それを踏まえた授業計画が必要であるので、細やかな配慮や目配りを盛り込んだ授業計画を立案する。

国家試験の出題範囲もにらみ、授業内容に盛り込んでも行く予定とする。

平成28年度

精神障害作業評価学

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位: 5段階評点)



科目名

発達障害作業評価学

□ 担当教員 五十嵐 剛

□ 出席者数 31

集計データ結果について

ほとんどの項目で 4.5 以上の評点となっており、学生にとって概ね満足のできる科目であったと考えられる。「シラバス取組」については、他と比較して低い評点となった。初回講義時にシラバス内容については時間を割いて説明したものの、その後の講義時に改めて触れることは無かった。そのため、学生が初回から最終講義までを通じて、シラバス内容を意識して取り組むことには繋がりにくかったものと思われる。

学生の自由記載の内容を検討した結果

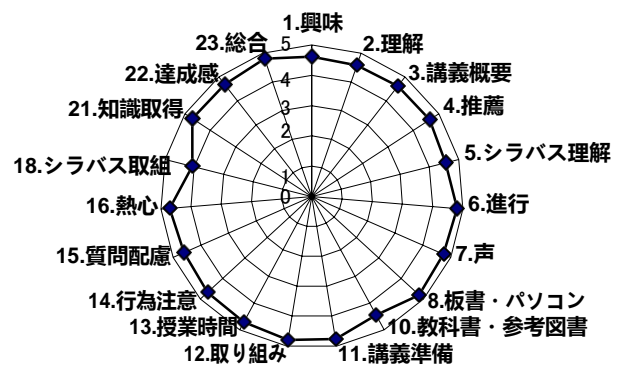
「わかりやすく楽しい授業だった」「レジュメがわかりやすかった」「具体的な例を出しての説明がわかりやすかった」などの肯定的な意見が多数であった。重要な点を明確にしたレジュメと、具体的に身振り手振りなども交えた説明が効果的であったと思われる。ただし、開講時間帯について「土曜日の午前中の時間帯だったため、参加するのが億劫に感じることがあった」とのコメントもあった。他に、「国試で出たところの情報をもっと欲しい」という意見もあった。

今後の改善に向けて

講義そのものについては、概ね満足が得られていたものと思われる。

国家試験の傾向を踏まえ、講義内容にアレンジを加えていきたい。学生満足度のさらなる向上のためには、学生がシラバス内容を意識して最後まで講義に臨めるよう、毎時間講義の開始時にシラバス内容も含めた各講義の全体の流れを説明することが必要であると思われる。また開講時間帯については学生の負担も踏まえ、可能な範囲で配慮ができればと考える。

平成 28 年度
発達障害作業評価学
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 作業治療学理論

□ 担当教員 港 美雪

□ 出席者数 29

㊦ 集計データ結果について

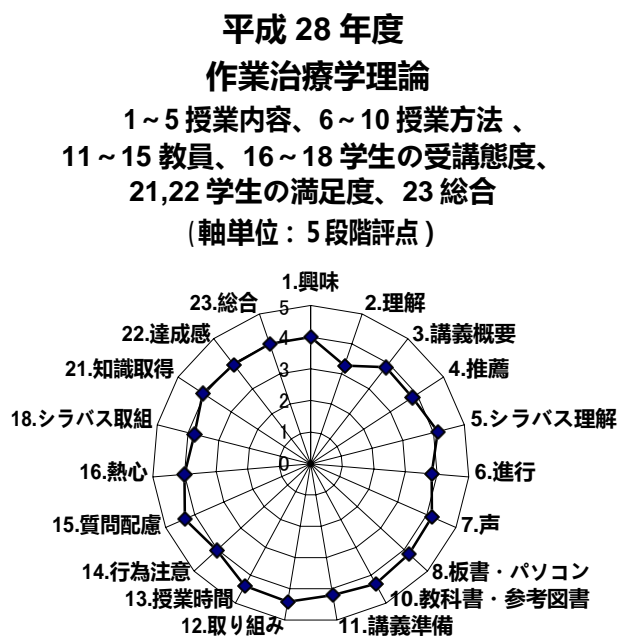
本講義の評価結果は、おおよそ「4」以上であった。内容の難しさの「理解」の項目は、他と比較し「4」以下の数値を示す結果となったが、「興味」「満足度」「達成」の項目の点数について、「4」を示す結果となり、難しく理解が困難な内容について、おおよそ関心と満足度は高く維持されていたことが考えられた。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

講義に対して、良かったこととして挙がっていた意見は、「理論のことを理解できた瞬間がとてうれしかったです」「理論的に作業を考えるという新しい視点で、作業を見つめ直すことで新たな視点を発見することが出来ました」「理論的思考が理解できた」と、理解が困難な内容でありながらも、理解を深めることを楽しみ、意欲的に取り組んでいたことが推測された。一方、改善すべき提案と考えられた意見に、「具体例とかやってくれたほうがわかりやすいと思う」という意見があった。理論的思考を具体的事例につなぐアクティブ・ラーニングを取り入れたが、このような意見があることは、理解を促すための学習後のフィードバックが十分にできていなかったことが原因として考えられる。

㊦ 今後の改善に向けて

今後の改善として、アクティブ・ラーニングを取り入れる際、取り組み後のフィードバックを丁寧に行うよう、方法の検討と、時間調整を十分に行っていききたい。



科目名 作業療法治療学実習

□ 担当教員 港 美雪・山下 英美・横山 剛・堀部 恭代・美和 千尋
加藤 真夕美・草川 裕也

□ 出席者数 28

集計データ結果について

すべての項目の平均が4~5点との評価を得た。また、「興味」の点数も高かったことから、本科目の時間に、学生が関心高く参加していたと考えられた。

学生の自由記載の内容を検討した結果

学生から、「分かりやすく実習で役立つものばかりでした。」と講義内容や方法について肯定的な意見が挙げられた。一方、「一週間ですべての単位を獲得するように組んであったので体調がすぐれない時、無理して登校しなくてはならなかった。」と、本科目の日程の設定について工夫を求める声があがった。日程の設定について検討する必要があると考えられた。

今後の改善に向けて

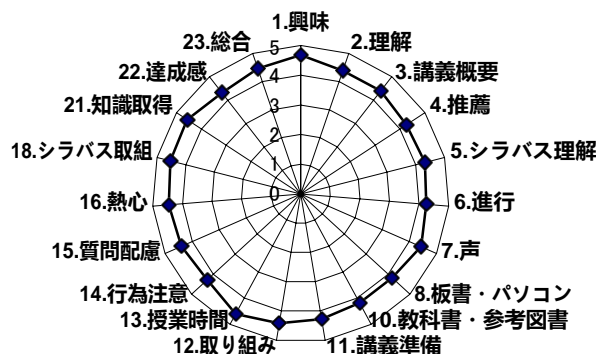
この科目は、学生が評価実習・総合実習へ向けてこれまで学んだ知識を復習、また統合し、自らの課題を明確にすることが目標の科目であり、作業療法教員が全員担当して実施した。学生は個々に、学んだことや今後の課題及び計画をレポートにするまで、積極的に参加をしていた。これまでの本実習の振り返りを踏まえた学生の必要性に合った学習内容であったことが、満足度の高さには反映されたと考えられる。今後の改善点の一つである日程設定についてはすでに検討され、次期カリキュラムに反映した。

平成 28 年度

作業療法治療学実習

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合

(軸単位：5段階評点)



科目名 身体障害作業治療学 I

□ 担当教員 草川 裕也

□ 出席者数 32

㊦ 集計データ結果について

総合的に良好な結果となったが、シラバスに記載されている目標や注意を意識できていなかったり、声が聞き取りにくかったりしたことにより、理解しにくかったという学生もいたため、改善していきたい。また、パワーポイントを使用した講義については、画像や動画を多く盛り込むことで、学習の補助となることを期待していたが、動画の処理がPC上でスムーズにいかず、見づらかったり、見づらい画像が用いられていたため、使用する画像・動画については再検討が必要であると考えている。受講態度として、あまり熱心に取り組まなかった学生がいたことは残念であるが、知識修得にあまり満足できなかったり、あまり達成感を得られなかったりする学生もいるため、内容については再検討が必要であると考えている。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

本講義では、教科書の内容について、実際の症例の画像や動画を用いて説明したり、グループワークを行ったりすることを主としてきたが、実際の症例を、画像や動画を用いて説明したことは良かったという意見が多い。ただし、上述のように、見づらかったという意見もあるため、使用するものをしっかりと再検討したい。また、本講義では、整形外科疾患の理解に不可欠である、解剖学的知識の確認を小テストとして行った。毎週行ったため、不満もあったのではないかと考えているが、復習を組み込んでいたこと、復習ができたことがよかったという意見もあったので、今後も小テストを継続していきたい。

一方、スライドとホワイトボードでの説明を多用したため、レジュメなどの配布資料がほしかったという意見が多い。資料の配布については事前にも考えていたが、配布するのか、記録を取る時間をしっかりと設けるのかを再度検討したい。また、声が聞きづらい、眠くなるといった感想もあるため、マイクの使用についても検討したい。

㊦ 今後の改善に向けて

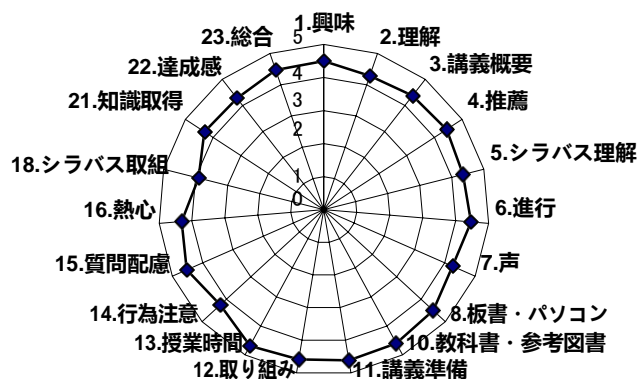
疾患や作業療法の理解の補助となるよう、今後も実際の画像や動画を用いた授業とする予定であるが、見栄えなどをしっかりと確認し、見やすいスライド作りをしていきたい。また、小テストについては、国家試験対策としても重要であるため、来年度も解剖学的情報に関する内容の復習を行っていきたい。資料の配布については、記録を取ることが難しいときなどに行うようにしたい。さらに、シラバスに記載されている目標や注意を意識してもらえるよう、毎回授業冒頭で説明するなどの工夫をしていきたい。

平成 28 年度

身体障害作業治療学 I

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合

(軸単位: 5段階評点)



科目名

身体障害作業治療学Ⅱ

□ 担当教員 加藤 真夕美

□ 出席者数 31

㊦ 集計データ結果について

すべての項目で平均 4 以上であり、おおむね学生にとって受け入れられる授業であったと言える。この授業で工夫したことは①わかりやすく、後に活用できるレジュメを作ること ②演習を取り入れること ③マスメディア情報を活用すること の 3 点であった。①については臨床実習や国家試験を念頭に置き、ポイントをわかりやすく示すことを意識した。②については紙面上の架空事例を提示し、PBL 方式で授業を展開した。同時に学生にはポートフォリオとして学習成果を蓄積してもらった。また③については関連する新聞の切り抜き記事を配布したり、各疾患のテレビ映像を供覧したりと、授業の理解を深めるための教材を準備した。これらの工夫が功を奏した結果と考えられる。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

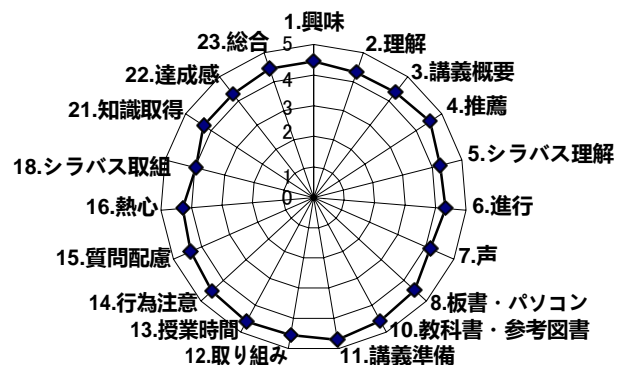
「わかりやすかった」「楽しかった」との意見が多数を占めた。具体的には「資料がわかりやすい」「授業のポイントがわかりやすい」「実習に必要な知識が身についた」「課題と学習内容が直結していた」「質問にちゃんと答えてくれた」ことが好意的に受け止められていた。

一方「声が小さく聞き取りにくい場面があった」「AV 機器のトラブルでは事前チェックが必要」との指摘があり、今後の課題を頂いた。

㊦ 今後の改善に向けて

資料や授業の進め方はおおよそ確立してきたので、更に工夫を重ね、わかりやすく興味を引き出す授業となるよう心掛けたい。声の大きさに関しては例年数名から指摘が挙がるため今年度はピンマイクを使用した。やはり 3 名から指摘が挙がった。特に後ろの席の学生からと思われるので、教室全体に声を届けられるよう立ち位置などを工夫したい。AV 機器については、担当学生への準備依頼をしっかりと行おうと思う。

平成 28 年度
身体障害作業治療学Ⅱ
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5 段階評点)



科目名

身体障害作業治療学実習

□ 担当教員 加藤 真夕美、草川 裕也

□ 出席者数 34

❖ 集計データ結果について

I 授業内容、II 授業の方法、III 授業担当者では声の大きさと板書以外の項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計が8割以上であり、おおむね学生のニーズに沿った授業が展開できたと考えている。声の大きさに関しては1割の学生が不満を提示しており、今後の課題である。

一方、IV 受講態度は、熱心に取り組み質問ができた学生が9割おり、双方向の授業となったと考えられるが、シラバスへの意識付けとは必ずしもリンクしていないらしいことも結果から明らかとなった。また、実技試験を必須とする科目にも関わらず、復習時間がまったくない学生が7名おり、多くが0~2時間の復習時間の中に分布していた。毎回の授業で予習復習の大切さを学生には伝えていたが、多くの学生には十分に切迫したものとして伝わっていなかったようである。

❖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

授業内容の理解しやすさに関して、「どちらかと言えばそう思う」、「どちらともいえない」が全体の6割以上を占めており、学生にとって難しい授業であったと思われるが、自由記載に書かれていた、「授業の展開の早さや実習時間が短い」という点も理解しづらさに影響していると考えられる。ただし、「質問をしやすかった」「プリントがあり分かりやすかった」という意見もあり、出来るだけ実習中に個別に対応し、技術の確認をしたり、配布資料で復習できるようにしたりすることが有効であると思われた。

一方、「2人の測定の仕方が違い困惑した」という意見もあり、教員間での測定手技に関する確認は必要である。

❖ 今後の改善に向けて

声の大きさに関しては、特に講堂での講義の際、マイクを適切に使用するように心がける。

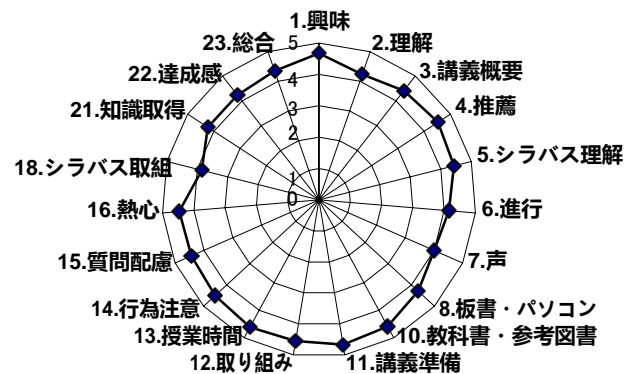
また、なぜ評価実技の修得が必要なのか、臨床実習や専門職としての意味づけを折に触れて、繰り返し学生には伝えていき、積極的に実技の実習を行う姿勢を引き出していきたい。さらに、実技の時間をできるだけ多く取れるように、授業中の説明内容や項目ごとの時間配分等を見直していきたい。

平成 28 年度

身体障害作業治療学実習

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合

(軸単位：5段階評点)



科目名 精神障害作業治療学

□ 担当教員 美和 千尋

□ 出席者数 29

集計データ結果について

全体的な評価は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であったため、授業は概ね学生の期待に添えたものであったと考える。また、理解や興味を持って学生が聴講していたと考える。

学生の自由記載の内容を検討した結果

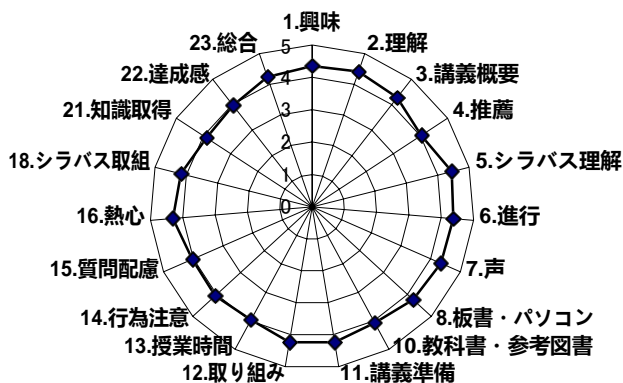
自由記載では「学籍番号順に、当てていくのは居眠り防止になってよかったです」「統合失調症などの臨床像がよくわかる授業だった」という良い点を評価した意見と「補足のプリントなどがあるとよりわかりやすかったです」「言いたくないことも言わされる」という意見があった。

今後の改善に向けて

以下の3点について今後働きかけたいと思っている。

- ・現在の授業形式を継続する。
- ・補足プリントを用意する。
- ・学生に対する質問事項は気をつける。

平成 28 年度
精神障害作業治療学
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名

精神障害作業治療学実習

□ 担当教員 港 美雪

□ 出席者数 29

✦ 集計データ結果について

本講義の評価結果は、おおよそ4～4.5を示した。「知識習得」「取組」がやや高かった。

✦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

講義への意見は、「実際に介入計画をして実践することができてよかったです」、「質問したら親身に説明してくれた」などが挙がり、学生が課題に取り組みながら、主体的に学ぶ経験をしてきたことが推測された。一方、「授業を進めるスピードが速い」「取り組むべき課題の内容をしっかりと伝えてほしかった」など、進め方に対して改善を求める意見を持ちながら、教員へ伝える機会を持てなかったことが推測された。

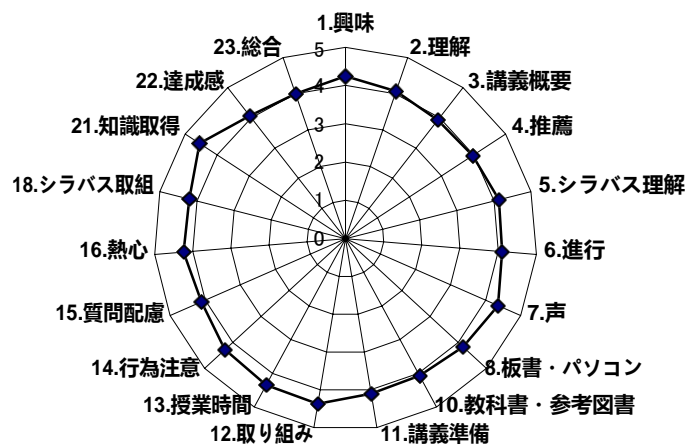
✦ 今後の改善に向けて

学生が精神障害を有する人の作業的なイメージがない中、主体的に取り組む実習にするために、十分に学生の進行状況について様子を観察し、学生が前向きな意見を教員へ出す機会を十分につくりながら本実習を進める必要があることが考えられた。

平成 28 年度

精神障害作業治療学実習

1～5 授業内容、6～10 授業方法、
11～15 教員、16～18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 発達障害作業治療学

□ 担当教員 五十嵐 剛

□ 出席者数 29

㊦ 集計データ結果について

全ての項目について平均 4.5 点付近の評価であり、概ね満足された授業であったと考えられる。他の項目と比較すると「15. 質問配慮」が若干低い評価であった。担当教員としては、毎回PBLの時間に机間指導するなど、質問しやすくなるような配慮を心掛けていた。学生側からの積極的な質問にも期待をしたい。

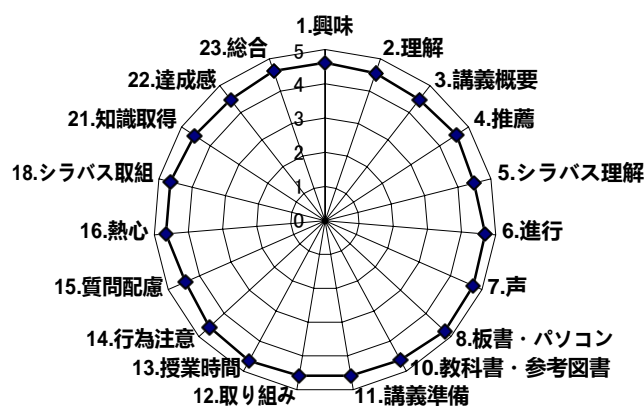
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

配布したプリントや DVD 等の教材について、肯定的な意見が挙げられていた。特に DVD 教材は、実際に自分の目で見て病態を学ぶ機会の少ない発達領域の疾患にとっては、効果的な学習であったと考えられる。また、毎回の PBL についても、学生が自分なりの発想で作業療法を考える機会となり、自ら考え学ぶことを促すことができたと考えられる。

㊦ 今後の改善に向けて

次年度は本講義は担当しないが、配布資料や DVD 教材、PBL の導入など、肯定的に捉えられていた手法については継続して実施したいと考える。

平成 28 年度
発達障害作業治療学
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5 段階評点)



科目名 発達障害作業治療学実習

□ 担当教員 横山 剛、山下 英美

□ 出席者数 29

㊦ 集計データ結果について

4～5点の範囲の点数であった。概ね問題はないと考えるが、保育園児と接する構造を持つ授業であり、その事ばかりがクローズアップされてそのことだけで自身の学習が進んでいると考えるような事態もあるかもしれないため、今後考慮が必要だと考える。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

保育園児と過ごす事ばかりに注意が向いている感があり、「園児と楽しく過ごせた」などがあり学生自身の学習内容とその到達度についての記載が少ない。担当教員のフィードバックの仕方が悪いかのような内容が点数あり、何かしら授業への理解に乏しさがあるよううかがえる。

実習の計画立案を学生に任せて行い、そのフィードバックを作業療法士としての視点で行なっていたが、その視点が受け取れず誹謗中傷のような意見を述べている学生が数名いると思われる。そのような学生に対しても配慮が今後必要であろう。

㊦ 今後の改善に向けて

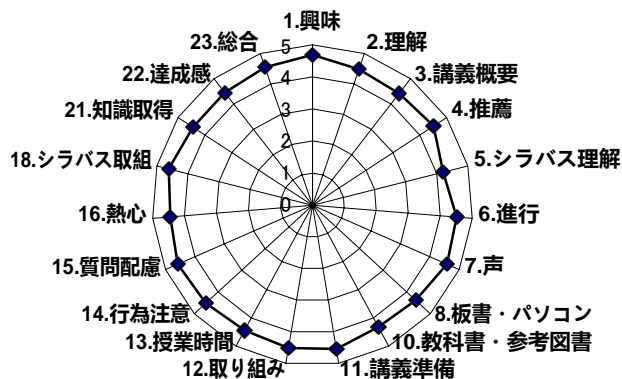
学生自身の課題に取り組む中での交流であることを学生自身が理解していないと、「楽しかった」などの感想にとどまるか、担当教員への誹謗中傷のような内容の自由記載となってしまうのであらうと考える。

そのためまず、作業療法士養成としての授業であることを学生に認識していただくガイダンスを設定する。さらに異世代交流（園児との交流）の意味を説明できるような授業計画として、人生の発達課題を、発達心理学的な内容の講義をする。それら一連の講義の中で、今後の臨床実習やセラピストとして歩む際の取り組みについて学生自身が考えていけるような指導教授を行う。

平成 28 年度

発達障害作業治療学実習

1～5 授業内容、6～10 授業方法、
11～15 教員、16～18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 老年期作業療法学

□ 担当教員 山下 英美

□ 出席者数 28

㊦ 集計データ結果について

全体的に3点台後半から4点台前半の評価となった。

項目別に見ると、「興味」「理解」の項目で75%の学生が、「そう思う・どちらかと言えばそう思う」と答えているのに対し、「知識修得」「達成感」の項目では、「どちらともいえない」と答えた学生が40%近いという結果となった。このことから、学生が主体的に学ぶという授業構造ではなかったのではないかと考えられる。

学習時間についても、予習を全くしていなかった学生が57%、復習を全くしなかった学生が60%となっており、学生への意識付けが不十分であったかもしれない。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

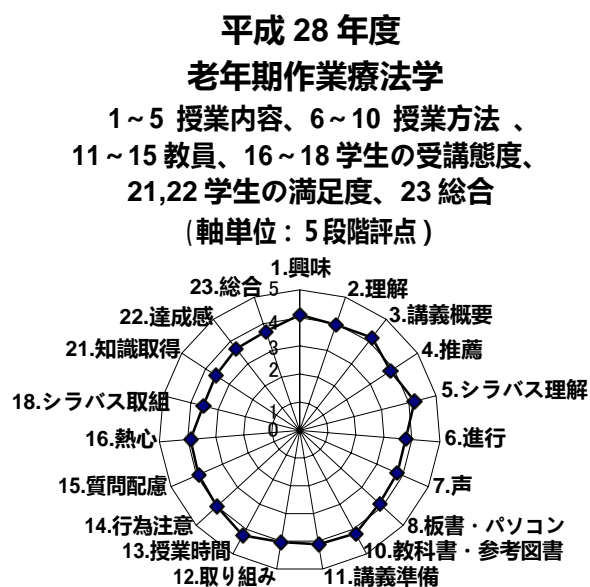
「老年期には、あまり興味が持てなかったのですが、少し興味を持てた気がします」といった記載や、「面白かった」「多くの事を学べて良かった」といった肯定的記載が複数みられ、「評価を経験できてよかった」

「質問にも答えてくれて良かった」といった、具体的な記載もあり、一定の評価はできると考える。一方「プリントが多く、いろいろなところに見る場所がとぶのでわからなくなってしまっていた」「重要箇所が空欄であったが、口頭のためメモできない」といった記載もあり、今後の課題となった。

㊦ 今後の改善に向けて

現在、老年期作業療法に関する情報は多くなっている（教科書として別冊になっていることも多い）中、購入してもらった教科書は1冊に絞り、こちらで複数の書籍からの情報をプリントで配布している。そのため、プリントが多くなることは仕方ないと考えているが、再度、分かりやすくする工夫をしていこうと考えている。

また、授業の中で検査の演習を行っているが、自由記載にもあったように、実際に経験することは有効である。来年度からは、これだけに留まらず、学生が主体的に学ぶアクティブ・ラーニングの要素を、他の部分にも取り入れていきたいと考えている。



科目名 日常生活作業学 I

□ 担当教員 美和 千尋

□ 出席者数 31

㊦ 集計データ結果について

全体的な評価は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であったため、授業は概ね学生の期待に添えたものであったと考える。また、昨年度より評価は良かった。ただ、評価の中で「シラバスを利用して行った」は低かった。

これらの理由は、教科書の重要なポイントを集中して行ったことと思われる。今回は教科書主体で、板書やパソコン機器の評価は高かった。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由欄の記述では、良い点だけ記載してあった。「分からない言葉などすぐに教えてもらった」「作業療法についての知識が学べて良かった」「教科書をちゃんと使って説明して下さった」「教科書とプリントを使って授業が進んでわかりやすかった」であった。

反面、2) 悪い点では「もう少し話し合いなどがあるといいと思った」が記述されていた。概ね、良い点の意見が多かった。

㊦ 今後の改善に向けて

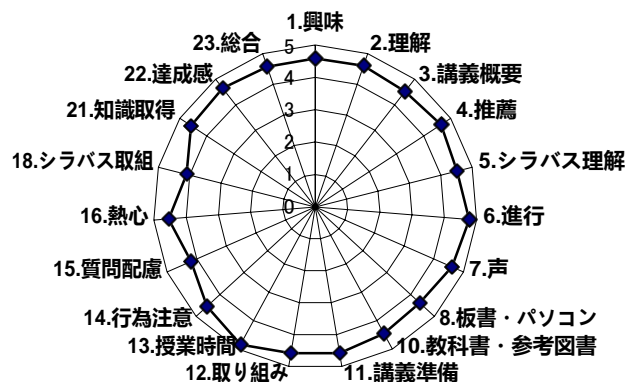
集計データと自由記載欄の事項を踏まえて、以下のような改善を行っていきたい。

- ・今後も指名して参加形式の授業が行う。
- ・グループ学習を取り入れる。
- ・興味がわくような話を提供したい。

平成 28 年度

日常生活作業学 I

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 日常生活作業学Ⅱ

□ 担当教員 堀部 恭代

□ 出席者数 31

集計データ結果について

概ね 4.5 平均の結果となった。本授業は事例検討を中心に進めていく内容で、現象の捉え方、解釈の仕方について強調して伝えた。答えがあるものではないため、教員に質問したり、学生間で話し合うことが重要になってくるのだが、前期の授業であったためか、質問が少なく、学生同士の話し合いも少ないように感じた。「理解」の項目の点数が低いのはこうしたことも要因と思われる。

学生の自由記載の内容を検討した結果

「作業療法プロセスが分かった」「はやく臨床に出たいと思った」「事例を用いたので理解しやすかった」などポジティブなフィードバックが多く見られた。その一方で「レポート課題が多すぎてテストどころじゃない」という意見も聞かれた。今年度より、テスト週間が取り入れられたこともあり、そうした配慮が不足していたように思う。

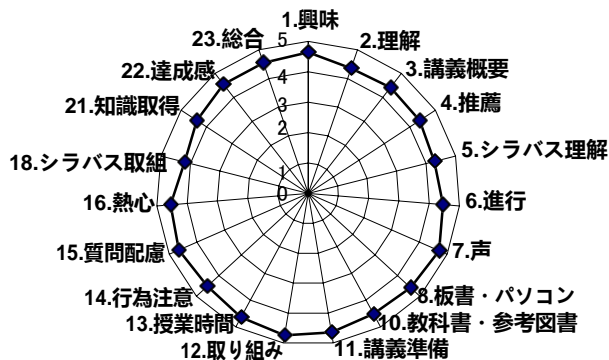
今後の改善に向けて

授業中に学生同士の話し合いの場を設けたり、指名して意見を答えてもらおうとしても、意見が深まらないように感じたため、授業の終わりにA5サイズの用紙に「学んだこと」「感想」を個別に記載し提出してもらったところ、個々の学生が様々な意見や感想を持っていることが分かった。3年ほど前からこのような形式で授業を進めているが、このようなタイプのクラスがはじめてであった。今後も、その集団の特徴をみながら、どのような方法が学生の考えを引き出す助けとなるのか考えながら講義を進めていきたい。

平成 28 年度

日常生活作業学Ⅱ

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 日常生活作業学実習

□ 担当教員 堀部 恭代

□ 出席者数 28

㊦ 集計データ結果について

数値を平均すると概ね 4.5 であった。本授業は 3 年生が演じる模擬事例に対して作業療法評価と治療プログラムの立案を実施しレポートにまとめるという体験をする。「理解」の数値がやや低い理由としては、はじめて模擬事例で評価・治療を体験しレポート作成を行なったために難しかったことが考えられる。また、「興味」の数値がやや高い理由としては、実践に近い経験を通して、実習や臨床のイメージが描けたことが考えられる。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

ポジティブなフィードバックとしては「質問しやすい」「質問に対する対応が早い」「実習や臨床に出る際の準備になった」等が挙げられた。一方ネガティブなフィードバックとしては「班員数の差があった」「時間が足りない」「レポート作成が大変であった」等が挙げられた。

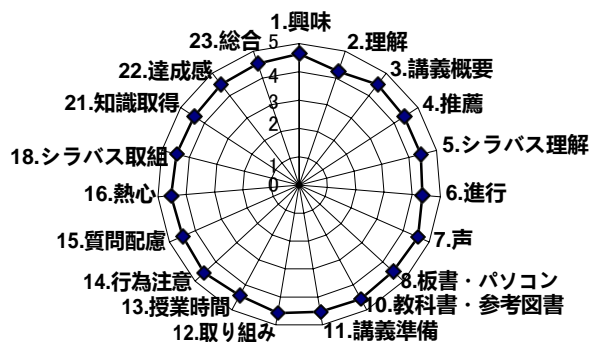
臨床実習では少ない時間の中で効率的に情報収集を行ない、レポートの作成を行なうことが求められる。授業のオリエンテーションの中で、そうした実習の状況について説明することが必要であると思われた。

また、少ない時間の中で効率的に進める方法を学生が個々に模索することの重要性を説明するとともに、学生自身が躓きやすい所を知り、その対策を模索することを促す仕掛けが必要であると思う。

㊦ 今後の改善に向けて

学生が作業療法プロセスを理解し実践する際に、学生自身がどこに躓きやすく、どのように対処するのが良さそうかを模索することは非常に重要であると考えられる。その為、来年度の授業では、授業の最後の時間に、学んだこと、分からなかったこと、分かるための対処について考える時間を設け、学生自身が主体的に授業に参加できる工夫を検討したいと思う。

平成 28 年度
日常生活作業学実習
1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合
(軸単位：5段階評点)



科目名 高次脳障害作業治療学

□ 担当教員 加藤 真夕美

□ 出席者数 28

㊦ 集計データ結果について

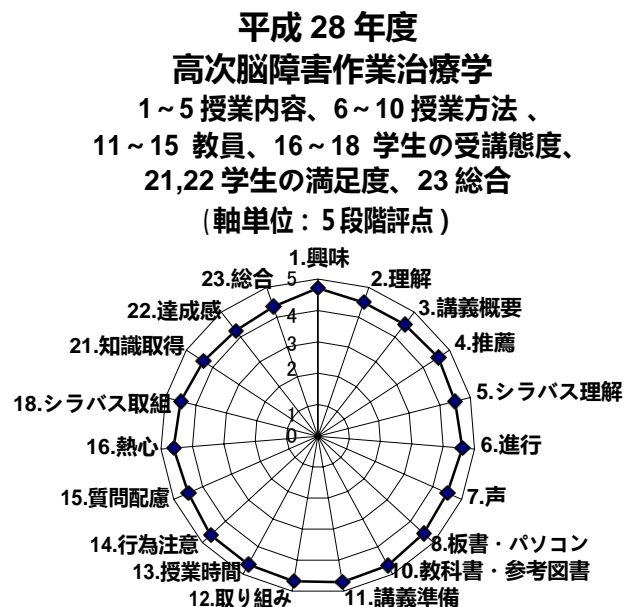
すべての項目で平均 4.5 点前後であり、バランスのとれた評価であった。本科目の担当は今年度が初めてであり、手探りしながらの30コマであった。授業準備や進行で工夫したことは、①わかりやすく、後に活用できるレジュメを作ること ②演習を取り入れること ③関連論文を学生一人一人に探してもらうこと の3点である。①については、臨床実習や国家試験を念頭に置き、ポイントをわかりやすく示すことを意識した。また②についても同様に、臨床実習や国家試験で体験を生かせるよう、できる限り多くの演習を限られた時間の中で盛り込んだ。その甲斐あってか「わかりにくい」と言われる高次脳機能の領域に多くの学生が興味を持ってくれたことは、嬉しい限りである。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

「授業の進み方、参考資料、レジュメがとてもわかりやすく、理解が深まった」「演習を交えての授業だったので少し眠気が飛びました」「内容は難しかったけど、やればやるほど細かくておもしろかった」「レジュメも講義内容も大変分かりやすく、身になる勉強ができました」「身障領域の勉強は苦手だと思っていましたが、とても面白かった」との好意的な回答があり、この分野への興味が深まった学生が複数いたようである。一方、「マイクを使っても離れているせいか聞き取れないことがあった」「とても内容が濃くて良かったのですが、もう少しペースを落としていただけると理解しやすかった」「ビデオなどがあれば見たかった」との意見もあり、次年度の反省材料となった。

㊦ 今後の改善に向けて

今年度の振り返りを行い、1コマごとの授業内容や量、進行ペースを見直しながら、よりよい授業を組み立てていく予定である。また関連する映像などを学生に紹介できるような準備を進めようと思う。



科目名 義肢装具作業療法学

□ 担当教員 草川 裕也

□ 出席者数 31

㊦ 集計データ結果について

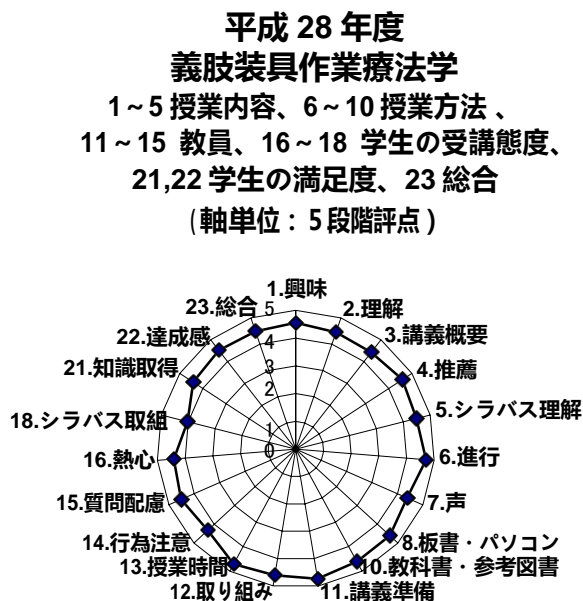
総合的に良好な結果となったが、シラバスに記載されている目標や注意を意識できていなかった学生、あまり熱心に取り組まなかった学生がおり、残念に思う。私語などへの対応があまり適切ではなかったという学生や、質問や意見を述べられるような環境ではなかったという学生もおり、改善が必要であると感じた。授業の進行や準備に関しては良かったという感想が多く、来年度も同様のペースで進行できれば良い。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

装具や義肢の実物に触れながら、実際に動かしながら学習してもらおう機会を設けたが、それについての反応がよかった。理解や興味を深めたという感想が多く、来年度も継続していきたい。また、グループワークが良かったという意見もいくつかあったため、今後も継続していきたい。ただし、講義で使用したスライドの画像が見つからなかったという意見があったため、使用する画像や動画について再検討していきたい。また、スライドを多用したことで、記録を取ることが大変であり、配布資料が欲しかったという意見があった。加えて、授業のポイントが分かりづらかったという意見もあったため、ポイントをより強調したり、記録が必要な箇所をできる限り説明したりするなど、進行方法について再検討したい。さらに、声が聞きづらかったという意見があるため、マイクの使用なども検討していきたい。

㊦ 今後の改善に向けて

グループワークにて、装具や義肢の実物に触れながら、使用してみながら学習してもらおうという形態は今後も継続していきたい。また、スライドにて、画像や動画を使用した講義も継続していきたい。ただし、上述のように、使用する画像や動画は、再チェックをして選定していきたい。重要なポイントなどが分かりづらかったという感想があったため、重要なポイントを強調したり、その部分は時間をかけたりの工夫をして、講義を進めていきたい。重要ポイントは、シラバスの目標等ともリンクする内容であるため、シラバスの内容確認と合わせて、意識できるように進めていきたい。



科目名 義肢装具作業療法学実習

□ 担当教員 草川 裕也

□ 出席者数 29

㊦ 集計データ結果について

総合的に良好な結果となったが、授業の内容についてあまり興味を持てなかったり、理解しにくかったり、シラバスに沿っていないと感じている学生がおり、内容については再検討が必要であると考え。この授業が「実習」であるにも拘らず、実習時間が少ないため、違和感を感じる学生がいるかもしれない。授業の進行については適切であったという回答が多いが、動画や画像、教科書の使用を適切でないと感じた学生もおり、資料の作成についても検討が必要である。知識修得にあまり満足できなかったり、あまり達成感を得られなかったりする学生もいるため、内容については再検討が必要であると考え。

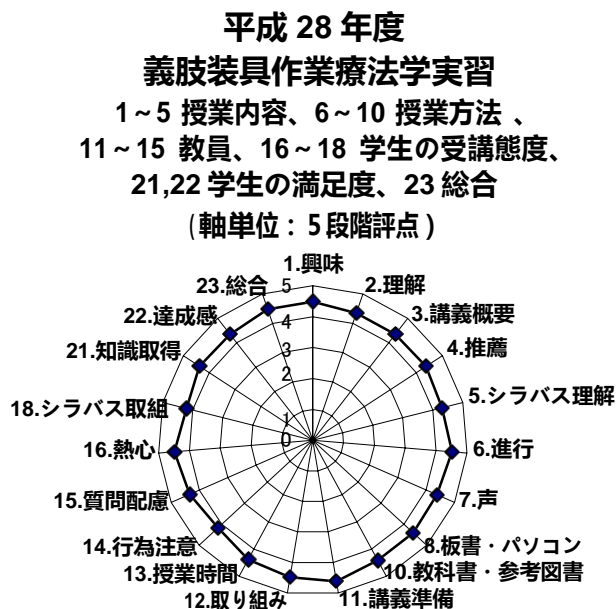
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

装具を作るという体験がよかったという意見は多い。装具を実際に作ることが、名称を覚えたり、利点・欠点などを理解したりすることのきっかけとなるため、装具製作は今後も継続していきたい。装具の製作については、説明が大雑把であったという感想もあるため、製作時の説明を工夫する必要がある。小テストが難しかったという感想があったが、本講義で行った小テストは、難易度が高かったと思う。小テスト内容については再検討が必要であると考え。

㊦ 今後の改善に向けて

昨年度と同様、装具製作実習についての反応はよく、可能であるならば、製作実習の時間を増やしたいが、製作のためには材料費が必要となるため、現状においては難しい。ただし、昨年度より、アルミホイルを用いた模擬的装具製作を行っている。実際の装具とは大きく異なるため、達成感は得られにくいかもしれないが、装具の機能などを考えながら、製作していくことになるため、今後も導入していきたい。アルミホイルを使用した製作実習をもう少し増やすことができないか検討していきたい。本講義を二年担当し、装具製作実習において、学生が戸惑う箇所が絞られてきたため、製作時の説明については、ポイントを絞って、しっかりと説明できるように準備をしていきたい。

実習科目であるため、実習の時間を少しでも多く確保できるように、講義科目である「義肢装具作業療法学」の内容と本講義の内容を見直し、効果的な義肢装具の授業を構築していきたい。



科目名 作業科学

□ 担当教員 港 美雪

□ 出席者数 40

㊦ 集計データ結果について

本講義は、3年次の実習後の講義でもあり、作業療法実践の課題からはじまり、英語の研究論文の検索、内容を実践の課題に活かすという流れで構成されており、比較的難しい内容であった。評価結果は、おおよそ「4」であったが、「理解」がやや低かった。

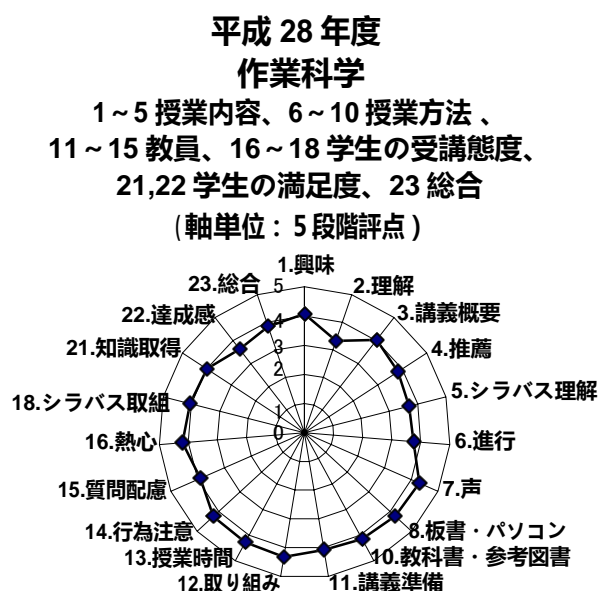
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

講義に対する肯定的な意見として、「英語の論文を抄読する機会が貴重な経験になりました。」「授業内容は難しかったが、先生に気軽に質問できる環境が整っていてよかった。」「視野、視点が広がるよい機会」「内容深い授業だった」「先生が講義に熱意をもって取り組んでいた」など、臨床実習を終えた学生にとって、学びが良かった内容であったと思われる。しかし一方で、改善を求める声として「実習前に学んでおきたかった内容でした。」「興味深い授業ですが、この時期に英語の論文をやるのは為にならないと思います。」など、例えば2年次に取り入れることや時期を考慮することへの希望があがった。

㊦ 今後の改善に向けて

本講義において、学生は英語の論文から得た知識を実践へとつなぐ経験をした。内容は学生にとって関心の高いものであったと思われたが、国家試験に向けた学習だけでなく、卒業論文を終えていない学生もおり、講義に対する心の準備に困難のある学生がいたことが考えられた。

今後は、卒業論文を早い時期に終えるような配慮や計画が専攻として検討する必要があることが考えられた。



科目名 人間作業モデル論

□ 担当教員 美和 千尋

□ 出席者数 41

㊦ 集計データ結果について

全体的な評価は「知識取得」「達成感」が④以下であったが、他は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であった。授業は概ね学生の期待に添えたものであったと考える。「知識取得」「達成感」が低かったのは、やや理論で難解であったと考える。

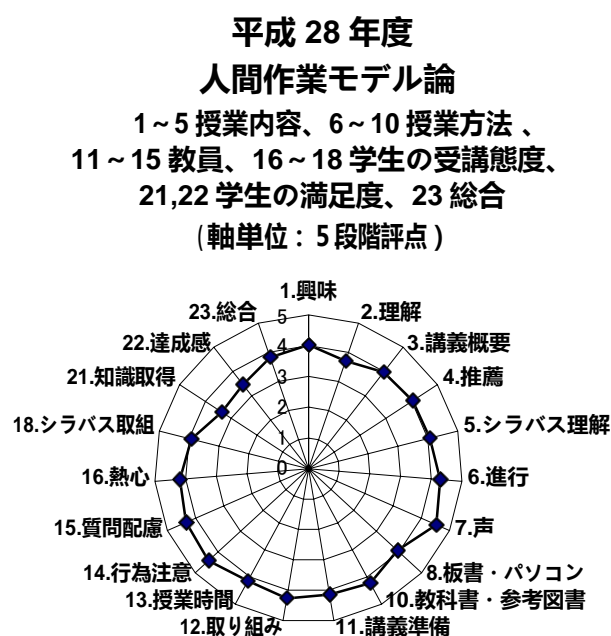
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由欄の記述では、良い点として「臨床についての話を聞くことができたので、ためになり、よかったです」「国試対策にもなり、とてもよかったです」などで、悪い点として「配布されたパワーポイントの資料が黒くて字が見れなかった」「教科書の利用方法を知りたかった」が挙げられていた。

㊦ 今後の改善に向けて

集計データと自由記載欄の事項を踏まえて、以下のような改善を行っていきたい。

- ・スライド資料を作り直して分かりやすくする。
- ・教科書をもう少し使用して役に立てるようにする。



科目名 リハビリテーション関連機器

□ 担当教員 堀部 恭代

□ 出席者数 31

㊦ 集計データ結果について

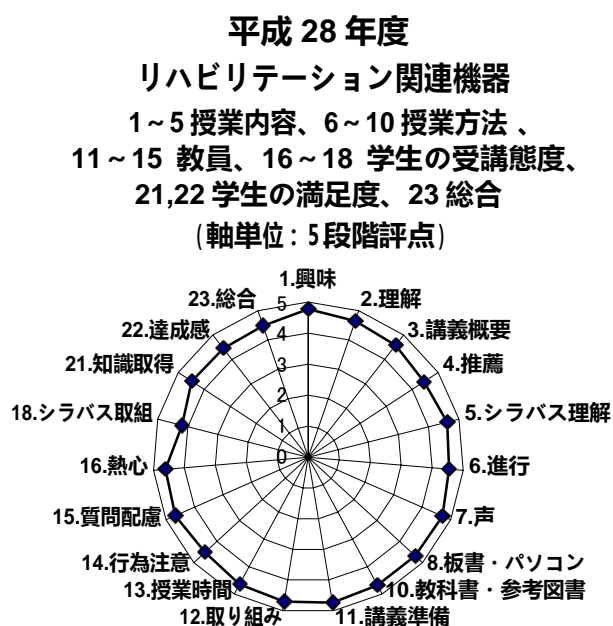
平均して 4.5 以上の評価であった。その中で「シラバス取り組み」が 4 点と低いのは、学生の理解度に合わせ、授業内容を変更したためと思われる。授業の内容を、学生の理解度に合わせて変更することは必要であると思うが、余裕をもった授業計画や予め変更があることを、学生たちに伝える等の配慮が必要であると思った。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

「自主的に質問すると丁寧に答えてもらった」「グループで学ぶことでさらに学びが深まった」「毎回、新しいことを学べたという実感があった」「質問しやすい環境で良かった」など、ポジティブなフィードバックが多く見られた。反面、「レポートが大変だった」「レポートの点数の付け方に不満がある」という意見が聞かれた。レポートの配点、加点/減点ポイントについては書面にして学生に配布したが、大まかであったかもしれない。ルーブリック方式の採点方法を取り入れるなど、配慮が必要であると思った。

㊦ 今後の改善に向けて

今回初めて、事前にレポート課題の配点と加点/減点ポイントを明記した用紙を配布したが、反対に「レポートの点数の付け方に不満がある」との意見をもらった。これは、ある程度、評価ポイントが分かったが、細かい評価ポイントまでは分からず、学生が納得できなかったと考える。次年度は、ルーブリック方式の採点方法を取り入れ、厳密に評価ポイントを示したいと思う。



科目名 地域作業療法学

□ 担当教員 山下 英美

□ 出席者数 33

❖ 集計データ結果について

概ね 4 点程度であったが、3 点台の項目も多く、改善の必要性の高い結果となった。授業の方法に関しては 4 点前後であったが、授業の内容（興味・理解・推薦）、質問配慮、満足度（知識習得・達成感）の得点が 3 点台後半となった。授業の内容に関して、あまり興味を持てなかった学生や、理解しにくいと感じた学生が複数存在しており、また、質問・意見がし難いと感じた学生も複数みられた。これらのことが影響し、知識習得の満足度があまり高くなかったり、達成感のあまり高くなかった学生が存在したことが考えられる。

❖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

5 限目の授業であったため、授業開始時に、早めに終わると言いながら、終われないことが多く、「終わると言って終わらなかったのは、期待させているだけで、集中力をそいでしまう」といった記載が複数あり、逆効果であったと反省している。

また、「気になくなくてもいいところも突っ込んで授業が中断した」や、「質問した人に対して、一言二言余分な態度・対応をしていて質問がしにくかった」といった記載も複数あり、これも逆効果であったと反省している。このような、授業内容とは直接関係ない、教員側の発言・態度の面に対する意見が多くあった。

一方、授業内容に関しては、「教科書に沿って講義が行われたのでよかった」「重要なところは分かりやすく、おもしろかった」といった記載や、グループでの発表に関して、「学習した内容を、最終的にグループでまとめて発表することで、よりいっそうの理解を深めることにつながると感じた」といった記載もみられた。

❖ 今後の改善に向けて

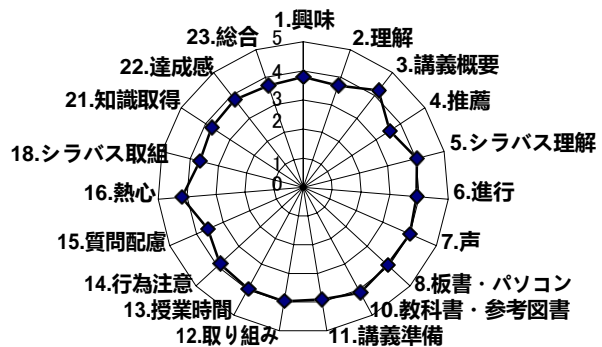
今年度から担当した科目であり、授業内容に関しては、より多くの学生の興味を引く内容を取り上げ、理解が深まる工夫をしていく余地があると考えている。また、今回のアンケート結果から、質問・意見がし難いと感じた学生の理由が、自身の予測していたことと異なっていた

ため、今後は、良かれと思って行ったことや無意識に行っていたことも含め、学生に受け入れられやすい発言・態度を心がけようと考えている。

平成 28 年度 地域作業療法学

1~5 授業内容、6~10 授業方法、
11~15 教員、16~18 学生の受講態度、
21,22 学生の満足度、23 総合

(軸単位：5段階評点)



科目名 地域作業療法学実習

□ 担当教員 山下 英美

□ 出席者数 28

㊦ 集計データ結果について

すべての項目が4点～5点となり、バランスもとれており、良い評価が得られた。実習科目でもあり、学生自身が興味を持って取り組み、達成感も得やすかった事が要因として考えられる。また、今年度から、レクリエーションの実習先を隣接のデイケアセンターに変更し、事前に見学の機会を持つことができたため、以下の自由記載にもあるように、学生自身が対象者や実施場所をイメージしやすくなり、計画立案が行いやすく、実施の際の不安軽減にも繋がったためだと考えられる。

㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

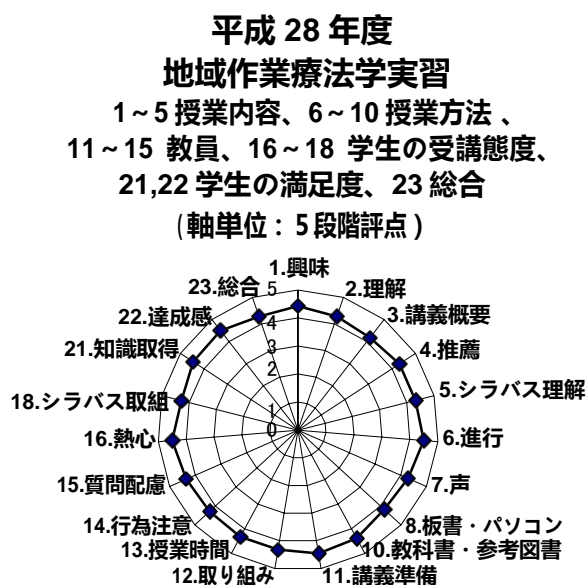
「実際にレクリエーションを行わせていただいたことで、リスク管理が大切なことや、座学では学べないことをたくさん学ぶことができました」というように、到達目標が達成できたと思われる記載が多くあった。また「実習に向けて良い経験ができた」「今後の自分の力になった」といった記載もあり、この科目での経験が次に繋がると感じることができた学生も複数名いたことは、ある程度の評価ができると思う。前述したように、実習先の変更に伴い、「先に利用者の情報を聞けるのが、計画を立てやすくて良かった」

「事前の実習する場を見ることができたのは良かった」等、実習前に見学の機会を持てたことが良かったとの声があり、実習先の変更は、結果として良かったと考える。

しかし「情報を生徒に渡すのが少し遅いと思う」「情報に足りない点があり、訂正する時にはもう遅かったり、ギリギリであった」という記載もあり、今後の課題も残った。

㊦ 今後の改善に向けて

実習先の変更および事前の見学は、今年度初めての試みであったが、学生から高評価であり、到達目標の達成にも繋がったと考えられるため、来年度もこのスタイルで行きたいと考えている。しかし、自由記載にもあったとおり、今年度は情報伝達の遅れが起きてしまったことも事実であり、来年度はデイケアセンターの職員の方々との連携をさらに密にとり、学生への周知のタイミングも早め、より効果的な実習ができるよう、取り組んでいきたい。



科目名 就労支援学

□ 担当教員 港 美雪

□ 出席者数 40

㊦ 集計データ結果について

本講義は、障害を有する人の就労の現状と支援に関する現状と課題について講義で取り上げた上で、将来的に作業療法士がどのような理論や手段によって就労支援を実施できるのかを議論しながら学習を進めた。また国家試験の出題傾向と出題範囲に基づいた問題を取り上げた。本講義の評価結果は、おおよそ4であったが、「理解」と「達成」がやや低かった。

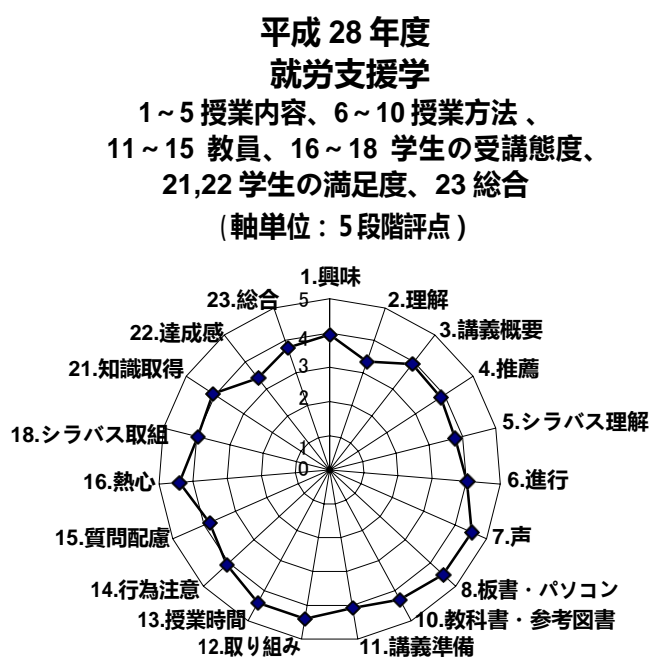
㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

講義に対する肯定的な意見としては、「自分で調べるため、頭に残りやすくて良かった。」「学生の意見も取り入れながら授業を行っていてとてもよかった。」「国試問題配布や普段読まない文献を通しての勉強はとてもよかった。」「様々な意見の交換を通して得た考え方や知識を役立てていきたい」「作業や就労と健康は関係しているのだということを改めて知ることが出来、今後もこの授業を通して学んだことを忘れることなく患者様のために行動をすることができる作業療法士になりたい」など前向きな意見が挙げられた。

改善の必要として挙げられた意見として、「実習前にやると、実習に活かせるのではないかと感じた。」などが挙げられた。また、学生が本講義を通して抱いた作業療法の展望として「就労に対してOTの必要性を知ることができた」、就労支援という新たなOTの就職先を開拓することについて「リーダーになることで、OTの専門性を活かすことやOTの必要性が増すと思いました。」等の意見が挙がり、未開拓の作業療法士の就労支援に展望を抱くことができたことは、学習成果の重要な側面であると考えられた。

㊦ 今後の改善に向けて

主体的な学習が可能となるよう講義を組み立てた本講義において、主体的な学習から学びを深め、前向きな議論や思考、そして未来に展望を持つことにつながった学生が多かった。しかし一方で、一部の学生については十分な参加に導くことができなかった。このことを踏まえた対策を学生と共に検討する時間をつくる必要があると思われた。また、本講義を実習前の2年次に取り入れることも検討する必要があると思われる。



編集委員

舟橋 啓臣 (FD&SD委員会委員長)
鳥居 昭久 (FD&SD委員会)
港 美雪 (FD&SD委員会)
堀部 恭代 (FD&SD委員会)
清島 大資 (FD&SD委員会)
臼井 晴信 (FD&SD委員会)
田原 靖子 (FD&SD委員会)
松浦 智美 (FD&SD委員会)

2016 年度 授業評価レポート

発行日 平成 29 年 5 月 31 日
発行者 学校法人 佑愛学園
愛知医療学院短期大学
〒452-0931 愛知県清須市一場 519
TEL 052-409-3311
<http://www.yuai.ac.jp>